

ISSN 0917-5695

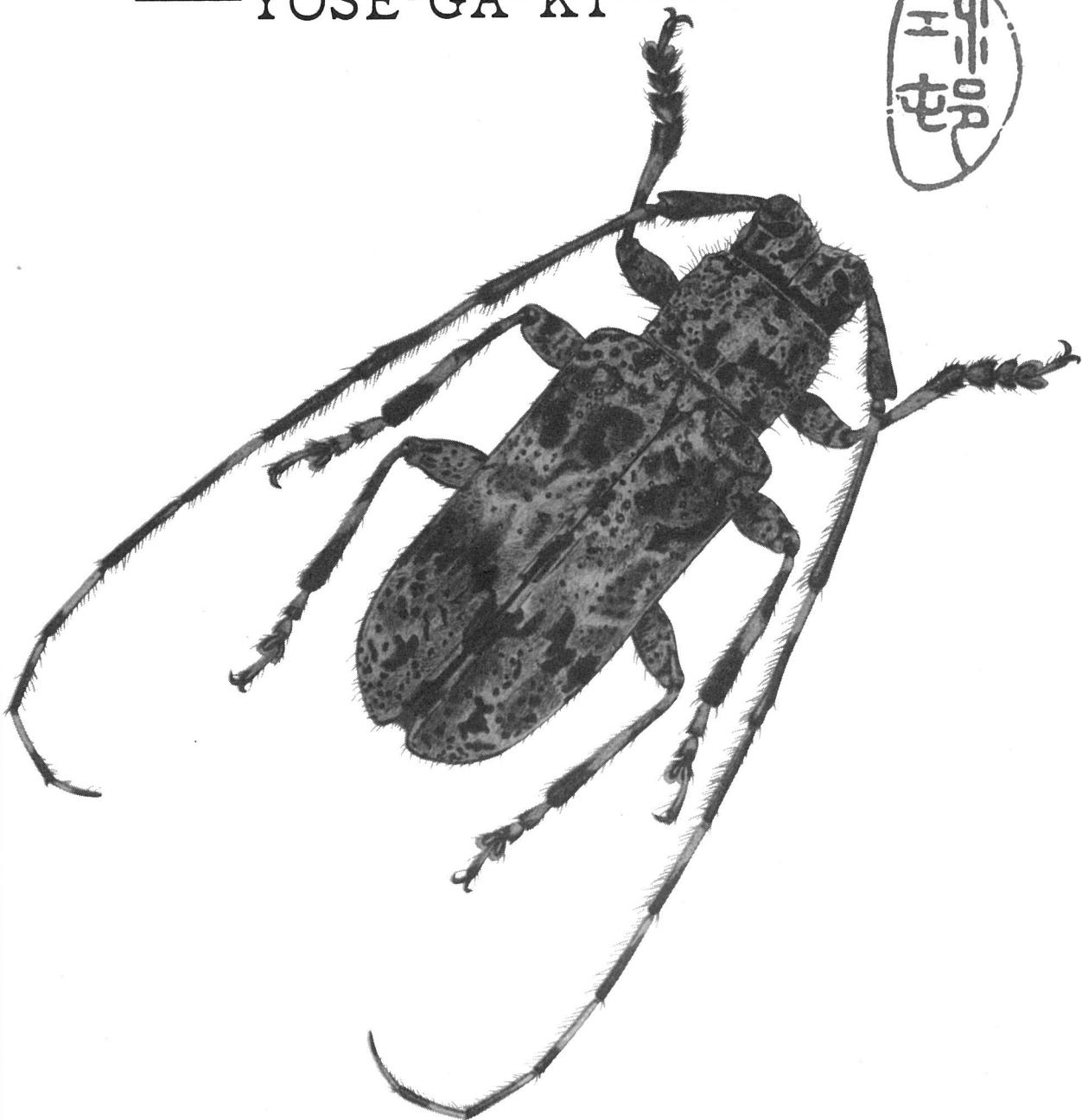
1994年3月30日 発行

埼玉昆虫談話会

寄々蛾記

No. 71

— YOSE-GA-KI —



表紙の絵 マツノマダラカミキリ

細密画原画 小田 博
表紙デザイン 小堀 文彦

続 狹山丘陵のオオムラサキ

中川 利勝

はじめに

「狭山丘陵のオオムラサキ」という表題で、1990年度の調査観察例を報告してから、すでに数年を経た。かつては、歳月をとらえる単位として、十年一昔というのが一般的であったが、時流の変化の激しい昨今では、五年一昔というのが、時代を区切る単位としてふさわしくなってきている。それほど、社会の変化も、環境の変化も、目を瞠るほど早くなっているのであろう。その意味では、筆者がオオムラサキの生息確認調査を行ってから、4年目を迎えるようとしている狭山丘陵についても、当時と比べると、生息状況も、それを取り巻く環境も、様変わりしている部分が少なくない。これらの点から考えてみても、確認調査に関しては、単年度にとどまらず、継続的調査が必要とされるのも、至極当然なことである。もとより筆者自身も、かねてから狭山丘陵の蝶類については、可能な範囲で、機会を見つけては、調査観察を行うように心がけている。狭山丘陵のオオムラサキに関する限り、前回の報告後、新たに数例の確認記録を得た。本稿では、それら知見の報告とあわせて、「狭山丘陵のオオムラサキ」を取り上げなかつた部分についても触れてみたいと思う。

1 狹山湖のオオムラサキ

狭山丘陵のオオムラサキについて、筆者が初めて関心をもったのは、1956年に出版された、京浜昆蟲同好会編の「関東地方蝶類採集案内」を目にした頃であったかと思う。筆者の記憶違いでなければ、当時の古い文献には、狭山湖の他、浦和市土合周辺も、ミドリシジミの採集地として取り上げられていたように思う。1960年代初頭の関東周辺部のオオムラサキの生息する里山の自然環境というのは、まだ、現在ほどの潰滅的な打撃は受けではない。何しろ、平野部の浦和市内荒川河川敷においても、まだオオムラサキが健在であった時代である。一当時、筆者の周辺では、「田島ヶ原のオオムラサキ」という言い方をしていた。30余年を経た現在、浦和市内荒川河川敷の秋ヶ瀬では、ミドリシジミはまだ見られるものの、残念なことに、オオムラサキは姿を消してしまっている。

狭山丘陵周辺部はもともと、川口・浦和周辺の昆虫愛好家が立ち寄る頻度の高い地域である。川

口・浦和等県南のアマチュアなら、多分、心あたりがあろうかと思うが、中央自動車道や甲州街道を使って、車で山梨・長野方面へ出るには、所沢市や瑞穂町付近を経由して、八王子へ入るのが、ごく一般的なコースだからである。復路は勿論、この逆コースをとることになる。必然的に、狭山湖周辺の蝶類の情報というのも、耳にする機会が多い訳で、1970年以前の狭山丘陵のオオムラサキの情報というのも、虫屋を介してのものが多かった。ただ、当時から目撃される個体数というものは、山梨県長坂町のように多産しているというほどのものではなかった。それでも、目撃の情報などからみると、狭山湖の東側地域を含め、現在よりは、かなり広範囲にわたり、高密度で見られたようで、生息地の環境がまだよく保たれていたことが窺い知れる。古い知見も含めると、東京都側では、西多摩郡瑞穂町をはじめ、武藏村山市、東大和市、東村山市、埼玉側では、入間市と所沢市というように丘陵全域に、記録が見い出される。

1970年以降は、周知のように、相次ぐ開発による生息環境の悪化により、数を減らしつつあり、現在では、最後の砦である狭山湖の西側を中心に、ほぼそそと発生を繰り返しているにすぎない。

2 開発の歴史

狭山丘陵は、東京・埼玉にまたがる5市1町（武藏村山市、東大和市、東村山市、所沢市、入間市および西多摩郡瑞穂町）、東西11km、南北4kmにおよぶ面積3500haの丘陵である。

大正から昭和にかけて、東京市は上水道水源として、宅部、勝楽寺、縄竹等の村々を水没させて、村山貯水池（多摩湖）、つづいて山口貯水池（狭山湖）の人造湖を完成させたが、狭山丘陵は、これら二つの湖を取り巻く丘陵地全体を指している。現在、その多くは、東京都水道局用地（水源涵養林）として、立ち入り禁止区域が設けられ、森林が保護された形となっている—実際に出掛けみると、よくわかるのだが、鉄柵が張りめぐらされており、林内には立ち入りできないことになっている箇所が多い。

但し、丘陵東部地域にあっては、1960年代後半までは西武系レジャー開発、1960年代後半からは宅地開発が始まり、埼玉県側（ここでは所沢市）では、1970年代後半まで宅地開発が続いたとされる。

1980年代後半からは、早稲田大学のキャンパス誘致をはじめ、再び各地で、小規模開発が始まっ

ている。

これらの相次ぐ開発により、狭山丘陵は、東側を中心に1/3がすでに開発されたともいわれ、現在では、二つの湖を取り巻く2000haの森林を残すのみとなっている。

これら開発ラッシュの中にあって、丘陵を乱開発から守る市民運動も各地でおこってきている。主なものとしては、「狭山丘陵を市民の森にする会」等が中心となって運動をおこし、「雑木林博物館構想」といった保全案を提案した例や、「狭山丘陵の自然と文化財を考える連絡会議」他による、ナショナルトラスト運動の展開などが記憶に新しい。

いずれにしても、今日の首都圏の開発ラッシュには、目をおおいたくなるものがあり、狭山丘陵もその例外ではなく、環境的に厳しい現状を指摘する声もある。筆者も、その限りにおいては、決して現状を楽観視するものではない。しかしながら、地理的に、都心から半径わずか40kmに位置しながらも、まだまだこれだけ豊富な動植物、自然環境が残されているということも、疑うべくもない事実であり、積極的に評価せねばならないであろう。都市近郊に位置していることを考えあわせると、開発をうけながらも、なおこれだけの森林が残されていること自体、奇跡としか言いようがない。今後は、これらの残された環境を、どう開発から守り維持していくかが、重要な課題となろう。

3 狹山丘陵におけるオオムラサキの記録地

1990年度の筆者における狭山丘陵でのオオムラサキ確認記録については、寄せ蛾記64号において、すでに報告した。ここでは、1991年以降の確認記録について報告する。

[1991年 オオムラサキ記録地]

1 ex. (目撃) 埼玉県所沢市堀之内

3.Aug. 1991

1991年度は、特にオオムラサキを対象とした調査は行っていないが、7月6日、8月3日・24日の計3日、オオムラサキの出現期に狭山湖の北側、所沢市堀之内を訪れている。このうち、8月3日の午後、林縁を飛翔中の個体を目撃している。

1992年度は、成虫の出現期に時間がとれず、7月4日に所沢市堀之内を訪れたのみであり、成虫の確認には至っていない。

[1993年 オオムラサキ記録地]

1♂ (目撃) 東京都西多摩郡瑞穂町石畑

7.Aug. 1993

1♂ 東京都西多摩郡瑞穂町高根

7.Aug. 1993 —採集確認後放蝶—

1♀ 東京都西多摩郡瑞穂町高根

7.Aug. 1993

1993年度は、7月3日・10日・15日・8月7日の計4日間の確認調査を行ったが、終日費やすこ

とができず、午後からの調査が多くなり、充分な調査が行われたとは言いがたい。また、天候不順(冷夏)の上、雨天に泣かされることも多く、満足のいく成果は得られなかった。1993年度の主たる有視界調査地点は、東京都は西多摩郡瑞穂町、武藏村山市、埼玉県は所沢市三ヶ島・堀之内及び同市勝楽寺にかけての地域である。

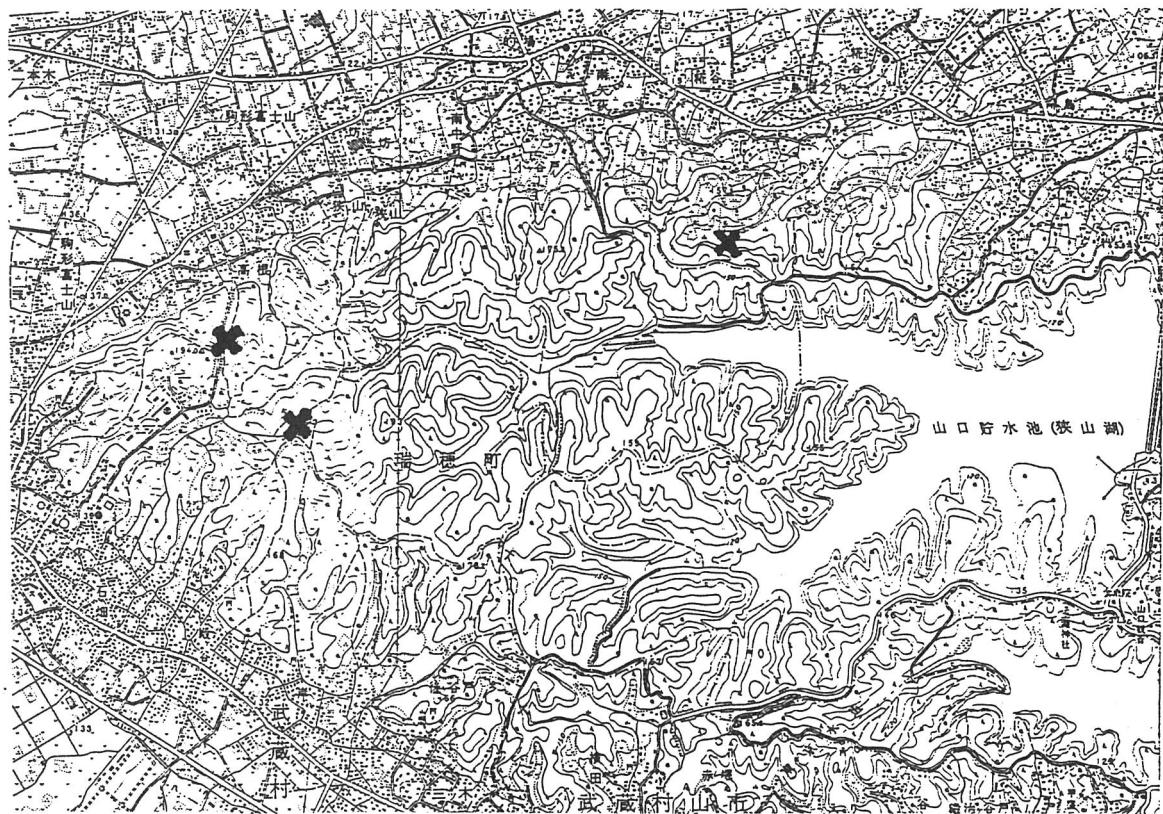
「狭山丘陵のオオムラサキ」でも既に触れたが、現在、オオムラサキの目撃頻度の高い地域は、狭山湖の西側を中心とした地域である。東京都側は、西多摩郡瑞穂町、武藏村山市、埼玉県側は、入間市宮寺等がこれにあたる。1991年には、所沢市堀之内で、1ex.を確認(目撃)してはいるが、早稲田大学所沢キャンパス進出の影響を受ける三ヶ島・堀之内地区は、オオムラサキの生息環境としては、瑞穂町、武藏村山市周辺と比べると、適しているとは言いがたい。例えば、自然環境が、比較的良好に保たれている地域に多いとされるヒヨウモン類についてみた場合、狭山湖北側の所沢市三ヶ島・堀之内周辺と、西側の武藏村山市三ツ木周辺とを比べてみると、ミドリヒヨウモン、クモガタヒヨウモン、オオウラギンスジヒヨウモンをはじめ、一般に、種類、個体数(註)とも丘陵西側に位置する武藏村山市の方が多い。ヒヨウモン類だけを例にとって、オオムラサキの生息環境を慮るのは危険ではあるが、生息環境の良否、あるいは自然度を評価する一つの材料にはなろう。事実、筆者の調査に限ってみても、所沢市勝楽寺を含め、オオムラサキの記録地は、いずれも狭山湖西側に集中している。

他方、これに反して、狭山湖の北側、所沢市堀之内周辺でも、オオムラサキの増加傾向が見られるという話がある。1991年に、狭山丘陵の北側で飼育材料として、毎年幼虫採集をしているというアマチュアから得た情報がそれである。秋期に幼虫採集をしているが、ここ数年(1991年当時)、採集する幼虫の個体数が、総数として増えてきたという。ただ、筆者に言わせると、越冬幼虫の個体数の把握のみ(しかも、採集地においては、特定木に限られる)で、成虫全体の増減を特定するのは無理がある。また、これをもって、丘陵全域に当てはめて、個体数が増加傾向にあるというのも、現状をみた場合、とても言えない。

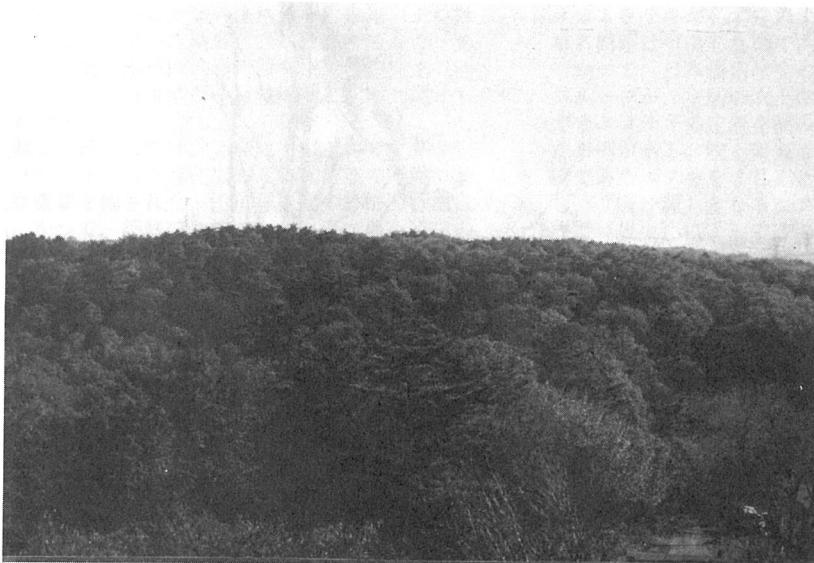
この他、1990年調査時には、オオムラサキの目撃情報を集めるため、瑞穂町や、武藏村山市の狭山丘陵で、地元の昆虫少年にも、オオムラサキ目撃に関する情報を提供して貰った。オオムラサキを知っている少年達の間でも、「見かけない」との回答がほとんどであった。その中で、「最近はないものの、以前は、石畑公園でも見られた」との情報もあった。かつては、東村山市や、丘陵東側の所沢市荒幡地区でもオオムラサキが見られたともいう。因に、筆者は、1991年に東大和市から東村山市にかけて歩いて見たが、現在は西武系レジャー施設をはじめ、整備開発が進みすぎており、オオムラサキの生息環境としては、もはや適しているとは言いがたい状況であった。いずれにしても、かつては、

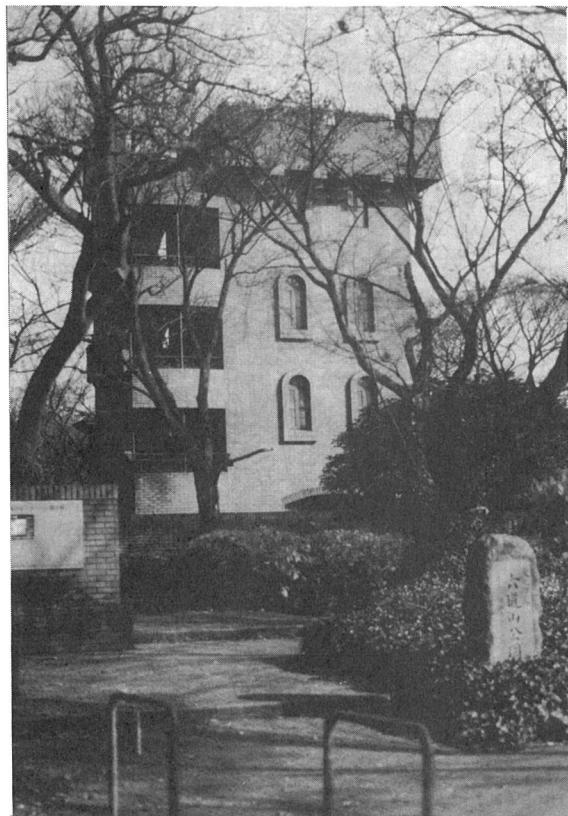
1994年3月

寄せ蛾記 (71) : 1617

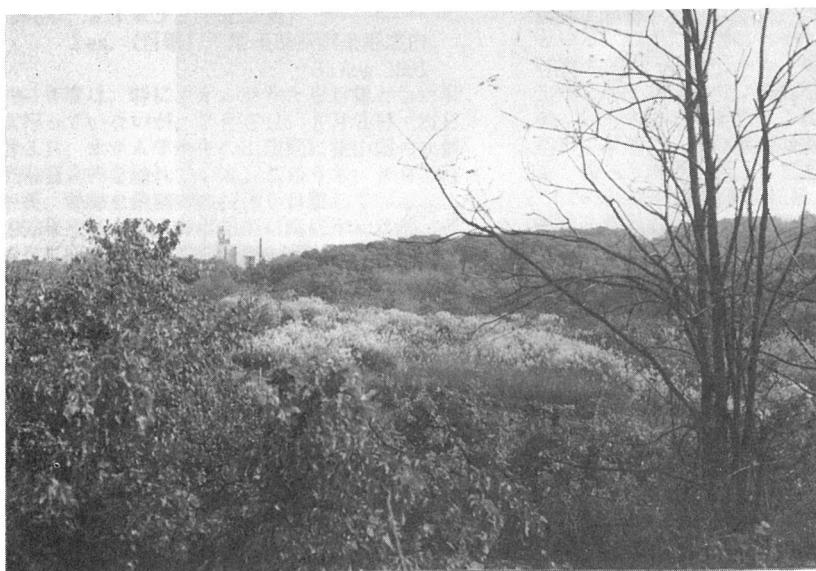


オオムラサキの記録地点(×)





六道山公園展望台



所沢市堀之内から望む三ヶ島早
大キャンパス

いま 現在よりもさらに丘陵の広範囲にわたって、オオムラサキが飛び回っていたであろうことは、想像にかたくない。

(註) オオウギンスジヒョウモン以外のヒョウモン類については、狭山丘陵では定着種ではなく、例年見られる個体は、偶産による発生の繰り返しであるとする説がある。

4 チョウを放つ①

オオムラサキの保護という問題を考えた場合、近年避けて通れないものの一つに、「放蝶」という人為的行為がある。一般に、蝶類保護の為的具体の方策としては、大別して二つの方法が考えられる。

一つは、消極的対応策ではあるが、絶滅の可能性のあるような希少種を「採集禁止」にするものである。現在、オオムラサキは、環境庁が行う動物(昆虫類)分布調査の上で、指標昆虫類として扱われており、また、レッドデータブックの上では「希少種」の扱いを受けている。さらに、「国蝶」としての知名度も高く、各地で保護を目的とした団体の活動も盛んである。採集禁止による保護について、オオムラサキを考えた場合、全国的には減少している蝶のひとつではあるものの、採集禁止の対象としては、なじまないというのが、現在までの趨勢のようである。

一方、もうひとつの保護策として、最近、盛んに行われているものに「放蝶」がある。これは、積極的に種の増加、あるいは定着をはかる目的で、当該種を人為的に野外に放つものである。複雑な問題を内包しているのは、むしろ「放蝶」と呼ばれる行為の方であろう。その中心的存在は、よく知られているように、ギフチョウ属とオオムラサキである。

一口に放蝶といっても、いろいろなケースが考えられる。異なる産地の個体群を生息地(または、かつて生息していた地域)内に放蝶するもの、あるいは、既知産地内の蝶の卵や幼虫等の採集(回収)を行い、成虫になった時点で、同地へ戻すもの等がある。

前者の例としては、上高地小梨平のミヤマシロチョウのケースが有名である。高山蝶の研究で多大な業績を残された、山岳写真家の故田淵行男氏は、かつて、絶滅の危機にあった上高地小梨平のミヤマシロチョウを救う為に、南アルプス入笠山産ミヤマシロチョウの一群の幼虫を移入された経緯がある。異なる産地から幼虫を移入(放虫)するにあたっては、環境庁管理事務所とも充分話し合われたのは言うまでもない。幸い、ミヤマシロチョウが、前年まではそこに生息していたこと、また、同種が地理的変異に乏しいことなどから、放蝶による弊害は、許容限度内であるという結論に達したに違いない。むしろ、自然の成り行きのまま、絶滅を待つよりはと、積極的な増殖策を選んだのである。ただ、放虫当時は、まだ在来の小梨平産ミヤマシロチョウが生息していたので、結果として、入笠系との混合種になってしまった

との後日談が残されている。

他方、後者の放蝶例として、筆者において思い出されるのは、埼玉昆虫談話会の松本和馬氏による、秋ヶ瀬のオオムラサキ幼虫回収による保護である—これは、オオムラサキの増加を期待したというよりは、採集者の乱獲からオオムラサキを守るために保護であった。松本氏は、秋ヶ瀬のオオムラサキ保護を目的として、秋期に幼虫を回収しては、翌春放虫するという保護策を実践していた。筆者も同行して、秋ヶ瀬のオオムラサキ幼虫回収を行ったことがあるが、その当時は、まだ相当数のオオムラサキの幼虫が、ゴマダラチョウに混じって見いだされたものであった。何しろ、1970年代前半のことだから、現在から20年以上も前のことになる。

当時、松本氏は、埼玉県内の蝶相の調査解明に精力的に取り組んでおられた。秋ヶ瀬のオオムラサキはもとより、奥武蔵のアサマシジミ、荒川河川敷のミヤマシジミ、梓山から奥秩父にいたる、オオイチモンジをはじめとした蝶類調査等が筆者の記憶に残っている。当時は、貴重な情報を提供していただくななど、大変お世話になった。松本氏の地道な保護策が実ったのか、当時は夏になると、オオムラサキが秋ヶ瀬の雑木林を滑空する姿を目にすることができた。但し、当時でも、成虫の個体数は、回収される幼虫の個体数から比べると、決して多いというものではなかった。

5 チョウを放つ②

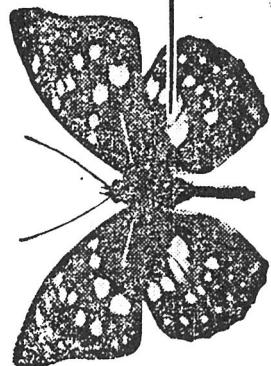
「狭山丘陵のオオムラサキ」では、オオムラサキの生息地における条件として、「広い雑木林」の必要性と「吸汁源の確保」という二点を取り上げた。広い雑木林が存在し、吸汁源があるということが、オオムラサキの生活上、必要不可欠な条件ではあるが、広い雑木林と吸汁源を確保したら、オオムラサキが必ず定着するかというと、そう簡単に問題は解決しなのである。

かつて、日本鱗翅学会の原英彦氏を代表としたグループが、皇居の吹上御苑に、数年がかりでのオオムラサキの定着を試み、他産地の幼虫を放した事例がある。吹上御苑には、オオムラサキの食樹であるエノキをmajied「広い雑木林」が存在し、「吸汁源」となるクヌギの樹液もあるので、放蝶(放虫)による定着の可能性が高いと判断されたのである。さらに、近隣のゴマダラチョウの皇居での生息が確認されている上、皇居にも、その昔、オオムラサキがいたという説まで飛び出して、放虫に拍車をかけたようである。昔いたなら住めなくはなかろうと考えたのかもしれない。

1979年3月には、300の幼虫を放し、♀68♂47の計115頭が羽化、翌1980年には、200の幼虫を放し、♀33♂42計75頭の羽化を成功させている(さらに、翌1981年4月には、数を増やし、400の幼虫を放している)。

但し、羽化した成虫が、交尾、産卵し、世代交代による定着が確認されたかというと、非常に覚束ない結果となっている。すなわち、1980年の2月

國チヨウ「オオムラサキ」幼虫300匹 好愛家放つ



▲ 國チヨウ「オオムラサキ」(供養社 横澤真也撮影)

國チヨウ「オオムラサキ」の卵は、11月11日、幼稚園園庭に於て、南洋のクヌギ林に落ちた。全卵は、黒く、表面には、葉脈が、網状の模様がある。卵を、手で触ると、柔軟で、温かい。

オオムラサキのオスが、緑色で、翅は、黒く、斑点があり、卵の大きさ十一二ミリで、よく飛べる。色の濃いものほど、翅の表面が、黒ずんでいて、卵室が、大きい。三十三年、同じ國で、アフリカ蝶を、貰ひ、七十五日で、卵となり、孵化した。裏アシニア蝶産で、日本では、北海道に孵化付近から、宮崎県まで、各地に、飛来する事があるが、國内では、ほとんど見られない。

本種は、1970年から、東洋の島嶼に、飛来する事が、多くなった。昭和四十四年の夏、沖縄本島を飛び、鹿児島で、昭和五十年七月の須崎御用邸での開業式で、「おめでたす」と書かれた御祝金を「非常に惜おしい」と感嘆された。翌年、御祝金がありましたが、開業式には、飛来した蝶が、飛んでいた。

本種は、幼虫が、植物の葉を、もとの原産地の野生種である園芸種質から、持ち込まれたが、未名鳥があつたが、名前が、あつた。

國チヨウ「オオムラサキ」の卵は、11月11日、幼稚園園庭に於て、南洋のクヌギ林に落ちた。全卵は、黒く、表面には、葉脈が、網状の模様がある。卵を、手で触ると、柔軟で、温かい。

オオムラサキの卵は、11月11日、幼稚園園庭に於て、南洋のクヌギ林に落ちた。全卵は、黒く、表面には、葉脈が、網状の模様がある。卵を、手で触ると、柔軟で、温かい。

11月11日、幼稚園園庭に於て、南洋のクヌギ林に落ちた。全卵は、黒く、表面には、葉脈が、網状の模様がある。卵を、手で触ると、柔軟で、温かい。



オオムラサキの幼虫(円筒)を皇居吹上御苑に放つ宮内庁職員

当時の読売新聞に掲載された、皇居への放蝶の記事

に、ゴマダラチョウの幼虫数十頭にまじり、オオムラサキの幼虫が一頭確認されただけとなつてゐる。放虫した幼虫は、鳥などの天敵から守るために、ケージ(網囲い)を使っての飼育が試みられたとのことであるが、羽化した成虫の定着は不可能だったようである。成虫が生活する上で必要な吸汁源は、おそらく不充分であったろうし、さらには、ヒヨドリ、カラス等の襲撃を受け、運よく逃れたものも、四方八方へ四散してしまったにちがいない。

6 狹山丘陵と放蝶

放蝶例として、それぞれ異なる三つの事例をみてきた訳であるが、狹山丘陵のオオムラサキについても、近年、同様の問題が生じてきている。この地域の個体群も、多摩丘陵同様、放蝶による個体の混入が噂され、従来からの個体群の型、いわゆるフォームが崩れてしまっているという指摘がある。筆者も、1991年には、狹山丘陵で、オオムラサキ放蝶に言及している虫屋に出会っている。蝶の愛好家の中には、一部放蝶マニアと呼ばれる人達があり、問題がより複雑化しているのも事実である。狹山丘陵のオオムラサキの放蝶は、継続的か否かは別にしても、複数の人々によって行われている可能性は、充分考えられる。

かつて、故田淵行男氏は、その著書『大雪山日記』の中で、放蝶是非論の論拠について、「純粹な学究的分布尊重論」と「種保存を重視する自然保護優先論」の二つの立場から説明されたことがある。そして、自然保護の方策をどの程度拡大解釈するかにもよるが、純粹な学問的理論からすれば、自然の成り行きにまかせるべきだとの意見を述べられている。確かに、蝶愛好家の中にも、放蝶はすべきではないという意見と、保護のために放蝶もやむなしとの意見が存在し、確固たるコンセンサスは得られていない。一般には、蝶屋を含めて、虫屋と呼ばれる専門の分野をもつ人々の間では、放蝶はすべきではないという意見が多く、

ナチュリスト

広く自然保護論者あるいは、自然愛好家と呼ばれる人々の間では、放蝶による特定種の保護定着には、寛大である。

筆者においては、基本的には「放蝶」という行為について、手放しには賛成はできない一特に、全く別の産地の個体群を、かつての生息地に放すもの等との立場をとっている。「放蝶」という人為的な行為により、一体、どの程度まで復元が可能なものなのか、疑問があるのも事実である。マニアによる乱獲が引きがねとなるものは別としても、ある種の生物が絶滅するのは、当該種を取り巻く自然環境にそれなりの問題があるわけであり、生態系からのアプローチなしに、効果を期待するほうに無理があると考えられるからである。また、自然のメカニズムは、人間による生物の個体数管理等の人為的操作介入を、そう簡単に受け入れてくれまい。

先に述べた、三つの放蝶のケースも、長期間を

経過した現在、残念ながら、どれも定着には至っていない。結果として、全滅に至るまでの行程を、ゆるやかにしたに過ぎないと言えなくもない。それ程、放蝶による定着は難しく、単に放蝶を実践している人々の自己満足や、マスコミ的美談に終わってしまうことが多い。また、もし成功して、特定の蝶の増加を見たとしても、その為に、その地域の生態系を構成する、他の生物に及ぼす悪影響は計り知れない。

7 雜木林に吹く風

オオムラサキが生息する上で、広い雑木林が必要であることはすでに述べた。また、里山の雑木林の減少が、オオムラサキの生活拠点を奪い、衰退の一因ともなっていることもすでに述べた。オオムラサキの生息には、最低50メートル四方の雑木林が必要との見解がある。これは、本来のオオムラサキの生息空間としてはギリにも狭きにすぎるが、狹山丘陵の雑木林に関しては、東部を中心とした開発による消失分を除いても、まだ、広い雑木林が確保されている。問題となるのは、広さよりも、むしろ、雑木林の「質」、あるいは「孤立化」の方にある。

狹山丘陵の雑木林の多くは、現在、水源涵養林として立入り禁止区域が設けられ、森林が保護された形となっている。しかし、そのために雑木林の更新が進まず、オオムラサキの吸汁源である樹液の供給も充分ではない。オオムラサキの生息密度の高い、狹山湖西側にあっては特に深刻である。狹山湖西側の森林は、首都圏にあって、かなり深い。一部は原生林化が進んでいる。すなわち、かつての武藏野の雑木林から、常緑広葉樹林へ移行しつつあり、アラカシ、シラカシが多数進出している。これが一因となっているのか、筆者の盛夏の調査時にも、丘陵西側において、アラカシを食すムラサキシジミが、局地的に多数観察されている。このような雑木林の質の変遷は、吸汁源の確保という点からみても、オオムラサキの生息環境として、決して好ましい状態ではない。

植物の遷移とともに、狹山丘陵で問題となるのは、雑木林の孤立化である。もともと狹山丘陵は、都市近郊にあって、緑の孤島と呼ばれるように、森林が孤立化している。さらに、近年の開発ラッシュにより、丘陵周辺の平野部の雑木林がつぎつぎと伐採され、孤立化を一層深刻なものにしていく。首都圏の雑木林の減少は、残された雑木林に鳥類が集中するという結果を招き、昆虫類にとっては、いわゆる鳥類による捕食圧という問題となつて、はね返ってくる。オオムラサキに限らず、昆虫類が幼虫期に鳥類に襲われる確率というのはかなり高いとされる。「チョウを放つ」でも触れた、皇居吹上御苑も、都心にあっては鳥類が多く集まり生息している。放虫によるオオムラサキの幼虫も、鳥類の育雛期にぶつかり、そのうちの何割かは、幼鳥の餌になったはずである。鳥類と昆虫類の相関関係は今後ますます重要視されてくるであろう。

鳥類の捕食圧の問題の他に、雑木林の孤立化がもたらす問題として考えられるのは、狹山丘陵産オオムラサキ個体群の孤立化である。オオムラサキは大型のタテハチョウで、活動飛行範囲は広い。しかし、生息地を遠く離れて飛行し、勢力分布を拡大するかというと、そうとも言えない点も多い。この蝶は、基本的には、雑木林に執着依存する為、移動性に乏しいのである。「狹山丘陵と放蝶」でも触れたが、フォーム（型）の存在が、それを裏づけてもいる。すなわちそれは、国内各地において、地域による変異が少なからず見い出せることである。これは、個体群間の交流が積極的に行われていないことを意味している。

現在、狹山丘陵のオオムラサキ個体群は、国道16号を境に分断され、さらに周囲は都市開発が徹底されており、全く孤立した個体群となっている。狹山丘陵の雑木林が孤立化し、狭い範囲に孤立した個体群が形成されると、個体群における交流も途絶え、近親的な弱い個体が増加する心配も生じてくるであろうし、何よりも、生息地周辺を取り巻く環境の悪化から、早晚絶滅への道を辿らないとも限らない。

このようにみると、「広い雑木林」の確保が可能であったとしても、厳密には、いくつかのさらなる問題が派生してくる。前述しただけでも、雑木林放置による植物遷移と吸汁源の不足、孤立した雑木林に集中する鳥類と捕食圧の関係、さらには、孤立した個体群のかかえる問題などがある。いずれも、生態系を巻き込んだ難しい問題が多く、一朝一夕には解決しない。経済優先の社会の中で、雑木林に吹く風は、一段と厳しいものがある。

おわりに、ようやく最近になり、雑木林の重要性が再認識されてきた。残念なのは、周囲から雑木林が消えてしまってから認識が深まってきたことである。一方、雑木林の質の問題も、近年クローズアップされてきている。ここでいう質とは、放置林ではなく、伐採管理による雑木林の更新のことである。言いかえると、武藏野型雑木林の維持である。これは、「里山のチョウ」オオムラサキにとっても、大変重要なことである。

ともあれ、狹山丘陵においても、雑木林を乱開発から守るという目的で、ナショナルトラスト運動をはじめ、市民運動も盛んになってきており、少しずつではあるが、成果があがってきている。ごく最近では、所沢市の狹山丘陵北部に計画された寺院新築計画が、「狹山丘陵の自然と文化財を考える連絡会議」等の反対により、開発断念に追いこまれた例がある。

雑木林を含めた自然環境を、様々な開発から守るために、このような地道なレベルでの運動が、非常に重要である。一見、遠まわりで無力に思える運動であっても、開発業者にしてみれば、一番の脅威となり得るのである。わずかの土地を自治体が買い上げても、生物や環境の保護には役立たないと考え……るのは誤りであって、例え、少しずつであっても市民レベルで無謀な開発から自然環境を守る、監視の目が必要である。それが、我々市民レベルに残された唯一有効な手段なのである。

狹山丘陵の東京都側を散策していく、何度か地元の人から「オオタカですか」との問い合わせを受けた。筆者は、徒歩で丘陵地内を歩き回ることが多い為、装備が大きなものになってしまい、地元の人の目を引いたのであろう。オオタカはオオムラサキと異なり、地元では比較的関心を持つ人も多く、市民権を得ているかのようである。オオタカにせよ、オオムラサキにせよ、開発や乱獲から彼らを守る一歩は、これらの生き物に対し、関心を持つことからはじまる。無関心こそが、彼らの生活を脅かす行為を許してしまう結果となるのである。

「狹山丘陵のオオムラサキ」を寄せ蛾記に報告してから、いくつかの反響があった。「狹山丘陵にまだオオムラサキはいるのですか」というものから、丘陵東部から北部にかけての認識に基づいたとしか思えないような片寄ったものも一部あったように思う。いずれにしても、狹山丘陵のオオムラサキについて、多少なりとも関心をもつていただけたとしたら、それで筆者の目的は、充分に達せられたことになる。この報告文が、問題提起の一助となれば幸である。

尚、本稿を記すにあたり、久保快哉氏からは、貴重な資料をお貸しいただいたほか、懇切丁寧なご教示を賜った。久保氏のご好意に、この場をかりて厚くお礼申し上げる。

[参考文献]

- 森 一彦（1975）オオムラサキの生態と飼育
- 田淵 行男（1985）大雪山日記 黄色いテント：170-195
- 山本 広行（1990）狹山丘陵の自然保護 日本の生物4(4)：36~41
- 杉田 正之（1991）嵐山町における「オオムラサキの森づくり」活動 日本鱗翅学会・埼玉昆虫談話会主催 第2回蝶類保護セミナー 「蝶類の保護…自然保護の一環として」資料集：31~41
- 跡部 治賢（1991）長坂町（山梨県）のオオムラサキの保護について 日本鱗翅学会・埼玉昆虫談話会主催 第2回蝶類保護セミナー 「蝶類の保護…自然保護の一環として」資料集：42~46
- 中川 利勝（1992）狹山丘陵のオオムラサキ 寄せ蛾記（64）：1350~1354

（なかがわ としかつ 〒333 川口市道合 22-1
ライオンズG東浦和302）

埼玉県浦和市秋ヶ瀬で記録したトンボ

上原市郎

筆者は1990年～1993年にかけて浦和市秋ヶ瀬に出向いて、ヤンマ科の黄昏飛翔を中心に若干の知見を得た。1992年の夏には集中的に通い、黄昏飛翔の時間帯と飛翔する場所が必ずしも一定でないことが歴史的だった。また、1993年には前年に比較すると天候不順が影響していたのか、発生状況が不安定で全体に遅れ気味であった。特にネアカヨシヤンマが激減し、黄昏飛翔時の確実な目撃がなかつたが、マルタンヤンマはあまり影響を受けていなかつた。1992年7月上旬には多数個体の発生を見たアオイトトンボも、1993年には8月中旬になってもその姿を見かけることがなかつた。気候の具合にもよるが、1994年のシーズンの生息状況が気掛かりである。春期から初夏にかけては訪れたことがないので、1994年には出向きたいと思っている。過去にコヤマトンボが採集されているそうだが、時期的なズレもあって、筆者はまだ確認できていない。この報文をまとめると、常日頃より池田和隆氏と碓井徹氏に種々の御教授で大変お世話になっています。誌上を借りて両氏にお礼申し上げます。

イトトンボ科

アオモントンボ

1頭目撃, 1993. Aug. 12

秋ヶ瀬公園内の全部の池を見たわけではないが、個体数はあまり多くないようだ。

アジアイトンボ

数頭目撃, 1993. Jul. 27.

広く生息しているようだが、群棲しているような場面は見られなかつた。

アオイトトンボ科

アオイトトンボ

8♂8♀, 1991. Aug. 16; 16♂8♀(全て成熟個体、他に多數目撃), 1992. Jul. 9;
1♀(他に多數目撃), 1992. Jul. 21; 多數個体目撃, 1992. Sep. 1.

1992. Jul. 9には未成熟個体が湧くように発生していた。樹陰の闇がりに数多く見ら

れ、群れているところもあった。しかし
, 1993. Jul. 4・16・27; 1993. Aug. 12のいずれの日にも1頭も目撃でかなかつた。
1993. Aug. 12. 以降には出向いていないので、
発生が遅れていたのか個体数が減少してい
たのかは確認できなかつた。

カワトンボ科

ハグロトンボ

1♂1♀, 1991. Jul. 28; 2♂
, 1992. Jul. 20; 1♂, 1992. Aug. 7.

闇がりには大概見られる。秋ヶ瀬では多
いという話もあるが、広く生息していて普
通種と見なせるものの、あまり多くはない
ようである。

サナエトンボ科

ナゴヤサナエ

1頭目撃, 1992. Aug. 16.

気が付いた時には目の前に止まっていた
が、ネットの柄の長さを調節している隙に
上空に飛び立たれてしまつて採集できなかつた。荒川の上流になる石戸宿周辺では記録
が多いようなので、分布していくても不思議
はない。過去に採集されているという話も
ある。

コオニヤンマ

1♀(2♂目撃), 1993. Jul. 4.

1993年に初めて目撃した。採集した♀は
半成熟個体。他に地表に静止する2♂を目
撃しているが、敏感なうえにクロスジギン
ヤンマの方に機をとられていたので採集で
きなかつた。

ウチワヤンマ

1♀目撃, 1990. Aug. 14; 1♂目撃, 1992.
Jul. 21.

いずれもどこからかの飛翔個体のようであ
った。公園の敷地内に発生する池がある
かも知れないが、目撃したのは上記の記録
だけである。

オニヤンマ科

オニヤンマ

1♂, 1991. Aug. 16; 1♀(全長106mm・腹長82mm・後翅長64.5mm前後翅共前縁と付け根のオレンジ色斑が鮮明な半成熟個体), 1992. Jul. 20.

1♂1♀が全目撃数である。発生場所は特定できていないし、交尾行動や産卵行動に関する目撃もない。♂は早朝の5:00頃に飛翔しているのを採集した。

ヤンマ科

アオヤンマ

1♀, 1993. Jul. 16.

過去に採れているという話があり、筆者自身の不確実な目撃もあるが、秋ヶ瀬での記録が発表されたことはないらしい。採集した場所は筆者が勝手にネアカボイントと呼んでいるところ。まず最初にネアカヤンマ♂と見しき個体が1頭、沼の上空に姿を現した。ネアカヨシヤンマ独特の飛翔で沼の外周上空をゆっくりと回っていたが、直ぐにこの個体より小ぶりの♀が現れた(好天でかなり暑い日であったが、トンボのシリエットだけからの判断で、体色の判別はできなかった)。接触しかかった瞬間もあり、当初はネアカヨシヤンマの雌雄だと思っていたが、時刻が時刻であるので、あるいはアオヤンマではという思いもあった。♀の方が飛翔の位置が低いので、まずは♀を狙う。何回かやり過ごしてから低く降りて来たところを捕獲できたが。6.3mのネットの長さギリギリだった。そしてネットの中の主はアオヤンマの♀だった。♂はまだ飛び続けていたが、アオヤンマということで多少気落ちしたのか、ネットを振り損なつてしまつて南側の上空に消えた。直ぐに戻ってくるだろうということで待機していると、15分程で再び上空飛翔が始まった。今度は慎重に捕獲する。ネットの中の個体は遠目には緑色がめだってアオヤンマに見えたが、もう一步で成熟に至るネアカヨシヤンマの♀だった。体色の鶯色が鮮やかな中型個体。翅の色彩は少々煙っていた。ネアカヨシヤンマの行動は名前に反してネクラヨシヤンマで、昼間の炎天下の採集は今回が初めて。もしかしたら成熟個体でなかったからかもしれない。ネアカヨシヤンマの採集時刻は11:50頃。

ネアカヨシヤンマ

2♂(1♂全長82.5mm・腹長63.0mm・後翅

長53.0mm; 1♂全長76.0mm・腹長59.0mm・後翅長49.0mm小形個体の方は半成熟個体、翅はかなり透明なのでネアカが鮮明), 1991. Jul. 29; 1♂(全長79.0mm・腹長61.0mm・後翅長48.0mm), 1992. Jul. 22; 1♀(全長78.0mm・腹長60.0mm・後翅長50.5mm老熟), 1992. Aug. 6; 2♂1♀(1♂, 全長80.0mm・腹長61.5mm・後翅長50.0mm; 1♂, 全長74.0mm・腹長56.5mm・後翅長46.5mm; 1♀, 全長82.0mm・腹長62.5mm・後翅長51.5mm), 1992. Aug. 9; 1♂1♀(1♂, 全長80.0mm・腹長62.5mm・後翅長51.0mm; 1♀, 全長81.0mm・腹長61.5mm・後翅長52.5mmいずれも老熟個体で、黄昏飛翔時よりもかなり早い時刻の採集個体、♀はガガンボの1種を口に衔えていたが咀嚼と嚥下する体力がないよう手に乗せても飛び立たなかつた、この個体は腐敗臭がした), 1992. Sep. 1; 1♂(全長77.0mm・腹長59.5mm・後翅長47.0mm), 1993. Jul. 16.

1991年と1992年の黄昏時間帯における群飛の主役は本種。しかし、1993年には1♂の採集記録以外には確実な目撃はなかつた。どうやら天候不順の影響をモロに受けたようだ。

産卵行動と思えるものは1993. Jul. 27. に一度だけ目撃した。日が翳っていた17:15頃水深の浅い部分に生えている10cm程の背丈の植物の頂部に停まって、ほんの1・2秒ぐらい茎に向かって腹部を曲げていた。素早い行動で、4回程を繰り返して飛び去つた。今まで記録されたものとは少々異なるようで、山陰のトンボ(1993)に本種の産卵場面の写真が載っているがやはり違うようだ。交尾行動には全く遭遇できなかつた。

土佐のトンボ(1991)によれば、高知県の生息地では「日中、黄昏時も盛んに餌を取って活動する」とあるが、少なくとも秋ヶ瀬では今までのところ、昼間飛翔する本種は数えるほどしか見ていない。

特に最盛期と思われる時期には、昼間飛翔する本種は2回しか見なかつた。活動時期も末期になれば、午後になると割合見かけたが、個体数の多寡が影響しているのだろうか。黄昏飛翔時はアオヤンマと同様に飛翔は敏捷ではなく、度々クリーニングする個体があり、バッタリと飛ばなくなつて活動が終了したかに思われても、1頭が飛び出すと連られて飛び出すという傾向がよく見られた。連られて飛び出す現象は他産地のアオヤンマの昼間の行動でもよく見ている。最盛期の黄昏時の活動終了時に休息する場所はほとんどが樹梢に近く、10m前後はあろうかという高い位置が多いようだ。

没姿期が近づくと、飛翔時に執拗にクリーニングを繰り返す個体が目立つようになった。また、ちょどバランスの悪い手折の紙飛行機がクルクルと回って落ちてくるのと同様な個体が見られるようになり、このような個体は翅は半開き状態で羽撃くことはなかったようだ。1♂だけ落ちてきた個体を捕獲したが、力尽きる寸前だったらしくほとんど動かなかった。そうしてこの時期になると、ある一定のポイントで群飛するということがなくなりて散らばる傾向があり、概して飛翔位置も高くなる。体色の鶯色が色鮮やかなのは8月10日前後までで、以後は黄褐色味が強くなつて黄色くなり、晩期には赤味が勝ってきて黒色部分も煤けてくる。同じ荒川流域では石戸宿での記録が多いようなので、秋ヶ瀬との発生状況や生態の比較ができれば面白い。本種は黄昏時に群飛する場所が毎日といつても良いくらいに移動した。何が原因なのかよくわからないでいるのだが、コウモリも移動するようで、捕食する昆虫の生態によるのか。気流や月齢なども何等かの影響があるのかかもしれない。群飛個体の多少に拘わらずいつも見られるポイントもあるが、3日間目撃しただけで、それ以前も以後も全く目撃できなかつたポイントもある。3日間のうちの中日だけが極端に多く、その前後にはそれほどでもなかつた。この3日間の前後には台風が接近していたので、これが影響したのかもしれない。黄昏時の群飛にはある一定のパターンが見られた。まず鳥類が盛んに飛翔を始めてあちらこちらへの移動が見られるが、この時点では周囲はまだ明るい。それから一頻して薄暗くなってくるとコウモリが現れ、段々と個体数が増してゆく。その後にヤンマが出現するのだが、ヤンマの群飛時にはコウモリの個体数が少なくなるようにみえた。コウモリはヤンマの群飛が終了すると個体数が再び増えて、かなり遅い時刻まで群飛するようだ。ヤンマとコウモリの群飛が重なることもあったが、コウモリがヤンマを捕食するようなことはなかつた。黄昏時にコガネグモを捕食している本種を幾度か目撃しているが、採集個体の中でクモの巣の糸が絡みついでいない個体は1頭もなかつた。本種は高飛していることもあるが、膝下などの低い位置に飛んでくることもあり、どうも捕食する昆虫の行動によつていくらでも変化するものようだ。全伸したネットの僅か10cm上か、という位置を飛んだり、同じく全伸したネットを構えていると頭上や地表スレスレを飛ぶこともあり、背後からの飛翔はゆっくりしているのでこちらが馬鹿にされているのではないかと思える一面もあった。マ

ルタンヤンマのように鋭角に方向を換えるようなことはなく、割合直線的に降下して来ることが一番多かった。1988年には多産していたらしく、黄昏飛翔時にはあちらこちらの空間に群飛が見られ、1時間近くも及んだそうだ。その頃から見るとかなり減少しているが、これは当地の池沼の環境変化が最大の原因ではないか。人工が加わることで自然度が減少してきている。(ここはミドリシジミが群棲することで有名だが、武蔵野の面影を留める森の存在があるからであり、河川敷だからこそ今日まで残ってきたのだと思う。もちろん行政的な努力もあるのだろうが、どうかもうこれ以上の伐採は打ち止めに願いたい。多様性のある自然こそが人類の心を豊かに生み保つ源泉であると思う。自然環境が劣悪になればなるほど人類の心は貧乏になっていくような気がする。この悪循環をどうにかして断ち切れないものか。昨今は取つて付けたように「心の時代」などといわれているが、その大元の自然環境が脆弱では実り多くとはいかないだろうに。どこぞの自治体でもうそろそろ雑木林を増やしてゆくことを実践したらどうだろうか。いろいろな意味で有益な面が多々あるものと思う。あんまり合理性の追求に走るのも考え方だ。

便利なものが普及するとそれが当たり前となって、またその先の便利さを追求するようになる。たぶんキリがないのだ。しかし、だからこそ今こうして虫と付き合つていいられるわけでもあるが、便利だからといふことで慣れてしまうところに大きな落とし穴がありそうだ。また、よく「地球に優しい」などということが言われるが、気持ちの悪い表現だし、「地球が危ない」なんていうものもある。

しかし本当に危ないのは人類の方ではないのか。「人間らしく生きたい」というのもよくわからない。従来からの日本語をカタカナにすることで耳障りが良くなるのと同様の錯覚にすぎなくはないか。「人間らしく」というからには、前提に他生物との比較があつてのことなのだろうが、それとも仏教でいうところの六界のうちの人間界を指しての事なのだろうか。) 1993年にも林道の工事が進んでいて、緑色をした合成樹脂製のブロックを林道に敷き詰めて、その上に盛り土をしていた。何でも盛り土した上は芝生にするそうで、作業車がはいり込めるだけの強度を確保することと、水捌けを良くすることが目的なのだそう。

しかし作業車が林道にはいり込んで一体何をしようというのだろうか。当初は主な林道を舗装してしまう計画だったのではな

いか。当地は河川敷なので水浸しになるのは当然なのだから、このままで良いように思うが。ハイヒールで歩けるようにする必要など全くないし、自転車で気軽に走れる必要もない。自然度を高く保つには不便ではいり込み難く、一見汚く見えて直接的に人類の役に立たないのがいい。林道を弄つても水質が向上するわけではなく、どう見ても別の問題だ。西洋的な、上面が見映えの良い公園など要らないのではないか。重装備しなければいり込めないようならばもつと良い。ヨーロッパ半島では原生林を伐り尽くしてからルネッサンスが興り、それから産業革命に至ったという事実を熟考したいと思う。ほんの僅かばかりのマッチ箱のような、辛うじて残存する環境に下手に手を入れるという発想が理解できない。当地の未舗装の小路には街灯がほとんどなくて野犬も多いので、夜間に歩行するのには安全とはいかないが、案外に昔日の武蔵野はこんなものだったのかもしれない。他の生物ではオカメタナゴが激減しているというし、ブラックバスが既に棲み着いているようだ(ブラックバスを放しておいて魚類の国際化だ!などと馬鹿気たことをいう真意は一体どこにあるのか)。本種の今後は心配な面が沢山ある。また、当地の池に本種のヤゴを放しているという話があるようだが、この点の関して本当のところをご存知の方はご教示下さい。

カトリヤンマ

2♂ (現地で採集された個体を確認した)
, 1991. Jul. 31.

ずいぶんと探したが、目撃もできなかつた。

ヤブヤンマ

1♀目撃, 1992. Jul. 21.

確実な目撃はこの1♀だけ。日中に林内の薄暗い水溜を飛翔していたが、四方から小枝が垂れ下がっていたのでネットが振れなくて採集はできなかった。秋ヶ瀬ではもともと多くなかったという。

マルタンヤンマ

♀を4回目撃, 1992. Jul. 20; ♀を3回目撃, 1992. Jul. 21; 1♀, 他に♀を3回目撃(全長78.5mm・腹長61.0mm・後翅長47.5mm老熟), 1992. Aug. 6; 1♂(全長72.0mm・腹長54.0mm・後翅長43.5mm老熟), 1992. Aug. 17; ♀を2回目撃, 1993. Jul. 16; ♀を4回目撃, 1993. Jul. 27; ♀を4回目撃, 1993. Aug. 12.

個体数は多くはない。♀に較べて♂が認識し難いということもあるが、♂の確実な

目撃記録は採集した1♂だけで、この個体は通常の群飛が始まる前の17:45に採れた。鳥が飛び出すよりも以前である。この♂はまだ充分に明るい日差しの下をかなりのスピードで行きつ戻りつを繰り返していた。当初はギンヤンマの気紛行動だろうぐらいに思っていて、何回かネットを振り損なつた後に採れたが、ネアカヨシヤンマとの時間的な棲み分けも考えられる。いずれにしろマルタンヤンマの♂を見るのはどの棲息地でも容易ではないようだ。群飛時にギンヤンマよりややきしゃな個体が力まずに滑らかにハイスピードで飛翔しているのを何回か見ているが、事に依つたら本種の♂だったのかもしれない。♀の飛翔は♂とは違って重量感があつて堂々としていて、やはりスピードが速い。ゆったりと円を描くように飛ぶようなことはなく、方向転換する時にはキュックュッというように鋭く急激に方向を換え、食餌昆虫を見つけた時などは90°角ぐらいの急降下をすることがよくあった。♀の飛翔は大概高い位置であり、段々と降下してくるようなことはなかった。ネアカヨシヤンマと比較すると余程採り難い。

1992. Jul. 20には1♀が10m前後の上空を19:30過ぎまで、狭い範囲を小さな円を描くようにキュックュッと独特な飛び方で曲がりながらグルグルとまわっているのを目撃したが、他の個体がとっくに活動を停止してから30分間近くこのような行動をとっていた。1992. Jul. 21・22にも同様な行動を別のポイントで目撃している。交尾行動や産卵行動に関する目撃は残念ながら一例もない。(本種の♀はアカネ類の♀に似ていないうだろうか。複眼は大きいが顔のから見ると横への張り出しが弱いし、ヤンマとしては脚もかわいいくらい上品に見える。それに体色も赤っぽいということあるので)。

ギンヤンマ

3♂ 1♀, 1990. Aug. 14.

1991~1993にかけて普通に目撃した。

採集しても帰り際に解放してくるので、採集記録は多くないが、ヤンマの中では最普通種である。連結産卵と単独産卵共に目撃している。筆者が勝手に大池と呼んでいる池ではいかにもヤンマが産卵に訪れるような水生植物が繁茂している環境があるが、バトロール中の♂がそこに来ると決まって寄り道をするので池の中にはいって確認に行ってみると、やはりというか♀が居た。この個体は捕獲したが、別段産卵行動でもなかつたようで、普通の成熟個体であった。なお、まだ♂型の♀は確認していない。1993. Jul. 4. には未発生だったようで本種

は全く見られず、ヤンマで活動していたのはクロスジギンヤンマだけだった。オオヤマトンボは老熟個体の1♂を採集しているが、通常より発生が遅れていたようだ。♂は早朝から黄昏時まで飛び回り、オオヤマトンボ♂と並んで陽性でタフなトンボだ。オオヤマトンボの方が休憩時間が長くて回数も多いようだ。

クロスジギンヤンマ

2♂(他に♂を7回目撃), 1993.Jul.4;
♂を2回目撃, 1993.Jul.16.

1♂は6:55 a.m.頃に採集した。飛翔している本種は腹部の色彩も含めてギンヤンマとはかなり印象が異なり、悠然と飛翔する姿は1度も見られなかつた。とにかく飛翔行動が気忙しくて敏感なのが特徴であつた。ポイントでテレトリーを張るにしても1分間どころか30秒間も居なかつたのではないか。飛び方そのものが忙しくなくて、小刻みに周りを窺っているというなところがあつた。飛翔スピードも速くて、ギンヤンマよりも軽快に感じられた。どの池でもいつの間にか来訪していて、いつの間にか居なくなっているというパターンは共通していた。この日の終見は17:00頃。19:30頃まで粘つてみたが、結局他のヤは執着を示しても良いと思えるのだが、これだけ気忙しい行動は本種が本来持っている習性なのだろうか。栃木県のトンボ(1969)の記述によると

「空高く舞い上ることは見ていない」とあるが。同種の♂を追尾してかなり高い位置まで急上昇するのを2回目撃できた。オオヤマトンボを追尾するところも1回目撃したが、この場合はあまり深追いはしなかつた。なお、♀は全く目撃できなかつた。

エゾトンボ科

オオヤマトンボ

1♂, 1990.Aug.14; 1♀の間歇打水産卵を目撃, 1991.Jul.28; 3♂, 1991.Aug.16; 1♂, 1992.Jul.9; 3♂, 1992.Jul.21; 1♂(老熟個体), 1993.Jul.4; 1♂, 1993.Jul.27; 1♂, 1993.Aug.12.

よく見かけるトンボだが、個体数は決して多くない。特に♀は目に触れることが稀であり、確実なのは産卵中の1♀だけだつた。間歇打水産卵は不規則であつて、瞬間にネットの狙いを定めるのが難しい。この個体は3回も振り損なつて上空に飛び去つてしまつた。越谷市でも産卵を目撃しているが、午後の日が翳っている時というのは共通している。♂が飛んでいない時というのも共通だが、これは何か理由がありそうだ。本種の高飛は雄大であり、炎天下に高

い位置をゆったりと飛んでいるのをよく見かける。16:00前後より池の内周をお回りする個体が減ってきて、林道に沿つて上空飛翔する姿をみかけるようになる。たぶん広い範囲を飛び回っているのであろうが、確認するのは容易でなかろうか。

1990年~1992年には♂が割合採りやすいトンボという印象だったが、1993年には敏感なトンボに変貌していた(本来速く飛ぶ能力を持っているように思うが)。大体は定石どうりお回りしている♂を待つていれば良かったものが、ネットを構えて待つていると必ずその場所だけを避けて飛ぶようになった。最近はトンボの方が殺氣を感じているというのか、自分自身の気が漏れているのかもしれないと思うようになった。それともこちら側の眼光(メガネを掛けているのでよけいに)を感じとっているのかもしれない。清水(1992)の写真集の巻末にウチワヤンマの物凄いショットが載つてゐるが、このようなことが現実にできるにだから何等かの理由があるのだろう。後方からの飛来の時には避けるようなことはなかつた。本種は黄昏時にもよく見かける。筆者が勝手にオオヤマ池と呼んでいるほぼ真丸の池では1990年~1992年にかけては池を覗くと必ず1・2頭の♂がお回りをしていたもので、産卵を目撃したのもこの池だが、1993年にはとうとう1頭も目撃できずに終わった。これは池が異常に茶色く濁っていたのが原因かもしれない、前年にはなかつたことだ。林道工事の結果かもしれない。

1994年にはしっかり見届けたいと思っている。(当地に限らず越谷市周辺や千葉県野田市でもこれまで見てきた限りでは、池沼に油膜が浮いてるのが常識のようになつてゐるし、空き缶をはじめとしたゴミが非常に多いのが当然であろうとさえいえる。特に釣人のそれがよく目立つた。釣人口の多さが主たる原因だろうか)。

トンボ科

シオカラトンボ

多数個体目撃, 1993.Aug.12.

コフキトンボ

多数個体目撃, 1993.Aug.12.

♀の異色型の目撃はまだない。

ショウジョウトンボ

1♂, 1990.Aug.14; 1♂, 1992.Aug.17.

普通種といつてよいのだろうが、個体数は少なそうで、♀はまだ確認していない。

アキアカネ

1♂, 1992. Sep. 1.

ナツアカネ

1♂, 1991. Aug. 16; 1♂, 1992. Sep. 1.

マイコアカネ

1♂, 1991. Aug. 16.

ついぶん歩いて探してみたが、この記録
以後確認できない。

ノシメトンボ

多数個体目撃, 1992. Sep. 2.

コノシメトンボ

1♀, 1991. Aug. 16.

マイコアカネと同様についぶん探したつ
もりだが、以後の記録はない。

リスアカネ

1♂, 1991. Aug. 16; 2♂, 1992. Sep. 1;
1♂, 1992. Sep. 2.

樹陰になるようなところでテリトリーを見張っているのを見かけたが、個体数は多くなく、♀はまだ未確認。

コシアキトンボ

1♀, 1991. Jul. 28; 1♀, 1991. Jul. 29;
多数個体目撃, 1993. Jul. 4; 多数個体目
撃, 1993. Aug. 12.

黄昏時の群飛が始まると直前ぐらいで飛
んでいるが、ヤンマが群飛する位置よりも
低い位置を飛んでいる。概して狭い空間の
場合が多いが、その上空をヤンマが飛ぶよ
うな時刻にはもう居ない。捕食されるのを
避けているのだろうか。

ハネビロトンボ

1♂目撃, 1990. Aug. 14.

杉村(1985)の'86夏に本種の静止している写真が載っているが、この姿勢のままショウジョウトンボ♂を追い駆け回していた。当日は筆者としてはトンボを目的として採集に出向いた第1日目であり、長靴の用意もなく、水がほとんどなくぬかるんでいる池の真中辺に採りに行くのは困難だった。今から思うと惜しいことをしたのだ。ショウジョウトンボより明らかに大型で、根元が大きく赤く染まっていたので本種に間違いないものと思う。当初はネキトンボかとも思ったにだが、腹部をかなり下げ気味にしてショウジョウトンボを追尾していた。

ウスバキトンボ

数頭目撃, 1992. Aug. 28.

盛夏の頃に比較的多い。本種もコシアキ
トンボ同様に黄昏時間帯の直前まで飛んで
いるが、ヤンマが群飛している時に一段低
い位置を飛んでいる本種もよく見かけた。

[黄昏時間帯の群飛の記録]

日中も黄昏時も天気は悪くないのに群飛時の個体数が少ない日もあったが、少々の風や多少の低温でも平気で飛んでいる日もあった。また、単純に日の入り時刻と連動していることもないようだ。なお1991. Aug. 16の7:30a.m.-9:00a.m.ぐらいまで樹上の各所でヤンマの活動を目撃した。下記の()内は理科年表から引用した日の入り時刻。この記録は東京都のものだが、浦和市とは1・2分間ということなので実用上問題はないと思う。

1992年

Jul. 20, 晴れ, 18:40-19:20(18:55); Jul. 21, 日中は晴れのち曇り少し小雨がパラつく, 18:30-19:05(18:54); Jul. 22, 無風で曇り, 18:27-18:55(18:53); Jul. 23, 晴れてやや風あり, 18:55-19:03(18:53); Jul. 25, 晴れて無風, 18:50-19:03(18:51); Aug. 6 晴れて暑い, 18:35-19:00(18:41); Aug. 9, 晴れてややしのぎやすい, 18:10-18:50(18:38); Aug. 10, 曇りだんだんと黒い雲が拡がって風が強くなる, 18:25-18:45(18:37); Aug. 15, 晴れてやや風あり夜は涼しい, 18:25-18:50 (18:31); Aug. 16, 晴れて涼風あり, 18:20-18:45(18:30); Aug. 17, 晴れて日差しは強いがやや風が強くて過ごしやすい, 18:05-18:45(18:29); Aug. 23, 晴れて風が強い, 18:25-18:40(18:21); Aug. 26, 晴れて残暑が厳しい, 17:30-18:30(18:17); Aug. 27, 曇り時々晴れ, 17:55-18:25(18:16); Aug. 28, 晴れてやや風あり夕刻は涼しい, 18:10-18:25(18:15); Sep. 1, 晴れてやや風あり夕刻は涼しい, 18:00-18:25(18:09); Sep. 2, 曇りのち晴れやや風が強い, 18:00-18:15(18:08).

1993年

Aug. 12, 晴れて暑くなる夕刻は涼しい, 18:00-18:35(18:35).

[参考文献]

- 東 和敬他 (1987) トンボの繁殖システムと社会構造. 東海大学出版会
- 新井 裕 (1982) 埼玉県トンボ観察記. 自刊
- 石田昇三・浜田康 (1973) カラー日本のトンボ. 山と溪谷社
- 石田昇三・他 (1989・2版) 日本産トンボ幼虫成虫検索図説. 東海大学出版会
- 磯野治司 (1991) 北本市石戸宿における注目すべきトンボ類. 寄せ蛾記(58):1088
- (1991) 北本市石戸宿でマイコアカネを採集. 寄せ蛾記(61):1179
- (1991) 北本市石戸宿でヤブヤンマを採集. 寄せ蛾記(61):1179
- (1991) 北本市石戸宿でダビドサナエを採集. 寄せ蛾記(64):1342
- 碓井 徹 (1986) 北本市石戸宿のトンボ類. 寄

- せ蛾記(48):740-741
 ——— (1988) 北本市石戸宿でネアカヨシヤンマを採集。寄せ蛾記(51):896
- (1991) 北本市石戸宿でカトリヤンマを採集。寄せ蛾記(58):1087
- (1991) 石戸宿、その後(1)。
 寄せ蛾記(62):1189-1204
- (1992) 石戸宿、その後(2)。
 寄せ蛾記(64):1355-1362
- (1993) 石戸宿、その後(3)。
 寄せ蛾記(68):1509-1512
- 鵜殿清文・他 (1974) 黄昏活動性のヤンマ3種。
 佳香蝶(100):95-98
- 枝 重夫 (1979・2版) トンボの採集と観察,
 ニューサイエンス社
- 環境庁・編 (1980) 日本の重要な昆虫類・南関東版。
 (埼玉県) 大蔵省印刷局:45-50
- 昆虫愛好会 (1969) 栃木県のトンボ。インセクト
 vol. 20(1):99
- 山陰むしの会・編 (1993) 山陰のトンボ。
 山陰中央新報社:70
- 三宮幸雄 (1991) 北本市石戸宿でオオギンヤン
 マを採集。寄せ蛾記(61):1178
- (1991) 北本市石戸宿でコノシメトン
 ボを採集。寄せ蛾記(61):1178
- (1992) 北本市でダビドサナエを採集。
 寄せ蛾記(64):1342
- 清水典之 (1992) トンボ。自刊:72
- 杉村光俊 (1985) トンボ王国。新潮社:86
- 杉村光俊・井弘行 (1990) トンボ王国へようこそ。
 岩波書店:巻末2
- 巣瀬 司 (1993) 嵐山のビオトープはビオト
 プか?。寄せ蛾記(67):
 1476-1477
- 高橋 衛 (1990) 北本市石戸宿でアオサナエを
 採集。寄せ蛾記(56):1037
- 長須房次郎 (1973) 埼玉のトンボ。埼玉県動物誌
 仮目録(3)。
 埼玉県教育委員会:3-31
- (1978) 埼玉のトンボ類。埼玉県動物誌
 埼玉県教育委員会:403-432
- 西田 彰 (1993) 埼玉県下におけるトンボ類の
 採集記録。寄せ蛾記(69):
 1534-1538
- (1993) 北本市石戸宿でミルンヤンマの
 採集記録。寄せ蛾記(69):1538
- 浜田 康・井上 清 (1992・2版) 日本産トンボ大図
 鑑。講談社
- 浜田 康 (1991) 土佐のトンボ。高知新聞社
 :103
- 森 博志 (1987) 北本市石戸宿でホンサナエを
 採集。寄せ蛾記(50):843

(うえはら いちろう
 〒343 越谷市花田1-19-2)

埼玉県産半翅類雑記(15)

野沢 雅美

◎ 埼玉県におけるツヤアオカメムシ
 (異翅目 カメムシ科) の記録

ツヤアオカメムシ *Glaucias subpunctatus* (WALKER) は、14~16mm、全体緑色で油状光沢をもつカメムシである。日本の分布は北海道を除く本州・四国・九州で、沖縄にも広く分布する。国外では台湾・中国・セレベス・スマトラ・ジャワに分布する東洋区系の分布型を示す種である。

ミカン類を加害することでもよく知られるが、モモやナシの実にもつく果樹害虫で、特に近畿地方以南に個体数が多い。

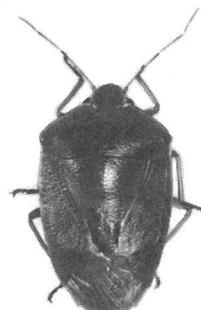
関東地方北部には珍しい種であり、埼玉県からはこれまで1966年に浦和市で採集された記録があるのみであった。しかし近年県内における本種の確認が相次ぎ、筆者は、1989年以降5個体を採集している。水戸市立博物館の成田行弘氏によれば茨城県内でも個体数が増えているという。埼玉県は、本種の北限域にあたると考えられるが、青森県からも採集されているという事実(市田忠夫氏私信)もあり、今後は分布に注目していきたい。

埼玉県内でも比較的普通に見られるようになつた、モンキアゲハと同様に分布を次第に北に広げている昆虫といえる。

埼玉県内におけるツヤアオカメムシの採集例

1. 浦和市常磐町 13.Oct.1966 (1個体) 磯田洋二氏採集
2. 秩父郡小鹿野町合角 16.Sep.1989 (1♂) Light Trap
3. 秩父郡長瀬町県立自然史博物館 20.Sep.1991 (1♀)
4. 大里郡寄居町桜沢 23.Sep.1991 (1♂) 死個体
5. 比企郡滑川町森林公園 12.Jan.1992 (1♀)
6. 大里郡寄居町桜沢 20.Aug.1992 (1♀) Light Trap

会員諸氏で、埼玉県内において本種を目撲したり、採集された方はぜひご一報下さい。



(のざわ まさみ
 〒369-12 大里郡寄居町桜沢 2506-4番地)

埼玉県産甲虫類の分布資料[3]

小田 博

今回はコメツキムシ科・ケシキスイムシ科・オオキノコムシ科・ゴミムシダマシ科の各科について報告する。標本をお寄せ下さった小堀文彦・竹内崇夫・内田正吉・碓井 徹・吉越 肇の各氏に深謝申し上げる(※印は『埼玉県動物誌』に未記録)。

《コメツキムシ科 ELATERIDAE》

1. サビキコリ *Agrypnus binodulus* (MOTSCHULSKY)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 22.vi.1980; 1頭, 23.vii.1980; 苗間・大井陸橋, 3頭, 20.viii.1981 [街灯].
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 10.v.1981 [小田久美子採集]; 1頭, 20.viii.1981 [小田晶採集]; 上南畠, 1頭, 21.viii.1981.
 【所沢市】堀之内, 1頭, 3.ix.1983 [碓井徹採集].
 【秩父郡】吉田町・城峰山, 2頭, 29.vi.1989 [碓井徹採集].
 【北本市】石戸宿, 2頭, 5.vii.1989; 1頭, 31.vii.1989; 2頭, 29.ix.1989; 1頭, 12.v.1991; 1頭, 4.vii.1993 [以上碓井徹採集].
2. ムナビロサビキコリ *Agrypnus cordicollis* (CANDEZE)
 【富士見市】水子, 1頭, 5.v.1982 [叩網].
 【入間郡毛呂山町】鎌北湖, 1頭, 5.vi.1983 [叩網].
3. ホソサビキコリ *Agrypnus fuliginosus* (CANDEZE)
 【北本市】石戸宿, 1頭, 17.v.1992 [内田正吉採集].
 【比企郡】嵐山町鎌形, 1頭, 13.vi.1993 [吉越肇採集].
4. ヒメサビキコリ *Agrypnus scrofa* (CANDEZE)
 【秩父郡大滝村】川又, 1頭, 26.vii.1983 [街灯].
 【児玉郡神泉村】秩父瀬・神流川河原, 1頭, 2.x.1993 [内田正吉採集].
5. ウバタマコメツキ *Paracalais berus* (CANDEZE)
 【日高市】日和田山, 3頭, 5.i.1989 [アカツ樹皮下].
6. オオクシヒゲコメツキ *Tetrigus lewisi* CANDEZE
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 3.viii.1981 [小田晶採集].
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 16.viii.1981 [街灯].
7. マダラチビコメツキ *Aeoloderma agnatum* (CANDEZE)
 【富士見市】上沢3丁目, 5頭, 12.iv.1981 [休耕地:草の根際].
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 19.viii.1981; 1頭, 29.viii.1981; 1頭, 23.ix.1981 [以上街灯].
8. ヒゲコメツキ *Pectocera fortunei* (CANDEZE)
 【日高市】横手・関ノ入谷津, 1頭, 5.vi.1983 [叩網].
 【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 30.vi.1984 [灯火].
9. キアシヒラタクロコメツキ [アシヒラタヒガコメツキ] *Ascoliocerus fluvialis* (LEWIS) ※
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 12.v.1984; 3頭, 29.iv.1985 [渓流際石下].
10. ヒラタクロコメツキ [ヒラヒサコメツキ] *Ascoliocerus saxatilis* (LEWIS) ※
 【秩父郡大滝村】入川林道, 1頭, 22.iv.1989 [渓流際石下].
11. クロカネコメツキ *Gambrinus atricolor* (LEWIS)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 12.v.1983.
 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 3.v.1987 [内田正吉採集].

12. ベニコメツキ [ニホンコメツキ] *Denticollis nipponensis* OHIRA ※
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 9.v.1983.
 【秩父郡両神村】広河原付近, 1頭, 19.v.1988.
13. ミヤマベニコメツキ *Denticollis miniatus* (CANDEZE)
 【秩父郡荒川村】若御子山, 2頭, 13.v.1985; 熊倉山, 1頭, 30.iv.1990.
 【秩父市】武甲山, 2頭, 12.vi.1993 [叩網].
14. メスグロホタルコメツキ [メスグロベニコメツキ] *Denticollis versicolor* (LEWIS) ※
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 22.vi.1987.
15. ガロワムネスジダンダラコメツキ *Harminius galloisi* MIWA ※
 【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 1頭, 30.vii.1984 [灯火].
16. オオツヤハダコメツキ *Stenagostus umbratillis* (LEWIS)
 【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 7頭, 30.vii.1984; 川又, 4頭, 24.viii.1985 [以上灯火].
 【秩父市】浦山字毛附, 1頭, 8.viii.1989 [灯火].
 【秩父郡小鹿野町】坂本, 1頭, 2.viii.1989; 1頭, 3.viii.1989 [以上碓井 徹採集].
 【比企郡小川町】金勝山, 1頭, 20.viii.1993 [碓井 徹採集].
17. メダカツヤハダコメツキ *Medakathous jactatus* (LEWIS) ※
 【秩父郡東秩父村】笠山, 1頭, 25.vii.1981.
 【秩父市】武甲山, 1頭, 29.vii.1992 [掬網].
18. ツヤハダコメツキ [クロツヤハダコメツキ] *Hemicrepidius secessus* (CANDEZE)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 29.v.1982 [叩網].
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 4.vii.1983 [叩網].
 【秩父郡大滝村】秩父湖, 1頭, 14.vii.1983 [叩網]; 三峰山, 1頭, 30.vi.1984 [石下]; 入川・矢竹沢, 1頭, 30.vii.1984 [灯火]; 大血川, 1頭, 5.vii.1992 [内田正吉採集].
 【秩父郡両神村】昇竜ノ滝付近, 1頭, 22.viii.1985 [落葉下].
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 12.vi.1987; 1頭, 16.vi.1987; 1頭, 17.vi.1991.
 【秩父郡吉田町】城峰山, 1頭, 29.vi.1989; 1頭, 5.viii.1989 [以上碓井 徹採集].
 【日高市】北平沢, 1頭, 2.vii.1989 [碓井 徹採集].
 【秩父郡小鹿野町】八丁峠, 1頭, 2.viii.1989; 坂本, 1頭, 2.viii.1989; 1頭, 3.viii.1989 [以上碓井 徹採集].
 【大里郡寄居町】中間平, 1頭, 17.vi.1990 [内田正吉採集].
 【秩父郡東秩父村】登谷牧場, 1頭, 21.vi.1992 [内田正吉採集]..
 【北本市】高尾, 2頭, 27.vi.1992 [内田正吉採集]; 石戸宿, 4頭, 12.vi.1992 [碓井 徹採集].
 【秩父市】武甲山, 1頭, 29.vii.1992.
 【上尾市】西原, 1頭, 30.v.1993 [竹内崇夫採集].
 【所沢市】狭山湖付近, 1頭, 28.vi.1993.
19. ヒメクロツヤハダコメツキ *Hemicrepidius desertor* (CANDEZE) ※
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 28.vii.1986.
20. ドウガネヒラタコメツキ *Corymbitodes gratus* (LEWIS)
 【富士見市】水子, 1頭, 26.iv.1981; 2頭, 5.v.1982 [叩網]; 1頭, 5.v.1993 [掬網].
21. ホソヒラタコメツキ [クロヒラタコメツキ] *Corymbitodes concolor* (LEWIS) ※
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 29.iv.1985 [小田 晶採集]; 浦山広河原谷, 2頭, 28.iv.1991 [飛翔中].
 【秩父郡大滝村】中津川, 1頭, 29.vi.1989 [碓井 徹採集].
22. アカヒゲヒラタコメツキ *Neopristilophus serrifer* (CANDEZE)
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 29.vi.1981 [街灯].
 【上尾市】西原, 1頭, 30.v.1993 [竹内崇夫採集].
23. ウストラフコメツキ *Selatosomus vagapictus* (LEWIS)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 16.v.1982 [叩網].

24. アカハネフトヒラタコメツキ *Acteniceromorphus fulvipennis* (LEWIS) ※
 【入間郡名栗村】湯基入林道, 1頭, 28. iii. 1982 [飛翔中].
 【大里郡寄居町】深田谷津～馬騎ノ内, 1頭, 14. v. 1989 [内田正吉採集].
 【秩父郡皆野町】城峰山, 1頭, 16. v. 1993 [竹内崇夫採集].
25. シモフリコメツキ *Actenicerus pruinosis* (MOTSCHULSKY)
 【大里郡寄居町】折原, 1頭, 19. iv. 1992 [内田正吉採集].
26. ヒメキマダラコメツキ *Gamepenthes similis* (LEWIS) ※
 【秩父市】武甲山, 1頭, 31. vii. 1988 [飛翔中].
27. コナガコメツキ *Penthelater plebejus* (CANDEZE)
 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 23. vii. 1990 [内田正吉採集].
28. ムネアカクロコメツキ *Ischnodes sanguinicollis maiko* W. SUZUKI ※
 【秩父郡東秩父村】笠山, 1頭, 25. vii. 1981.
29. アカコメツキ *Ampedus orientalis* (LEWIS)
 【秩父郡大滝村】入川渓谷, 1頭, 11. vi. 1984 [叩網]; 中津川, 1頭, 29. vi. 1989 [碓井徹採集].
30. オオアカコメツキ *Ampedus optabilis* (LEWIS) ※
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 5. v. 1986 [朽木].
 【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 1頭, 23. iv. 1989 [朽木]; 三国峠, 1頭, 29. vi. 1989 [碓井徹採集].
 【秩父郡両神村】白井差, 1頭, 12. viii. 1993 [竹内崇夫採集].
31. アカハラクロコメツキ *Ampedus hypogastricus* (CANDEZE)
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 2頭, 28. iii. 1981; 2頭, 24. xi. 1986; 6頭, 5. iv. 1988 [朽木].
 【入間郡越生町】高取山, 4頭, 3. v. 1982.
 【秩父郡大滝村】滝川林道, 1頭, 25. vii. 1983 [小田晶採集].
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 29. iv. 1985.
 【比企郡小川町】青山, 6頭, 18. i. 1987 [朽木].
 【飯能市】宮沢湖, 1頭, 8. xi. 1990 [倒木樹皮下].
 【大里郡寄居町】深田谷津～馬騎ノ内, 1頭, 14. v. 1989 [内田正吉採集].
 【入間郡毛呂山町】阿諏訪, 1頭, 27. v. 1990 [内田正吉採集].
32. アカアシクロコメツキ *Ampedus japonicus* SILFVERBERG ※
 【秩父郡吉田町】城峰山, 1頭, 29. vi. 1989 [碓井徹採集].
 【秩父郡皆野町】水潜寺, 1頭, 16. v. 1993 [竹内崇夫採集].
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 12. vi. 1993 [アイシモツ花上].
33. ナガナカグロヒメコメツキ *Dalopius exilis* KISHII ※
 【秩父郡小鹿野町】坂本, 1頭, 3. viii. 1989 [碓井徹採集].
 【秩父郡大滝村】黒岩尾根, 1頭, 2. viii. 1993 [碓井徹採集].
34. ヨツキボシコメツキ *Ectinoides insignitus* (LEWIS) ※
 【入間郡越生町】高取山, 2頭, 3. v. 1982 [叩網].
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 20. vi. 1982 [叩網].
 【日高市】横手・関ノ入谷津, 1頭, 5. vi. 1983 [叩網].
 【大里郡寄居町】深田谷津, 1頭, 14. v. 1989 [内田正吉採集].
35. ヒメカバイロコメツキ *Agriotes elegantulus* LEWIS ※
 【秩父郡両神村】白井差, 2頭, 12. viii. 1993 [竹内崇夫採集].
36. オオナガコメツキ *Elater sieboldi* (CANDEZE)
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 5. viii. 1981 [小田久美子採集].
 【比企郡小川町】金勝山, 1頭, 20. viii. 1993 [碓井徹採集].
37. ヒゲナガコメツキ *Neotrichophorus junior* (CANDEZE) ※
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 8. vi. 1981 [叩網].
 【秩父郡大滝村】二瀬, 1頭, 1. vi. 1989 [碓井徹採集].

38. キバネホソコメツキ *Dolerosomus gracilis* (CANDEZE) ※
 【入間郡越生町】高取山, 8頭, 3.v.1982; 1頭, 18.iv.1983 [以上叩網].
 【秩父郡小鹿野町】河原沢, 1頭, 5.vi.1988.
 【大里郡寄居町】深田谷津, 1頭, 3.v.1982; 1頭, 3.v.1983 [以上内田正吉採集].
39. クチブトコメツキ *Silesis musculus* CANDEZE ※
 【入間郡越生町】黒山三滝, 1頭, 18.viii.1981.
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 20.vi.1982 [叩網]; 白久・鹿の湯付近, 1頭, 9.viii.1982.
 【秩父郡大滝村】滝川林道, 4頭, 25.vii.1983 [小田晶採集]; 川又, 2頭, 25.vii.1983; 1頭, 24.iii.1985; 1頭, 4.viii.1993 [碓井徹採集]; 1頭, 21.viii.1993; 二瀬, 3頭, 29.vi.1989 [碓井徹採集]; 栃木, 2頭, 3.viii.1991; 大滑, 1頭, 5.vii.1992 [内田正吉採集]; 大血川, 1頭, 5.vii.1992 [内田正吉採集].
 【秩父郡両神村】中尾付近, 1頭, 23.vii.1984; 白井差, 1頭, 10.vii.1993 [内田正吉採集]; 1頭, 12.viii.1993 [竹内崇夫採集].
 【日高市】横手, 1頭, 15.vii.1989 [碓井徹採集].
 【秩父郡小鹿野町】志賀坂峠, 2頭, 2.viii.1989; 坂本, 2頭, 3.viii.1989 [以上碓井徹採集].
 【秩父郡吉田町】城峰山, 1頭, 5.viii.1989 [碓井徹採集].
40. キバネクチボソコメツキ *Glyphonyx bicolor* CANDEZE ※
 【富士見市】上沢3丁目, 2頭, 7.vii.1981; 2頭, 27.vi.1982; 3頭, 14.vii.1984 [以上叩網].
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 29.v.1982 [街灯].
 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 24.vii.1992 [内田正吉採集].
 【上尾市】原市・沼南高校前, 1頭, 30.v.1993 [竹内崇夫採集].
41. ハネナガクシコメツキ *Melanotus castanipes matsumurai* (PAYKULL) ※
 【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 2頭, 30.vii.1984; 川又, 2頭, 21.viii.1993 [以上灯火].
42. アカアシオオクシコメツキ *Melanotus cete* CANDEZE
 【富士見市】諷訪1丁目, 2頭, 25.v.1981.
 【比企郡小川町】勝呂字石田, 2頭, 23.v.1982.
 【入間郡毛呂山町】阿諷訪, 1頭, 27.v.1990 [内田正吉採集].
43. クロクシコメツキ *Melanotus senilis* CANDEZE
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 1.iv.1981 [小田晶採集]; 1頭, 15.v.1982.
 【比企郡小川町】笠原付近, 1頭, 18.v.1981.
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 11.v.1982; 2頭, 21.v.1984 [以上叩網].
 【入間郡三芳町】北永井, 3頭, 11.v.1982 [叩網].
 【秩父郡大滝村】三峰山, 2頭, 19.vi.1983 [叩網].
44. ヒラタクロツヤクシコメツキ *Melanotus correctus* CANDEZE ※
 【秩父郡皆野町】破風山, 1頭, 23.v.1991 [飛翔中].
45. クシコメツキ *Melanotus legatus* CANDEZE
 【富士見市】渡戸, 1頭, 26.vii.1980; 1頭, 13.vi.1984 [小田久美子採集]; 1頭, 30.iv.1984 [小田晶採集]; 1頭, 1.viii.1992; 1頭, 17.vi.1993.
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 29.vi.1981; 1頭, 27.vii.1981 [以上街灯]; 大井・弁天の森, 1頭, 16.v.1982 [叩網]; 1頭, 2.vii.1983 [街灯]; 1頭, 22.vii.1984 [樹液].
 【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 2頭, 30.vii.1984 [灯火].
 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 5.vi.1985 [内田正吉採集].
 【日高市】北平沢, 1頭, 2.vii.1989 [碓井徹採集].
 【両神村】白井差, 1頭, 12.viii.1993 [竹内崇夫採集].
46. ナガチャクシコメツキ *Melanotus spernendus* (CANDEZE) ※
 【秩父郡横瀬町】二子山, 2頭, 13.vi.1982.
 【秩父郡荒川村】白久字青梅, 1頭, 7.viii.1984.

【秩父郡両神村】白井差, 1頭, 10.vii.1993 [内田正吉採集].

47. コガタクシコメツキ *Melanotus erythropygus* CANDEZE

【富士見市】諷訪1丁目, 1頭, 25.v.1981.

【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 25.iv.1982; 1頭, 29.iv.1982 [小田晶採集]; 1頭, 11.v.1982; 1頭, 21.v.1984 [以上叩網].

【秩父郡小鹿野町】河原沢, 1頭, 5.vi.1988.

【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 2.v.1986 [内田正吉採集].

【北本市】石戸宿, 1頭, 17.v.1992 [内田正吉採集].

【上尾市】西原, 2頭, 30.v.1993 [竹内崇夫採集].

48. クロツヤミズギワコメツキ

Neohypdonus telluris (LEWIS) ※

【北本市】石戸宿, 1頭, 5.vii.1989; 1頭, 2.vi.1990 [以上碓井徹採集]; 宮岡, 1頭, 27.vi.1992 [内田正吉採集].

49. ヨツモンミズギワコメツキ *Migawa quadrillum* (CANDEZE)

【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 6.vi.1982 [小田晶採集]; 2頭, 12.vi.1982 [石下].

50. ミズギワコメツキ [ミズギワコメツキ] *Migawa curatus* (CANDEZE) ※

【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 16.v.1983 [渓流際石下].

【秩父郡大滝村】秩父湖, 1頭, 14.vii.1983; 入川渓谷, 2頭, 26.vii.1983 [渓流際石下]; 1頭, 11.vi.1984; 2頭, 10.viii.1986 [渓流際石下]; 川又, 2頭, 24.viii.1985 [渓流際石下]; 大滑, 4頭, 5.vii.1992 [河原砂地].

【秩父郡両神村】広河原付近, 2頭, 23.vii.1984 [河原砂地].

51. オオハナコメツキ *Platynychus notus* (CANDEZE)

【秩父市】浦山字毛附, 1頭, 8.viii.1989 [灯火].

【秩父郡小鹿野町】坂本, 1頭, 2.viii.1989 [碓井徹採集].

52. アカアシハナコメツキ *Platynychus adjutor* (CANDEZE)

【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 11.v.1982 [叩網].

【日高市】北平沢, 1頭, 2.vii.1989 [碓井徹採集].

【秩父市】浦山字毛附, 1頭, 8.viii.1989 [灯火].

【北本市】石戸宿, 1頭, 12.v.1991 [碓井徹採集].

【上尾市】西原, 4頭, 30.v.1993 [竹内崇夫採集].

53. クロハナコメツキ *Cardiophorus pinguis* LEWIS

【秩父郡皆野町】城峰山, 1頭, 16.v.1993 [竹内崇夫採集].

《ケシキスイムシ科 NITIDULIDAE》

1. キイロチビハナケシキスイ *Heterhelus japonicus* (REITTER) ※

【富士見市】水子, 2頭, 26.iv.1981; 3頭, 19.iv.1993 [以上ニトコの花の叩網].

【入間郡大井町】大井・弁天の森, 12頭, 25.iv.1982; 22頭, 22.iv.1985 [以上ニトコの花の叩網].

【秩父市】橋立渓谷, 4頭, 29.iv.1985 [ヤマキの花].

【北本市】石戸宿, 1頭, 28.iii.1993 [内田正吉採集].

2. クロチビハナケシキスイ *Heterhelus morio* (REITTER) ※

【入間郡越生町】高取山, 3頭, 3.v.1982 [叩網].

【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 29.iv.1985.

3. カタベニデオキスイ *Urophorus humeralis* (FABRICIUS) ※

【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 19.x.1981 [腐植質]; 2頭, 16.xi.1981; 2頭, 12.x.1987

[以上樹液]; 大井字東原, 7頭, 26.x.1981; 2頭, 28.viii.1982 [以上腐植質].

【富士見市】水子, 1頭, 31.v.1987 [樹液].

4. ハラグロデオキスイ *Carpophilus sibiricus* REITTER

- 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 29.v.1982 [樹液].
- 【入間郡三芳町】北永井, 1頭, 12.vi.1982 [樹液]; 1頭, 17.x.1983 [腐植質].
- 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 2頭, 18.v.1985 [内田正吉採集].
5. クリイロデオキスイ *Carpophilus marginellus* MOTSCHULSKY
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 12.x.1987 [樹液].
6. クロハナケシキスイ *Carpophilus chalybeus* MURRAY
【富士見市】勝瀬, 1頭, 25.vii.1980; 上沢3丁目, 5頭, 20.v.1984 [ヒメヨン花上].
- 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 1.x.1980 [タガバコの花の中].
- 【秩父郡大滝村】滝川林道, 1頭, 25.vii.1983 [小田晶採集]; 川又, 3頭, 10.viii.1986 [腐果実].
- 【北本市】宮岡, 1頭, 27.vi.1993 [内田正吉採集].
- 【大里郡江南町】押切, 1頭, 25.ix.1993 [内田正吉採集].
7. ウスチャデオキスイ *Carpophilus freemani* DOBSON ※
【秩父郡大滝村】川又, 2頭, 10.viii.1986 [腐果実].
- 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 1.x.1988 [内田正吉採集].
8. クリヤケシキスイ *Carpophilus hemipterus* (LINNE)
【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 4頭, 1.x.1988 [内田正吉採集].
9. モンチビヒラタケシキスイ *Haptoncus ocularis* (F AIMAIR)※
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 26.x.1981; 1頭, 12.x.1987 [以上樹液].
- 【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近, 3頭, 9.viii.1982 [腐植質].
- 【秩父郡大滝村】川又, 10頭, 10.viii.1986 [腐果実].
- 【秩父郡横瀬町】芦ヶ久保, 8頭, 26.viii.1991 [腐果実].
- 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 19.v.1993 [内田正吉採集].
10. マメヒラタケシキスイ *Haptoncurina paulula* (REITTER) ※
【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 15.v.1983 [ヤガマの叩網].
- 【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 30.vi.1984; 川又, 3頭, 21.viii.1993 [灯火採集].
- 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 13.ix.1989 [内田正吉採集].
11. ハバビロヒラタケシキスイ *Epuraea dura* (REITTER)
【富士見市】水子, 1頭, 5.v.1982 [叩網].
12. ウスモンアカヒラタケシキスイ *Epuraea kyushuensis* SJÖBERG ※
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 11.v.1982 [叩網].
- 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 6.v.1984 [腐植質].
13. ヒゲブトヒラタケシキスイ *Epuraea depressa* (ILLIGER) ※
【秩父郡大滝村】入川渓谷, 2頭, 9.x.1987 [掬網].
14. ヒメヒラタケシキスイ *Epuraea domina* REITTER ※
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 5.v.1986 [落葉下].
15. ナミヒラタケシキスイ *Epuraea pellax* REITTER ※
【秩父郡横瀬町】二子山, 5頭, 8.v.1982 [叩網]; 5頭, 13.vi.1982.
- 【秩父市】武甲山, 1頭, 29.vii.1992 [掬網]; 1頭, 15.ix.1993; 橋立渓谷, 1頭, 12.vi.1993 [アイシモツ花上].
- 【秩父郡両神村】白井差, 1頭, 10.vii.1993; 2頭, 12.viii.1993 [竹内崇夫採集].
16. クロヘリヒラタケシキスイ *Epuraea adumbrata* MANNERHEIM ※
【秩父郡大滝村】入川渓谷, 1頭, 9.x.1987 [掬網].
17. ヘリムネヒラタケシキスイ *Epuraea bickhaldti* DEVILLE ※
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 16.xi.1981 [樹液].
18. カクヒホソヒラタケシキスイ *Epuraea rapax* REITTER ※
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 28.vii.1986 [叩網].
- 【秩父郡両神村】白井差, 2頭, 12.viii.1993 [竹内崇夫採集].

19. ホソキヒラタケシキスイ *Epuraea parilis* REITTER
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 11.v.1982 [叩網].
 【大里郡寄居町】上の原, 1頭, 24.ii.1990 [内田正吉採集].
20. オオヒラタケシキスイ *Aphenolia pseudosoronia* REITTER
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 1.i.1985 [樹皮下]; 1頭, 15.vii.1985 [樹液].
21. キボシヒラタケシキスイ *Omosita colon* (LINNE) ※
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 12.iv.1981 [腐植質].
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 6.v.1984 [腐植質].
22. ヘリグロヒラタケシキスイ *Omosita discoidea* (FABRICIUS)
 【富士見市】水子, 1頭, 26.iv.1981 [叩網]; 上沢3丁目, 2頭, 12.iii.1992.
23. マルキマダラケシキスイ *Stelidota multiguttata* REITTER
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 8.vii.1986 [多孔菌].
24. コクロヒラタケシキスイ *Ipidia sibirica* (REITTER) ※
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 27.iv.1986.
 【秩父郡両神村】広河原付近, 1頭, 23.vii.1984 [朽木].
25. クロヒラタケシキスイ *Ipidia variolosa* REITTER
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 8.v.1982 [叩網]; 芦ヶ久保, 1頭, 22.iii.1987 [朽木樹皮下].
 【入間郡越生町】高取山, 1頭, 6.iv.1984 [朽木樹皮下].
 【秩父郡荒川村】日野字下日野, 1頭, 23.iv.1984 [樹皮下]; 熊倉山, 1頭, 22.vi.1987 [朽木].
 【入間郡名栗村】炭谷入, 1頭, 4.v.1987 [樹皮下].
 【秩父郡大滝村】大峰林道, 3頭, 10.x.1987 [伐採木樹皮下].
 【秩父市】武甲山, 1頭, 31.vii.1988 [アゲロタケ]; 2頭, 12.vi.1993 [樹皮下].
 【秩父郡東秩父村】登谷山, 1頭, 20.vii.1993 [小堀文彦・洋子・貴文採集].
26. クロキマダラケシキスイ *Soronia lewisi* REITTER ※
 【富士見市】上沢3丁目, 4頭, 27.vi.1981.
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 4頭, 26.x.1981; 1頭, 29.v.1982; 1頭, 18.ix.1982; 1頭, 12.x.1987 [以上樹液].
 【入間郡三芳町】北永井, 2頭, 12.vi.1982 [樹液].
 【比企郡吉見町】八丁湖, 1頭, 2.vii.1993 [竹内崇夫採集].
27. アミモンヒラタケシキスイ *Physoronia hillieri* (REITTER) ※
 【所沢市】中富, 1頭, 8.x.1984 [軟質キノコ].
28. キノコヒラタケシキスイ *Physoronia explanata* REITTER ※
 【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 19.vi.1983; 3頭, 21.viii.1988 [アゲロタケ].
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 1.x.1984; 16頭, 5.v.1986 [ツルコシカケ類].
29. ケモンヒラタケシキスイ *Atarphia fasciculata* REITTER
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 26.vii.1984 [朽木].
30. アカマダラケシキスイ *Lasiodactylus pictus* (MACLEAY)
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 17.viii.1980 [小田晶採集].
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 7.vii.1981 [街灯]; 大井字東原, 1頭, 30.viii.1982 [腐植質].
31. マルガタカクケシキスイ *Pocadites japonus* (REITTER)
 【富士見市】上沢3丁目, 4頭, 27.vii.1993 [カタタケ].
32. ウスオビカクケシキスイ *Pocadites dilatimanus* (REITTER)
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 7.vi.1993 [叩網].
 【秩父市】武甲山, 1頭, 12.vi.1993 [多孔菌].
33. クロモンカクケシキスイ *Pocadites nobilis* REITTER
 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 3.v.1989 [内田正吉採集].

34. ナガコゲチャケシキスイ *Amphicrossus lewisi* REITTER
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 6頭, 29.v.1982; 5頭, 18.ix.1982; 4頭, 12.x.1987 [以上樹液].
 【比企郡吉見町】八丁湖, 5頭, 17.vii.1993 [竹内崇夫採集].
35. ドウイロムクゲケシキスイ *Aethina aeneipennis* REITTER
 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 15.v.1982 [叩網].
36. クロモンムクゲケシキスイ *Aethina maculicollis* REITTER
 【大里郡寄居町】桜沢字中小前田, 1頭, 29.iv.1985 [内田正吉採集].
37. ヨツボシセマルケシキスイ *Cychramus variegatus* (HERBST) ※
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 2頭, 1.x.1984 [軟質キコ].
38. キイロセマルケシキスイ *Cychramus dorsalis* REITTER ※
 【入間郡名栗村】伊豆ヶ岳, 1頭, 28.ix.1984 [軟質キコ].
 【飯能市】正丸峠, 1頭, 28.ix.1984 [軟質キコ].
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 15頭, 1.x.1984 [軟質キコ].
 【秩父郡東秩父村】大霧山, 13頭, 14.x.1984 [軟質キコ].
39. ヨツボシアカマルケシキスイ *Cylloides punctidorsum* NAKANE et HISAMATSU ※
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 18.ix.1983; 6頭, 1.x.1984 [シメ類].
40. ワモンマルケシキスイ *Cylloides nakanei* HISAMATSU ※
 【秩父市】武甲山, 4頭, 31.vii.1988 [カクリタケ].
41. クリイロマルケシキスイ *Pallodes umbratilis* REITTER ※
 【秩父市】武甲山, 8頭, 31.vii.1988 [サツモドキ].
42. タテスジマルケシキスイ *Neopalloides omogonis* HISAMATSU ※
 【秩父郡大滝村】大血川, 1頭, 27.viii.1983 [既発表, 本誌(41):518].
 【秩父郡両神村】広河原付近, 1頭, 23.vii.1984 [軟質キコ].
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 8頭, 26.vii.1984 [軟質キコ]; 1頭, 1.x.1984 [シメ類].
 【秩父市】武甲山, 12頭, 31.vii.1988 [サツモドキ]; 1頭, 28.vii.1993 [軟質キコ].
43. ネアカマルケシキスイ *Neopalloides inermis* REITTER ※
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 13.vi.1982 [叩網].
44. ツヤマルケシキスイ *Neopalloides vicinus* GROUVELLE ※
 【秩父郡大滝村】三峰山, 7頭, 27.viii.1983 [カクリタケ].
- ◆ 以前, 本誌(41):518, No.12に<マルマルケシキスイ>として記録したものは, 本種の誤りであったので, 訂正しておきたい.
- 【秩父郡両神村】丸神の滝付近, 5頭, 23.vii.1984 [カクリタケ].
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 9頭, 26.vii.1984; 12頭, 1.x.1984 [軟質キコ].
 【秩父市】武甲山, 27頭, 31.vii.1988 [軟質キコ].
45. トゲナシチビケシキスイ *Meligethes placidus* EASTON
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 13.vi.1982.
46. キベリチビケシキスイ *Meligethes violaceus* REITTER ※
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 21.v.1984 [叩網].
 【秩父市】橋立渓谷, 1頭, 29.iv.1985 [ヤマキの花の叩網]].
47. ナミモンコケシキスイ *Cryptarcha strigata* (FABRICIUS)
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 29.v.1982; 2頭, 18.ix.1982 [以上樹液].
48. ルイスコオニケシキスイ *Cryptarcha lewisi* REITTER
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 26.x.1981; 7頭, 29.v.1982; 7頭, 18.xi.1982; 6頭, 12.x.1987 [以上樹液].
- 【入間郡三芳町】北永井, 6頭, 12.vi.1982 [樹液].
 【比企郡吉見町】八丁湖, 1頭, 2.vii.1993 [竹内崇夫採集].
49. ヒラタオニケシキスイ *Librodor binaevus* (REITTER) ※

- 【秩父郡両神村】白井差, 2頭, 22.viii.1985 [多孔菌].
50. アカハラケシキスイ *Librodor rufiventris* (REITTER) ※
【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近, 1頭, 9.viii.1982 [腐植質].
51. コヨツボシケシキスイ *Librodor ipsooides* (REITTER)
【秩父郡大滝村】中津川林道, 3頭, 21.viii.1993 [朽木の上].
52. ヨツボシケシキスイ *Librodor japonicus* MOTSCHULSKY
【富士見市】諏訪1丁目, 1頭, 29.vii.1980 [小田晶採集]; 1頭, 11.vii.1981 [樹液]; 上沢3丁目, 1頭, 26.vi.1981 [小田文子採集]; 1頭, 27.vi.1981.
- 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 26.x.1981; 1頭, 16.xi.1981; 2頭, 29.v.1982; 2頭, 1.i.1985; 2頭, 12.x.1987 [以上樹液].
- 【入間郡三芳町】北永井, 2頭, 24.iv.1982 [朽木].
- 【秩父市】浦山字毛附, 1頭, 8.viii.1989 [灯火].
53. ツツオニケシキスイ *Librodor subcylindricus* (REITTER) ※
【秩父郡両神村】白井差, 1頭, 10.vii.1993 [叩網; 竹内崇夫採集].

《オオキノコムシ科 E R O T Y L I D A E》

1. カタモンオオキノコ *Aulacochilus japonicus* CROTCH
【富士見市】諏訪1丁目, 1頭, 30.v.1982.
2. ルリオオキノコ *Aulacochilus sibiricus* REITTER
【朝霞市】朝志ヶ丘1丁目, 1頭, 24.iv.1982 [かわらけ].
3. クロヒラタオオキノコ *Renania atrocyanea* LEWIS ※
【秩父市】武甲山, 1頭, 15.ix.1993 [内田正吉採集].
4. ツヤヒメオオキノコ *Setelia scitula* LEWIS ※
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 13.vi.1982 [既発表, 本誌(42):543].
5. スネビロオオキノコ *Pseudoamblyopus palmipes* (LEWIS) ※
【大里郡寄居町】深田谷津~馬騎ノ内, 1頭, 4.v.1989 [内田正吉採集].
6. クロバチビオオキノコ *Pseudoamblyopus similis* (LEWIS) ※
【秩父市】武甲山, 1頭, 31.vii.1988.
7. ヨツボシオオキノコ *Eutriplax tuberculifrons* (LEWIS)
【秩父市】武甲山, 5頭, 29.vii.1992 [ヒラタ].
8. クロハバビロオオキノコ *Neotriplax atrata* LEWIS ※
【秩父郡大滝村】三峰山, 3頭, 19.vi.1983 [既発表, 本誌(42):543]; 1頭, 1.vii.1984.
【入間郡越生町】高取山, 2頭, 6.iv.1984 [かわらけ].
9. アカハバビロオオキノコ *Neotriplax lewisi* (CROTCH)
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 7頭, 26.x.1981; 3頭, 16.x.1982; 2頭, 23.x.1984 [以上かわらけ].
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 3頭, 21.xi.1983 [かわらけ].
【比企郡鳩山町】赤沼, 2頭, 1.iv.1990 [多孔菌].
10. アイヌチビオオキノコ *Triplax aionia* LEWIS ※
【秩父市】武甲山, 1頭, 29.vii.1992 [ヒラタ].
11. ホソチビオオキノコ *Triplax japonica* (CROTCH) ※
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 8.x.1984.

- 【比企郡鳩山町】石坂, 4頭, 3.xi.1989 [ヒラタケ].
12. アシグロチビオオキノコ *Aporotritoma atripes* (ARAKI) ※
【飯能市】伊豆ヶ岳, 2頭, 28.ix.1984 [多孔菌].
 13. アカモンチビオオキノコ *Aporotritoma consobrina* (LEWIS) ※
【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 30.vi.1984 [朽木].
 14. ベニヘリチビオオキノコ *Tritoma circumcincta* (LEWIS) ※
【秩父郡荒川村】熊倉山, 6頭, 1.x.1984 [アシグロタケ].
【秩父市】武甲山, 4頭, 31.vii.1988 [アシグロタケ].
 15. ヒシモンチビオオキノコ *Tritoma discalis* (LEWIS) ※
【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 26.vii.1984 [朽木].
 16. フタオビチビオオキノコ *Tritoma latifasciata* (LEWIS) ※
【秩父郡両神村】両神山, 1頭, 20.viii.1984 [朽木].
 17. ミツボシチビオオキノコ *Tritoma maculifrons* (LEWIS) ※
【秩父郡大滝村】三峰山, 4頭, 19.vi.1983 [既発表, 本誌(42):543].
 18. クロチビオオキノコ *Tritoma nipponensis* (LEWIS)
【富士見市】水子, 1頭, 5.iv.1981 [朽木樹皮下]; 2頭, 5.v.1982 [カコタケ]; 誠訪1丁目, 2頭, 25.iv.1982 [カコタケ]; 上沢3丁目, 2頭, 27.iv.1986 [カコタケ]; 3頭, 27.vii.1993 [カコタケ].
【朝霞市】朝志ヶ丘1丁目, 10頭, 24.iv.1982 [カコタケ].
【入間郡三芳町】北永井, 5頭, 24.iv.1982.
【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 28.viii.1983 [既発表, 本誌(41):518].
【秩父郡荒川村】熊倉山, 2頭, 26.vii.1984 [朽木]; 1頭, 1.x.1984 [アシグロタケ]; 白久字青梅, 1頭, 7.viii.1984 [カコタケ].
 19. キベリハバビロオオキノコ *Tritoma pallidicincta* (LEWIS) ※
【入間郡三芳町】北永井, 9頭, 24.iv.1982; 1頭, 12.vi.1982 [以上既発表, 本誌(42):543].
 20. ハラアカチビオオキノコ *Tritoma pallidiventris* (LEWIS) ※
【秩父市】武甲山, 1頭, 31.vii.1988 [アシグロタケ].
 21. ベニモンチビオオキノコ *Tritoma sobrina* (LEWIS) ※
【秩父郡東秩父村】登谷山, 3頭, 20.vi.1993 [小堀文彦・洋子・貴文採集].
【秩父郡小鹿野町】納宮, 2頭, 12.vi.1993 [竹内崇夫採集].
 22. ニホンホソオオキノコ *Dacne japonica* CROTCH ※
【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 11.vii.1981 [既発表, 本誌(42):543].
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 6.viii.1982 [同上].
 23. セモンホソオオキノコ *Dacne picta* CROTCH
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 29.vii.1982 [カコタケ].
【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 5.v.1985; 13頭, 12.v.1985; 3頭, 10.x.1985 [以上, カコタケ]; 1頭, 8.vii.1986; 1頭, 11.vi.1993 [以上多孔菌].
 24. ヒメオビオオキノコ *Episcapha fortunei* CROTCH
【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 9.v.1981 [街灯]; 1頭, 6.vi.1982 [街灯: 小田晶採集].
【入間郡三芳町】北永井, 4頭, 24.iv.1982; 上富・多福寺付近, 2頭, 3.viii.1990 [多孔菌].
【富士見市】水子, 1頭, 4.iv.1984 [朽木樹皮下]; 上沢3丁目, 3頭, 28.iv.1985 [カコタケ]; 5頭, 5.vi.1988 [多孔菌].
 25. ミヤマオビオオキノコ *Episcapha gorhami* LEWIS

【秩父郡大滝村】三峰山, 3頭, 27.viii.1983 [既発表, 本誌(41):518]; 秩父御岳山, 1頭, 15.viii.1990.

《ゴミムシダマシ科 TENEBRIONIDAE》

1. スナゴミムシダマシ *Gonocephalum japanum* MOTSCHULSKY
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1頭, 23.vi.1980.
- 【入間郡越生町】黒山三滝, 2頭, 29.viii.1980.
- 【秩父郡大滝村】川又, 1頭, 25.viii.1983 [小田晶採集]; 2頭, 26.vii.1983 [街灯]; 三峰山, 1頭, 30.vi.1984 [ゴミの下].
- 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 6.v.1984 [砂地].
2. ヒメスナゴミムシダマシ *Gonocephalum persimile* (LEWIS) ※
【秩父郡荒川村】白久・荒川河原, 4頭, 7.viii.1984 [石下].
- 【秩父郡大滝村】入川林道, 1頭, 11.vi.1984; 1頭, 22.iv.1989 [以上渓流際石下].
3. クワガタゴミムシダマシ *Atasthalomorpha dentifrons* (LEWIS) ※
【秩父郡大滝村】川又, 1頭, 21.viii.1993 [灯火].
4. コブスジツノゴミムシダマシ *Boletoxenus bellicosus* (LEWIS) ※
【秩父郡大滝村】妙法ヶ岳, 6頭, 28.viii.1983 [既発表, 本誌(41):518].
5. コチビコブツノゴミムシダマシ *Byrsax spiniceps* LEWIS ※
【秩父郡大滝村】入川渓谷, 2頭, 9.x.1987 [菌類].
- 【秩父市】武甲山, 1頭, 12.vi.1993 [多孔菌].
6. モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi* BATES
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 26.vii.1990 [多孔菌].
- 【富士見市】上沢3丁目, 3頭, 19.vi.1993 [多孔菌].
7. フタモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema ornatellum* LEWIS ※
【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 21.viii.1988 [かわら].
8. クロツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema nigroaeneum* MOTSCHULSKY
【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 27.viii.1983; 3頭, 28.viii.1983 [以上既発表, 本誌(41):518]; 1頭, 30.vi.1984 [朽木].
9. アオツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema marseuli* LEWIS ※
【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 27.vi.1993; 1頭, 28.vi.1993 [以上多孔菌].
10. ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydema recticorne* LEWIS ※
【富士見市】水子, 7頭, 4.iv.1984 [枯木樹皮下].
11. ベニモンキノコゴミムシダマシ *Platydema subfascia* (WALKER) ※
【入間郡三芳町】北永井, 1頭, 12.vi.1982; 1頭, 18.ix.1982 [以上かわら]; 上富・多福寺付近, 1頭, 11.x.1992 [朽木].
- 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2頭, 30.ix.1984 [菌類].
- 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 8.vii.1985; 1頭, 14.vii.1985; 2頭, 19.ix.1985; 1頭, 30.ix.1985; 3頭, 10.x.1985; 1頭, 19.vi.1993 [以上かわらなど多孔菌].
- 【浦和市】秋ヶ瀬公園, 7頭, 4.iv.1991 [朽木]; 2頭, 20.vi.1993 [叩網].
12. アカチビゴミムシダマシ *Menimus niponicus* LEWIS ※
【秩父市】蓑山, 1頭, 27.viii.1987 [伐採木樹皮下].
13. ナガニジゴミムシダマシ *Ceropria induta* (WIEDEMANN)
【富士見市】諏訪2丁目, 2頭, 26.vii.1980 [朽木]; 水子, 8頭, 29.x.1984 [枯木内]; 上沢3丁目, 3頭, 2.iv.1991 [朽木樹皮下]; 1頭, 29.v.1993 [菌類].
- 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 3頭, 1.v.1982 [かわら].
- 【入間郡越生町】高取山, 1頭, 3.v.1982 [菌類].
- 【秩父郡荒川村】白久字青梅, 1頭, 6.viii.1984 [朽木樹皮下].

- 【秩父郡横瀬町】丸山, 3頭, 21. ix. 1987 [伐採木樹皮下].
- 【日高市】日和田山, 3頭, 5. i. 1989 [伐採木樹皮下].
- 【飯能市】宮沢, 1頭, 8. xi. 1990 [朽木].
14. クロホシテントウゴミムシダマシ *Derispia maculipennis* (MARSEUL)
 【入間郡越生町】黒山三滝, 8頭, 18. viii. 1981.
- 【秩父郡横瀬町】二子山, 3頭, 13. vi. 1982; 6頭, 20. viii. 1986.
- 【秩父郡荒川村】熊倉山, 2頭, 20. vi. 1982 [苔の上]; 1頭, 26. vii. 1984; 白久字青梅, 2頭, 7. viii. 1984 [かわヶ]; 久那, 1頭, 12. vi. 1993.
- 【秩父郡大滝村】三峰山, 1頭, 19. vi. 1983.
- 【秩父市】武甲山, 1頭, 28. vii. 1993 [内田正吉採集].
15. ヨツコブゴミムシダマシ *Uloma bonzica* MARSEUL
 【秩父郡大滝村】柄本渓谷, 1頭, 26. vii. 1983 [薪の上]; 三峰山, 2頭, 21. viii. 1988 [伐採木樹皮下].
- 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 18. iii. 1985; 2頭, 12. x. 1987; 4頭, 5. iv. 1988; 北永井, 1頭, 23. xi. 1986 [以上朽木].
- 【比企郡小川町】青山, 1頭, 18. i. 1987 [朽木].
- 【狭山市】智光山公園, 2頭, 1. ii. 1987 [朽木].
- 【入間郡越生町】高取山, 5頭, 15. xi. 1992 [朽木].
16. エグリゴミムシダマシ *Uloma marseulti* NAKANE ※
 【入間郡名栗村】湯基入林道, 5頭, 28. iii. 1982 [既発表, 本誌(42): 543].
- 【秩父郡大滝村】川又, 2頭, 26. vii. 1983; 柄本渓谷, 1頭, 26. vii. 1983 [以上既発表, 本誌(42): 543]; 三峰山, 4頭, 21. viii. 1988 [切株樹皮下].
- 【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 18. vi. 1984 [朽木]; 水子, 6頭, 29. x. 1984 [枯木内].
- 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1頭, 6. v. 1984 [朽木]; 4頭, 27. x. 1985 [倒木樹皮下]; 1頭, 12. x. 1987; 8頭, 5. iv. 1988 [以上朽木].
- 【飯能市】大高山, 1頭, 4. xi. 1984 [朽木].
- 【秩父市】浦山字毛附, 1頭, 8. viii. 1989 [灯火].
17. ガイマイゴミムシダマシ *Alphitobius diaperinus* (PANZER)
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 3頭, 7. x. 1980; 1頭, 10. vi. 1981; 1頭, 23. viii. 1982; 1頭, 29. v. 1982; 1頭, 27. vi. 1982 [以上街灯]; 東原, 20頭, 9. xii. 1985 [腐植質].
18. クロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus colydioides* (LEWIS) ※
 【秩父市】武甲山, 1頭, 12. vi. 1993 [叩網].
19. アメイロホソゴミムシダマシ *Hypophloeus gentilis* (LEWIS)
 【浦和市】秋ヶ瀬公園, 1頭, 4. vii. 1991 [叩網].
20. ミツノゴミムシダマシ *Toxicum tricornutum* WATERHOUSE
 【入間郡大井町】苗間・大井陸橋, 1頭, 21. vii. 1981 [街灯; 小田晶採集].
- 【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 6. viii. 1982 [小田晶採集]; 芦ヶ久保, 1頭, 24. x. 1993.
- 【入間郡越生町】高取山, 5頭, 31. viii. 1984 [朽木].
- 【秩父郡荒川村】若御子山, 3頭, 13. v. 1985 [朽木].
- 【秩父市】浦山字毛附, 2頭, 8. viii. 1989 [灯火].
21. ルリゴミムシダマシ *Encyalesthus violaceipennis* (MARSEUL)
 【富士見市】水子, 1頭, 29. x. 1984 [枯木].
22. ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus lunuliger* (MARSEUL)
 【秩父郡大滝村】三峰山, 5頭, 1. vii. 1984 [伐採木].
- 【秩父郡両神村】日向大谷, 1頭, 21. viii. 1984.
- 【飯能市】天覚山, 1頭, 4. xi. 1984 [倒木樹皮下].
23. ツヤヒサゴゴミムシダマシ *Misolampidius okumurai* NAKANE ※

- 【秩父郡東秩父村】笠山, 1頭, 25. vii. 1981 [既発表, 本誌 (42):543].
- 【飯能市】正丸峠, 1頭, 28. ix. 1984 [朽木樹皮下].
- 【秩父郡荒川村】若御子山, 1頭, 13. v. 1985 [朽木樹皮下]; 熊倉山, 2頭, 30. iv. 1990 [倒木樹皮下].
- 【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 1頭, 23. iv. 1989 [朽木].
24. コマルキマワリ *Elixota curva* (MARSEUL)
【秩父郡大滝村】中津川林道, 1頭, 21. viii. 1993.
25. ヒメキマワリ *Plesiophthalmus laevicollis* HAROLD ※
【秩父郡大滝村】三峰山, 2頭, 30. vi. 1984; 1頭, 1. vii. 1984 [伐採木].
- 【秩父市】浦山字毛附, 1頭, 8. viii. 1989 [薪].
26. キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus* MOTSCHULSKY
【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 28. vii. 1980 [朽木]; 1頭, 25. vi. 1981 [小田晶採集]; 1頭, 10. vii. 1982 [小田久美子採集].
- 【入間郡越生町】高取山, 1頭, 14. vii. 1982.
- 【秩父郡両神村】広河原付近, 2頭, 23. vii. 1984 [朽木].
27. ヒメナガキマワリ *Strongylium impigrum* LEWIS ※
【富士見市】上沢3丁目, 1頭, 26. vii. 1980; 1頭, 21. vii. 1981; 諏訪1丁目, 1頭, 24. vii. 1981
[以上既発表, 本誌 (42):543].
28. クロナガキマワリ *Strongylium niponicus* LEWIS
【秩父郡大滝村】入川・矢竹沢, 1頭, 30. vii. 1984 [灯火]; 1頭, 22. viii. 1993 [伐採木]; 三峰山,
1頭, 21. viii. 1988 [伐採木樹皮下].
- 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1頭, 22. vi. 1987 [朽木].
29. ホソヒゲナガキマワリ *Ainu tenuicornis* LEWIS
【秩父郡横瀬町】二子山, 1頭, 13. vi. 1982.
【入間郡毛呂山町】鎌北湖, 1頭, 5. vi. 1983 [叩網].

前回の訂正 : 《カツオブムシ科》No. 5 の採集者名の前に<以上>を, 《ジョウカイモドキ科》No. 3 に
[内田正吉採集]を, 《キスイムシ科》No. 2 【大里郡寄居町】の項に[以上内田正吉採集]を, 同じく No. 4
の採集者名の前に<以上>を, 《コメッキモドキ科》No. 1 の採集者名の前に<以上>を, 《ホソカタムシ科》
No. 3 に[内田正吉採集]を, 同じく No. 4 【大里郡寄居町】の項で, 1993年の採集地名<折原>を, それぞ
れ挿入する.

(おだ ひろし 画354 富士見市上沢 3-6-15)

千葉県野田市とその隣接地域で記録したトンボ

上原 市郎

以下の報告は野田市を中心に1991年～1993年の記録をまとめたもの。野田市として括ってはいるが、実際はほんの一部での記録にすぎない。池沼にしろ河川にしろまだ記録できるフィールドは多いものと思う。筆者の地元である越谷市より興味深いフィールドが多いが、行こうと思いつながら実行できない地がかなりあり、心残りであるのと同時に今後の楽しみでもある。今年から2年間ぐらいは埼玉県内だけで手一杯になりそうだが、暇を見つけて出向きたいと思っている。

ただ残念なのは座生沼のかなりの部分が埋め立てられてしまったことだ。埋め立てが開始された1991年初めて出向いたので、遅かりしである。確かに生活排水の為の水質悪化やゴミも多かったが、湿地にハンノキとヤナギということでトンボ・チョウ共に生息を予想できる種類がかなりあった。

なお、野田市の記録はその名称を省略してある。

イトトンボ科

アオモシイトトンボ

東金野井：1♀, 1991. May. 4. 東金野井五駄沼：6♂11♀(1♀は♂型の♀), 1991. May. 28.

アジアイトンボ

東金野井：1♂1♀, 1991. May. 28. 小山：1991. May. 28.

いろいろな場所で目撃しているが、群棲というほど多産しているところはなかった。

クロイトトンボ

小山：21♂17♀(8♀青色型), 1991. May. 28.

この生息地は釣り堀に隣接した草地。当時は羽化後間もない個体が湧き出るように発生していた。この日以後7月にはいつても個体数は多かったが、1992年には環境が変わっていて激減していた(激減していたが30頭以上は確認している)。

ムスジイトトンボ

船形はきだし沼：2♂, 1991. Jul. 7; 3♂, 1992. Jun. 29.

セスジイトトンボのつもりで探っていて1・2年間気がつかなかつたが、埼玉県内

の個体を調べている時に芋蔓式に判明した。♀も調べてみたが、本種は見つからなかつた。

オオイトトンボ

小山：21♂13♀(7♀青色型), 1991. May. 28. 船形はきだし沼：; 4♂, 1992. Jun. 29.

沼地には大概見られるが、目撃できなかつたところも結構あった。

セスジイトトンボ

小山：8♂7♀, 1991. May. 28. 東葛飾郡関宿町大字木問ヶ瀬字出洲：1992. May. 29. 船形又八沼：多数目撃, 1992. Jul. 27.

小山以外に多産しているところはなかつた。

オオセスジイトトンボ

船形はきだし沼：7♂, 1991. Jul. 7; 36♂(帰り際に25♂は解放), 1991. Jul. 8; 2♂2♀(いずれも未熟個体), 1992. Jun. 29.

舟形の沼で本種が見られたのは、はきだし沼と差以内沼にそれと命名のないもうひとつ沼だけであった。はきだし沼では多く、1991. Jul. 8. には捕獲した以外にも多数目撃した。当日は♀も多かったが交尾しているものばかりで、岸辺には全く近寄らなかつたので採集はできなかつた。「♀は曇天の今にも泣き出しそうな空模様の時には、岸辺の草本に静止している」という話も聞いているが、曇天時には訪れたことがないので確認できなかつた。1992. May. 29. には全く目撃できず、1992. Jun. 29. にも個体数が少なく未成熟虫ばかりで、他に何頭か見ているがいずれも羽化後間もない体色が白っぽい個体だけであった。平年に比較するとかなり発生の遅れがあったのだろう。これ以後はちょうど1ヶ月後の1992. Jul. 29. に出向いたが、目撃すらできなかつた。1993年には残念ながら生息地を訪れる機会がなかつた。本種はイトトンボとしては飛翔のスケールが大きく、獲物を見つけた時には急上昇することもあつた。また、種名

plagiosum の通りイトトンボ類を捕食する場面が普通に見られ、アオモンイトトンボの♂♀、アジアイトンボ♀、クロイトトンボ♀、セスジイトボ♂、オオイトトンボ♂が♂の餌食になっていた（ムスジイトトンボは不明）♂の水色と♀の緑色が美しい種類だが、標本にすると体色が残り難く、アセトンを使用しても体色が少し黒ずんでくすんでしまうのは残念だ。

モノサシトンボ科

オオモノサシトンボ

船形はきだし沼：1♂, 1992.Jun.29；1♂(未成熟個体), 1992.Jul.29. 船形又八沼：1♀(未成熟個体, 他に何頭か目撃), 1992.Jun.29.

1991年には全く見られなかつたのが不思議なくらいだが、個体数は多くなさそうだ。水神沼には以前は多産していたそうだが、釣り堀になって全滅したという話を聞いている。この辺りの沼ではいりまえ沼がいちばん大きかったが、完全に埋め立てられてしまった。土地の人の話によると、産業廃棄物の投棄場所にする為ですぐに埋めつくされてしまったという。はきだし沼とさんない沼の間にある沼も危険な状況だ。沼の持ち主が何人にもわたっているらしいので、開発の手を逸れるのはそう簡単ではなさそうだ。

アオイトトンボ科

アオイトトンボ

東金野井：1♂2♀, 1992.Oct.3.

夏期には全く見られなかつた。5・6m先に居る個体でも複眼が青く光るので容易に判別できた。

ホソミオツネントンボ

舟形浅沼：1♂目撃, 1992.May.29.

水田の水面ギリギリに飛翔していたが、かなり強かった風に乗って飛び去り、結局見失ってしまった。

サナエトンボ科

ウチワヤンマ

舟形又八沼：1♂, 1992.Jul.27.

ヤシマ科

サラサヤンマ

東金野井：1頭目撃, 1991.May.26.

この日以外には目撃していない。

アオヤンマ

流山市東深井：1♂(もう一頭目撃してい

るが、この個体は利根運河の方向にきえてしまつた), 1992.May.2. 中野台：1♂, 1991.Jun.4. 座生沼 1♂, 1991.Jun.4. 東金野井：1♀, 1991.May.28；3♂1♀. 1991.Jun.5；2♂1♀. 1992.May.17；2♂2♀. 1992.May.19；6♂2♀. 1992.May.22；4♂1♀. 1992.May.29；3♂1♀. 1992.Jun.16.

1993.May.12. には未発生のようだつた。東金野井の湿地では割合普通に見られた。この湿地はちょっとした谷になつていて、もともとは水田だったという。20年ぐらい前から休耕田となって湿地化したようだ。所有者は複数ということだが、場所柄の為に残ってきたのだろう。この湿地で本種の黄昏飛翔を観察できた。1992.Jul.27. の18:45～19:05頃まで、ハイスピードで飛んでいた。昼間の行動が信じられないくらいに速かつた。昼間草地に踏み込むと驚いて飛び上がる個体がよくいるが、一旦腹部を折り曲げてから飛翔体勢に這入るのからくに採れてしまう。黄昏時にはこの昼間のノロノロさは全く見られなかつた。杉村(1985)の160項にサラサヤンマの例が出てゐるが、本種でも同様な印象がある。他産地のネアカヨシャンマでもそうだが、未成熟個体でもクモの巣の糸が絡みついている個体が多かつた。

ただ埼玉県産と共にかなり小型の個体が多く、ギンヤンマと比べると見劣りがする。翅色は♂でも未成熟個体では黄色っぽい傾向があつた。過去には舟形でも採集されてゐるそうだ。

ギンヤンマ

東金野井：1♂, 1991.May.28；1♀. 1992.May.19；1♀. 1992.May.29；1♂1♀(他にも3頭目撃), 1992.Oct.3；2頭目撃, 1993.Sep.11. 舟形はきだし沼：3♂, 1991.Jul.8. 東葛飾群関宿町大字木間ヶ瀬字出洲：1頭目撃, 1992.May.29.

今まで見てきたところでは、池沼があればどこででも大概見られた。

エゾトンボ科

オオヤマトンボ

舟形又八沼：1♂, 1992.Jul.27.

意外に少なく、目撃はこの一例だけである。

トンボ科

ハラビロトンボ

東金野井：1♂, 1991.May.26.

記録はこの1♂だけで、以後目撃もない。

湿地の奥まった場所で採れた。

シオカラトンボ

東金野井：多数目撃，1991.May. 6.

何故か水質の良い池沼では個体数が少ないような印象がある。

シオヤトンボ

東金野井：3♂, 1992.May. 17.

1991年には見られず，1993.May. 12. にも見られなかった。♀はまだ確認していない。

コフキトンボ

東金野井五駄井沼：2♂10♀(6♀オビ型)，1991.May. 28. 東金野井：1♂3♀(3♀オビ型)，1991.May. 28. 舟形はきだし沼：1♀(オビ型)，1991.Jun. 7.

オビ型は普通に見られた。オビ型の新鮮な個体は翅色が青み掛かった真珠色とオレンジ色に輝き，そのコントラストが美しい。初めて見た時には，一瞬何だかわからなかつた。

ショウジョウトンボ

東金野井：1♂(未成熟個体)，1991. May. 28；1♀(未成熟個体)，1992.May. 22. 舟形はきだし沼：1♂, 1991.Jun. 7；4♂, 1991.Jul. 8.

いろいろな池沼でその姿を認めたが，個体数は少ないようで，一か所で全目撃数が10頭を越えた例はない。1991年に比較すると1992年にはどこでも個体数は少なかった。

アキアカネ

東金野井：1♀, 1992.Oct. 3. 尾崎江戸川河川敷：大群が移動中，1991.Jun. 27 (10:20頃)

尾崎の江戸川上空に大群が南西方向に移動中であった。視界360° 全体にトンボの群れの途切れがなかった。いくつか捕獲したがいずれも未成熟で柔らかい個体であった。翌日にも同所を通過したが，個体数は激減していた。

ナツアカネ

東金野井：1♂2♀, 1992.Oct. 3.

マイコアカネ

東金野井：4♂2♀(他に数頭目撃)，1992.Oct. 3.

1993.Sep. 11. には未発生のようだった。

ノシメトンボ

東金野井：1♀(他に数頭目撃)，1991. Jun. 27；多数目撃，1993.Sep. 11.

コシアキトンボ

東金野井五駄井沼：2♂(他に数頭目撃)，1991.Jun. 27.

チョウトンボ

東金野井五駄井沼：1♀(他に数頭目撃)，1991.Jun. 27. 舟形はきだし沼：3♂1♀(他に数頭目撃)，1991.Jul. 7；2♂，1991.Jul. 8. 舟形浅沼：多数目撃，1991.Jul. 7；多数目撃，1991.Jul. 8.

東金野井では1992年の目撃なし。舟形でも1992年には前年に比較して個体数が少なかった。

ウスバキトンボ

東金野井：多数目撃，1992.Jul. 27.

[参考文献]

石田昇三・他 (1989・2版) 日本産トンボ幼虫・成虫検索図説. 東海大学出版会

大野正男 (1976) 千葉県のトンボ類研究史.

千葉県敬愛短大生物研究会会報(8): 1-23

環境庁編 (1980) 日本の重要な昆蟲類.

南関東版(千葉県). 大蔵省印刷局: 5.43-48

斎藤洋一 (1991) 1991年7月千葉県北西部の蜻蛉類採集記録. 房総の昆虫 No. 4:17-18

杉村光俊 (1985) トンボ王国. 新潮社: 160

奈良岡弘治 (1987) オオセスジイトンボの観察
(1). 月刊むし No. 194:20-21

奈良岡弘治 (1988) オオセスジイトンボの観察
(2). 月刊むし No. 206:20-23

奈良岡弘治 (1989) オオセスジイトンボの観察
(3). 月刊むし No. 222:14-15

浜田康・井上清 (1992・2版) 日本産トンボ大図鑑. 講談社

広瀬誠 (1977) ことしのとんぼとり抄-1972年- 瑠璃星 vol. 5 (2):95-104

広瀬誠 (1977) オオモノサシトンボメモ. 瑠璃星 vol. 5 (2):121-123

広瀬誠 (1977) アオモンイトンボは北を目指すか. 瑠璃星 vol. 5 (2):123-125

松本和雄・他 (1991) 野田市およびその周辺の蜻蛉類. 房総の昆虫 No. 3:14-15

宮崎俊行・他 (1993) 千葉県の蜻蛉相. 湘南昆虫 vol. 3

(うえはら いちろう

〒343 越谷市花田 1-19-2)

県民の森採集調査記録

—蛾：シャチホコガ科—

利根川 雅実・築比地 秀夫

1992年5月23日（土）から9月27日（日）まで
採集調査を行った。（寄せ蛾記参照）
6回行った夜間採集中でシャチホコガの記録が
まとまつたので報告する。

- シャチホコガ上科 NOTODONTOIDEA
- シャチホコガ科 Notodontidae
- 1. ギンモンスズメドキ, *Tarsolepis japonica*
20-VI-1992 利
- 2. シャチホコガ, *Stauropus fagi*
20-VI-1992 5exes 利
- 3. ヒメシャチホコ, *Neostauropus basalis*
20-VI-1992 利, 29-VIII-1992 築
- 4. アオシャチホコ, *Quadricalcarifera japonica*
20-VI-1992 利
- 5. ナカグロモクメシャチホコ, *Furcula lanigera*
1-VIII-1992 築
- 6. ギンシャチホコ, *Haypyia umbrosa*
(STAUDINGER)
4-VII-1992 3exes 利, 4-VII-1992 築
- 7. ムラサキシャチホコ, *Uropyia meticulodina*
4-VII-1992 築
- 8. ホソバシシャチホコ, *Fentonia ocyptete* (BUTLER)
29-VIII-1992 利, 20-VI-1992, 4-VII-1992,
29-VIII-1992 築
- 9. ツマキシャチホコ, *Phalea assimilis*
1-VIII-1992 築
- 10. モンクロシャチホコ, *Phalea flavescens*
4-VII-1992, 1-VIII-1992 利, 4-VII-1992, 1-
VIII-1992 築
- 11. クロテンシャチホコ, *Urodonta branickii*
20-VI-1992 4exes 利, 20-VI-1992 築
- 12. ナカスジシャチホコ, *Nerice bipartita*
4-VII-1992 築
- 13. カバイロモクメシャチホコ,
Hupodonta corticalis
1-VIII-1992 2exes, 29-VIII-1992 2exes 利,
4-VII-1992, 1-VIII-1992 築
- 14. アオバシャチホコ, *Zaranga permagna*
20-VI-1992 3exes, 1-VIII-1992 利,
20-VI-1992 築
- 15. クビワシャチホコ, *Shaka atrovittatus*
20-VI-1992 築
- 16. セダカシャチホコ, *Rabtala cristata*
20-VI-1992, 4-VII-1992 利, 20-VI-1992 築
- 17. アオセダカシャチホコ, *Rabtala splendida*
20-VI-1992 4exes, 4-VII-1992 利, 20-VI-

- 1992 築
- 18. トビスジシャチホコ, *Notodonta stigma*
29-VIII-1992 築
- 19. アカネシャチホコ, *Peridea lativitta*
29-VIII-1992 利, 4-VII-1992,
29-VIII-1992 築
- 20. ナカキシャチホコ, *Peridea gigantea*
4-VII-1992, 20-VI-1992, 1-VIII-1992, 29-
VIII-1992 利
- 21. イシダシャチホコ, *Peridea graeseri*
29-VIII-1992 4exes 利, 29-VIII-1992 築
- 22. ニトベシャチホコ, *Peridea aliena*
4-VII-1992, 1-VIII-1992 利, 4-VII-1992 築
- 23. スズキシャチホコ, *Suzykiana cinerea*
20-VI-1992 2exes 利, 29-VIII-1992 築
- 24. コトビモンシャチホコ, *Drymonia japonica*
4-VII-1992 築
- 25. ハイイロシャチホコ, *Microphalera grisea*
29-VIII-1992 築
- 26. ヤスジシャチホコ, *Epodonta linea*
4-VII-1992 3exes 利, 4-VII-1992, 29-VIII-
1992 築
- 27. ツマジロシャチホコ, *Hexafennum leucodera*
4-VII-1992 利, 1-VIII-1992,
29-VIII-1992 築
- 28. ハガタエグリシャチホコ,
Hagateryx admirabilis
1-VIII-1992 2exes 利, 4-VII-1992 築
- 29. エゾエグリシャチホコ, *Ptilodon jezoensis*
29-VIII-1992 築
- 30. クロエグリシャチホコ, *Ptilodon okanoi*
20-V-1992 利, 20-VI-1992, 4-VII-1992, 29-
VIII-1992, 築
- 31. タテスジシャチホコ, *Togepteryx velutina*
4-VII-1992 築
- 32. ウスイロギンモンシャチホコ,
Spatialia doerriesi
4-VII-1992 2exes 利, 4-VII-1992 築
- 33. オオエグリシャチホコ, *Pterostoma sinicum*
20-VI-1992 2exes, 4-VII-1992 卵 利, 20-VI-
1992 築

なお、同定にあたっては故市川和夫氏にお世話を
なったことを記し、感謝致します。

(とねがわ まさみ 〒336 浦和市三室 3471-1,
ついひじ ひでお 〒川口市前川 4-13-2)

成熟期を主としたミルンヤンマ成虫の生態

新井 裕

ミルンヤンマ *Planeaschna milnei* は、日本特産の小型のヤンマで、関東地方では山間地や丘陵地に比較的普通にみられる種である。本種の幼虫期の生活史と形態については先に報告した（新井、1988, 1989）。このたび断片的ながら埼玉県下で成熟個体を中心に成虫の生態を観察し、若干の知見を得たので報告する。

1. 生息分布域

埼玉県下のいくつかの地点で、幼虫の採集によっておおまかな生息分布調査を行ったところ、奥秩父山地、外秩父山地、児玉丘陵、比企丘陵、高麗丘陵、狭山丘陵などの県の西部から北部に至る地域に広く分布していることが確認できた。また、幼虫の生息する流水域は、ムカントンボが生息するような水の冷たい原流域からコヤマトンボやコオニヤンマが生息する中流域まで連続的に見られるほか、水田用のかんがい水路や側溝、湿地内を流れる細流など、産卵場所が存在しない所まで広範囲にわたった。一方、それに反して成虫の活動域は、スギやヒノキが生育する薄暗い林や流れの近くの雑木林などに限定されていた。

2. 未熟成虫の活動

成虫は6月下旬～7月にかけて羽化し、11月初旬までの約3か月間にわたってみられた。

流水上で成熟個体が現れるのは9月中旬からであるので、それ以前は未成熟期間と考えられるが、その間の成虫を日中に見かけることは稀であった。観察例は少ないが、雑木林の木立ちに静止中の個体をみかけることがあったので、恐らく日中は林内で生活しているものと思われる。日没後、かなり暗くなると林道上や流水上等に未成熟個体が現われ、それらの一定空間を不規則に敏速に飛翔しつつ盛んに摂食活動をおこなった。日没後に摂食活動をおこなう点はカトリヤンマと同様であるが、カトリヤンマの方がより遅い時刻に現れ、活動場所もより開放的な場所を好む傾向が認められた。また、カトリヤンマではやや大型の昆虫を捕えた場合には静止して摂食するケースがみられたが、本種ではそのような例は観察されず、常に微小虫のみを飛びながら捕食した。

3. 成熟成虫の活動

1993年に寄居町の平倉川（写真1）と同町の円良田湖に注ぐ小溪流（写真2）において観察をおこなったところ、成熟成虫は10月を中心に9月中旬から11月上旬までみられた。成熟個体の水域での行動は、主に雄の探雌飛翔と、雌の産卵行動で、同地で観察した結果を以下のとおりであった。

1) 探雌飛翔

雄の探雌飛翔は川の上をジグザグ状に飛翔して交尾相手の雌を探すもので、シーズン中は雨天でない

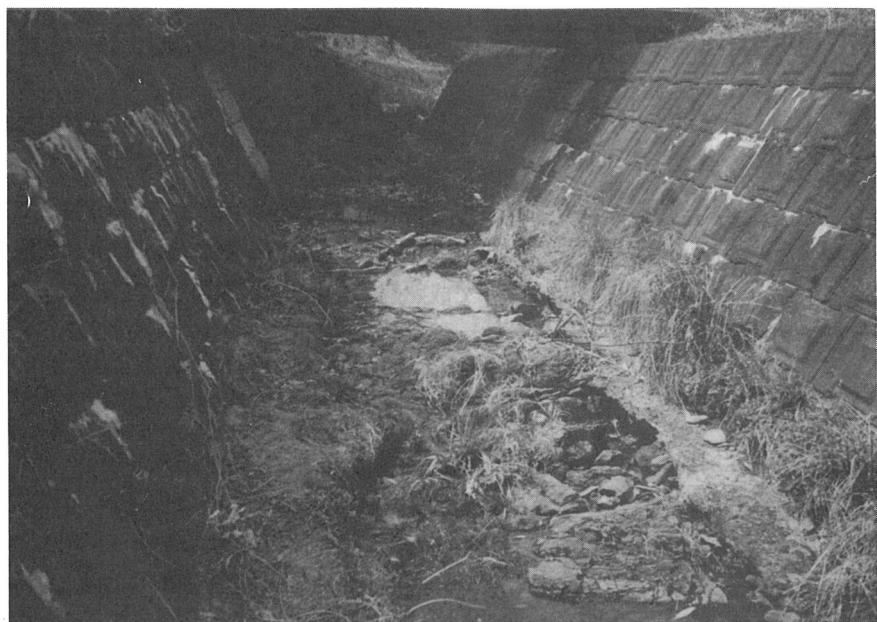


写真1. 寄居町平倉川

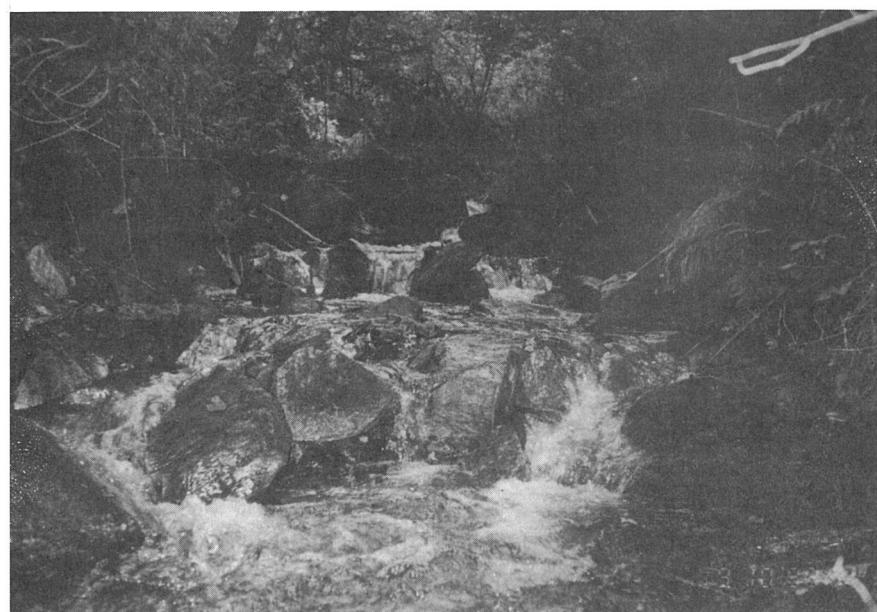


写真2. 円良田湖に注ぐ溪流

限り朝から夕方までみられた。本種の探雌飛翔はコシボソヤンマのそれと酷似しているが、いくらかスピードが緩やかな印象を受けた。また、オニヤンマのように、突然Uターンして元のコースを引き返すような明瞭な一定空間の往復飛翔は認められなかった。すなわち、雄は水面上を低空でややホッピングするように、一定方向を岸辺沿いを中心に飛翔するもので、途中に倒木や苔むした石など産卵対象物があると、そのたびにその付近で一瞬停止飛翔するか周回するような動作を示した。また、他の個体と遭遇した時以外は途中で進行方向を変えることなく、上流なら上流へどこまでも登りつめていくようであった。しかし、片道飛行ということではなく、どこかの場所で引き返すものと思われる。一地点において飛行コースを観察したところ、55個体の飛来が認められ、その内訳は上流から下流に飛行したものが26例、その逆のものが29例で、両者はほぼ同数であった。このことは、同一の個体が流下と遡上とをおこなっていることを示すものであろう。飛翔中の個体が、川の途中につる草等が被いかぶさっている場所にさしかかると、上空へ向きを変えて樹林の間隙をすり抜けるケースがみられ、その一方、そのような場所では上空から水面に飛翔した雄が進行方向を定めるかのように旋回した後、一定方向への探雌飛翔を開始するのが観察された。さらに、探雌飛翔中の雄同士が対面した場合、一方の雄が引き返して探雌飛翔を再開する例も多くみられた。これらのことから、進行を妨げる障害物や他雄との出会いによって進行方向が変化し、その結果同一個体が一定水域を往復することになるものと推察される。

探雌飛翔中の雄同士が出会った時の行動には排他性あるいは攻撃性は認められなかった。すなわち、相手を認めた方の雄が急接近し、一瞬交錯するが（このとき、相手につかみかかることも稀にあった）、すぐに両者は離れ、

1. それぞれそのまま進行方向を変えずに探雌飛翔を再開する。
2. 一方が樹上に去り、他方はそのまま探雌飛翔を続ける。
3. 一方が樹上に去り、他方はUターンして探雌飛翔を続ける。
4. 一方はUターンし、他方はそのままの方向で、それぞれ探雌飛翔を続ける。

のいずれかの行動を示した。

探雌飛翔中の雄が雌を発見したときは、直線的に雌につかみかかり、交尾をいどむが、飛翔中の雌に対しては捕捉に失敗することが多かった。また、産卵中の雌に対しては発見率は低く、雌のそばまで接近しながら気付かず通過してしまうケースが多かったが、発見した場合には捕捉に成功し、交尾態となつた。

雄の探雌飛翔と雌の飛来時刻との関係を知るため、一地点において観察し、雌雄別に飛来個体数を記録した。その結果は表1に示したとおりで、雄は朝から夕方まで探雌飛翔をおこない、概して午後に盛んになるのに対し、雌では主として午前中に飛来して産卵する傾向が認められた。以上のように、本種の雄は産卵水域を丹念に飛翔してそこに飛来した雌を獲得するという交尾戦略をとっており、その際にテリトリー性は認められなかった。流水域に産卵する種でも、オナガサナエやミヤマカワトンボ等、テリトリーを有する種がある一方で、本種がテリトリー型の交尾戦略をとらなかった理由としては、以下の点が挙げられよう。

1. 産卵場所が集中しておらず、雌が特定の場所に集まらない。
2. 産卵継続時間が長く、産卵場所を次々と変える傾向がある。
3. 生殖水域には木や岩等の障害物が多く、見通しが悪い。

表1. 観察地点におけるミルンヤシマの飛来状況

観察日 (天気)	観察時間	飛来個体数(頭)	
		オス	メス
10月3日 (くもり)	9:45~10:15	4	0
	10:15~10:45	6	0
	10:45~11:15	9	0
	11:15~11:45	0	0
10月9日 (快晴)	10:15~10:45	1	3
	10:45~11:15	0	1
10月10日 (快晴)	11:30~12:00	1	4
	12:00~12:30	3	4
	12:30~13:00	5	2
	13:00~13:30	11	0
	13:30~14:00	11	0
	14:00~14:30	19	0
	14:30~15:00	9	0
	15:00~15:30	6	2
10月16日 (くもり)	10:10~10:40	3	0
	10:40~11:10	8	0
	11:10~11:40	3	0
10月23日 (くもり)	14:20~14:50	19	0
	14:50~15:20	6	0

これらの諸点は雄が一定空間を占有して雌の飛来を待つよりは、あちこちと移動して雌を探した方が、雌と出会い確率が高いことを示すものと思われる。なお、時に探雌飛翔中の雄が水面上の一定空間をホヴァリングを交えて定住飛翔するケースがみられたが（写真3），この場合も他雄が飛来しても排他性は認められず、せいぜい5～6分間飛び続けるだけで、通常の探雌飛翔に移行した。この行動は9月に見られたので、比較的若い成熟個体が示す行動かも知れない。

2) 交尾と産卵

空中又は地上で雌の捕捉に成功した雄は連結態となって飛び上ると同時に交尾態となり、一気に樹上に上昇した。連結後、交尾までは瞬時に成立し、その間に移精は行わないようであった。交尾はかなり高い樹梢付近に静止しておこなうが、詳細を観察することはできなかった。

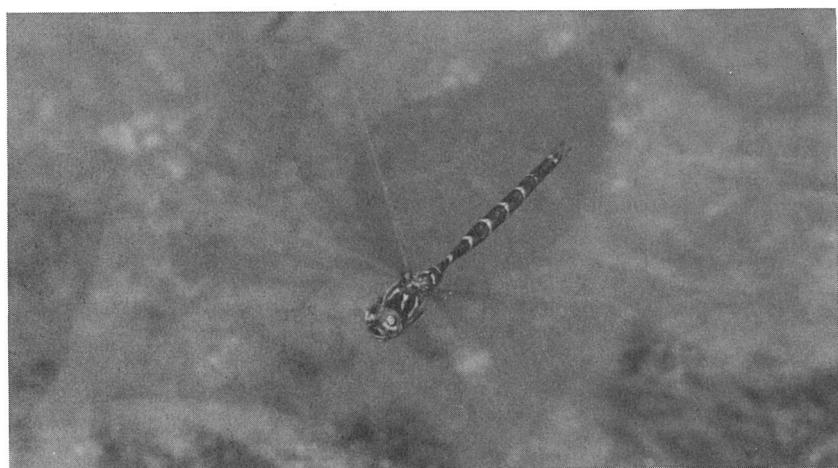


写真3. 水面上をホヴァリング中のミルンヤンマ雄

雌は上空の樹間から流水上に飛来し、岸辺に沿ってゆっくり飛翔しつつ産卵場所を探索した。探索行動は、静止して産卵管をあちこち挿入するもので、岸の壁面の土くれや、苔、岩石、倒木、流れにひっかかったゴミなどに対して産卵管の挿入行動がみられた。これらのうち、産卵対象物として最も適しているのは朽ちて柔らかくなったうえ湿り気を帯びた木質部で、特に小さな木片が好まれるようであった。産卵探索時の雌は神経質的にせわしなく飛び移るが、適当な産卵場所に遭遇すると産卵に集中し(写真4)，人が目前まで迫っても逃避しなかった。幅2cm、長さ10cmの小さな木片に1時間15分に亘ってあちこち向きを変えつつ産卵を継続した雌を観察したことがある。

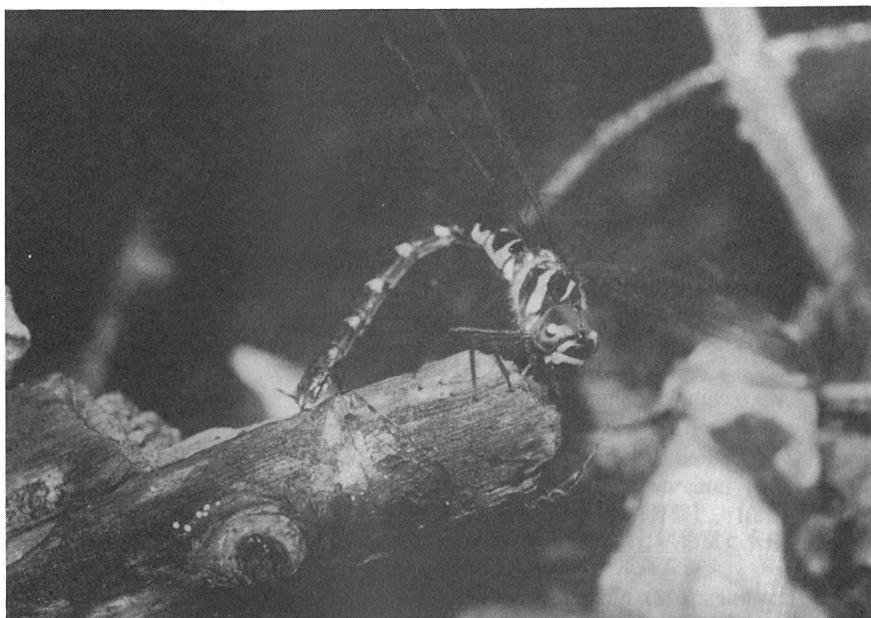


写真4. 産卵に熱中するミルンヤンマ雌

産卵中の雌は、時折り翅を震わせるが、人が近づくと、警戒するかのように産卵行動と翅の振動を中断するのが観察された。

3) 摂食行動

成熟期の摂食行動は未熟期と異なり、朝から夕方まで時刻を問わずみられた。主に、渓流付近の樹林に囲まれた小空間でおこなわれ、そこを数分間にわたってせわしなく飛び回りつつ微小虫を摂食した。また、摂食飛翔をおこなっていた個体がそのまま渓流に入って探雌飛翔に移行する場合や、その逆に、探雌飛翔を行っていた個体が渓流から離れて摂食飛翔に移るケースもみられた。さらに、探雌飛翔中に微小虫を捕食することもあった。

4) 天敵

産卵場所を探索中の雌が、徘徊のクモに捕らえられたのを1例、探雌飛翔中の雄がクモの巣にひっかかったのを1例観察した。

引用文献

新井 裕, 1988 ミルンヤンマ幼虫の生活史に関する知見. TOMBO, 31:53-56.

新井 裕, 1989 ミルンヤンマ幼虫の記載. 月刊むし, 220:24-25.

(あらい ゆたか 〒369-12 大里郡寄居町末 1233-2)

飯能市長沢のハムシ

藤多文雄

奥武藏のハイキングコースの一つ、顔振峠（こうぶりとうげ）の近辺で、1987年から1991年にかけて採集目撃したハムシ類を目録にしてみた。ここは西武秩父線吾野駅の北東にひろがる全山スギヒノキでおおわれた低山地帯で、標高はふもとの長沢部落で200m、顔振峠で530mほどであるが、峠の直下には集落もある。

1. キイロクビナガハムシ
Lilioceris rugata (BALY)
1 ex., 29. Jun. 1988, 1 ex., 16. May. 1989
普通。
2. アカツヤクビナガハムシ
Lilioceris subpolita (MOTSCHULSKY)
1 ex., 10. May. 1991
3. ホソクビナガハムシ
Lilioceris parvicollis (BALY)
1 ex., 10. Jul. 1990
4. ルリクビボソハムシ
Lema cirsicola CHOJO
2 exs., 16. May. 1989, 11. Jul. 1989 (目撃)
普通。
5. カワリクビボソハムシ
Lema diversa BALY
21. Sep. 1988 (目撃), 11. Jul. 1989 (目撃) 人家の付近のツユクサでツマキ型が見られた。
6. キベリクビボソハムシ
Lema adamsii BALY
1 ex., 14. Jun. 1988, 1 ex., 26. Oct. 1988
7. クコクビボソハムシ
Lema decempunctata GEBLER
14. Jun. 1989 (無紋型・目撃)
8. ヤマイモクビボソハムシ
Lema honorata BALY
14. Jun. 1988 (目撃), 11. Jul. 1989 (目撃) 普通。
9. アワクビボソハムシ
Oulema dilutipes (FAIRMAIRE)
5 exs., 11. Jul. 1989, 2 exs.,

12. Sep. 1989 黒色型も混棲する。
10. ムナキナガツツハムシ
Smaragdina semiaurantiaca (FAIRMAIRE)
16. May. 1989 (目撃), 1 ex., 11. May. 1990
11. クロボシツツハムシ
Cryptocephalus signaticeps BALY
1 ex., 10. May. 1991
12. ヨツモンクロツツハムシ
Cryptocephalus nobilis KRAATZ
1 ex., 10. May. 1991
13. バラツツハムシ
Cryptocephalus approximatus BALY
2 exs., 11. May. 1990, 10. May. 1991 (目撃)
イタドリに多く見られた。
14. カシワツツハムシ
Cryptocephalus scitulus BALY
1 ex., 22. Sep. 1987
15. ツヤハムシ
Oomorphoides cupreatus (BALY)
11. Jul. 1989 (目撃), 10. May. 1991 (目撃) 青色型と銅色型とともに産する。
16. ヒメキバネサルハムシ
Pagria signata (MOTSCHULSKY)
26. Oct. 1988 (目撃), 11. May. 1990 (目撃)
17. トビサルハムシ
Trichochrysea japonica (MOTSCHULSKY)
1 ex., 14. Jun. 1988, 11. Jul. 1989 (目撃)
18. クロオビカサハラサルハムシ
Hyperaxis fasciata (BALY)
1 ex., 26. Oct. 1988, 14. Jun. 1989 (目撃)
19. *Demotina vernalisIsono*
2 exs., 14. Jun. 1989
20. コフキサルハムシ
Lypesthes ater (MOTSCHULSKY)
1 ex., 27. May. 1988, 1 ex., 14. Jun. 1989
21. アカガネサルハムシ
Acrothinium gaschkevitchii (MOTSCHULSKY)
29. Jun. 1988 (目撃), 16. May. 1989 (目

- 擊)
22. カバノキハムシ
Syneta adamsi BALY
2 exs., 11. May. 1990, 1 ex., 10. May. 1991
23. ヨモギハムシ
Chrysolina aurichalcea (MANNERHEIM)
1 ex., 21. Sep. 1988, 26. Oct. 1988 (目撃)
ともに青色型。
24. ハッカハムシ
Chrysolina exanthematica (WIEDEMANN)
1 ex., 12. Jul. 1988
25. フジハムシ
Gonioctena rubripennis BALY
27. May. 1988 (目撃), 1 ex., 14.
Jun. 1989 (黒化型) 普通。
26. サンゴジュハムシ
Pyrrhalta humeralis (CHEN)
10. Jul. 1990 (目撃) 峠近くの人家の生垣のサンゴジュに多数発生していた。
27. サクラケブカハムシ
Pyrrhalta semifulva (JACOBY)
1 ex., 14. Jun. 1989, 2 exs., 11. May. 1990
サクラ類に普通。
28. ウリハムシ
Aulacophora femoralis (MOTSCHULSKY)
12. Sep. 1989 (目撃), 11. May. 1990 (目撃)
29. クロウリハムシ
Aulacophora nigripennis MOTSCHULSKY
27. May. 1988 (目撃), 26. Oct. 1988 (目撃) 多い。
30. ヨツボシハムシ
Paridea quadriplagiata (BALY)
21. Sep. 1988 (目撃)
31. アトボシハムシ
Paridea angulicollis (MOTSCHULSKY)
14. Jun. 1988 (目撃), 5. Aug. 1988 (目撃) 極めて多い。
32. クロバヒゲナガハムシ
Taumacera tibialis (JACOBY)
1 ex., 12. Jul. 1988, 1 ex., 11. Jul. 1989
33. クワハムシ
Fleutiauxia armata (BALY)
14. Jun. 1988 (目撃), 16. May. 1989 (目撃) 普通。
34. *Luperus* sp.
1 ex., 16. May. 1989, 3 exs., 10. May. 1991
未記載種。♂はジョウカイ類のような印象を与え、♀はクロウスバハムシ *L. morii* に似る。
35. ハラグロヒメハムシ
Calomericrus cyaneus (JACOBY)
1 ex., 27. May. 1988, 10. May. 1991 (目撃)
- 普通。
36. ハラマダラヒメハムシ
Exosoma akkoae (CHŌJŌ)
1 ex., 14. Jun. 1989 ウツギの花に多い。
次種とともに埼玉県初記録。
37. ニセキバラヒメハムシ
Exosoma chujoi (NAKANE)
1 ex., 12. Jul. 1988, 1 ex., 5. Aug. 1988
38. キバラヒメハムシ
Exosoma flaviventre (MOTSCHULSKY)
1 ex., 11. Jul. 1989
39. ウリハムシモドキ
Atrachya menetriesi (FALDERMANN)
2 exs., 11. Jul. 1989 シロツメクサを食害していたものを採集。目撃したものを含め10頭ほどの中には黒色型は見つからなかった。
40. ホタルハムシ
Monolepta dichroa HAROLD
11. Jul. 1989 (目撃), 12. Sep. 1989 (目撃) ホタル型を産する。
41. アオバノコヒゲハムシ
Sphenoraia intermedia JACOBY
1 ex., 14. Jun. 1988 スイーピングで得た。
42. カワリヒゲナガハムシ
Arthrotus niger MOTSCHULSKY
1 ex., 14. Jun. 1989 体全体が黒色の個体。
43. イタドリハムシ
Gallerucida bifasciata MOTSCHULSKY
5. Aug. 1988 (目撃), 11. May. 1990 (目撃) 普通。
44. ブドウカバイロハムシ
Gallerucida flavipennis (SOLSKY)
1 ex., 16. May. 1989 大型で目立つ色彩のハムシであるが、1頭得たにすぎない。
45. ホソカミナリトビハムシ
Altica oleracea (LINNE)
26. Oct. 1988 (目撃), 14. Jun. 1989 (目撃) アレチマツヨイグサとともに分布を抜けたと考えられる種。
46. ゲンノショウコカミナリトビハムシ
Altica viridicyanea (BALY)
26. Oct. 1988 (目撃), 11. May. 1990 (目撃) 普通。
47. アザミカミナリトビハムシ
Altica cirsicola OHNO
2 exs., 14. Jun. 1988, 小型で緑味が強い個体。
48. ホソルリトビハムシ
Aphthonaltica angustata (BALY)
2 exs., 27. May. 1988, 1 ex., 16. May. 1989
埼玉県初記録。
49. ウスグロアラハダトビハムシ

- Zipanginia obscura* (JACOBY)
1 ex., 11. May. 1990
50. *Zipanginia* sp.
1 ex., 12. Jul. 1988 体長2mm。前胸は暗赤褐色で、脇、触角は黄褐色。上翅は黒色で強い光沢をもつ。前胸背は基部に大きな点刻を散布するが、前方は無点刻に近い。未記載種と思われる。
51. ヒメトビハムシ
Orthocrepis adamsii (BALY)
3 exs., 21. Sep. 1988, 1 ex., 16. May. 1989
埼玉県初記録。
52. ナガトビハムシ
Liprus punctatostriatus MOTSCHULSKY
2 exs., 16. May. 1989 上翅黄褐色の個体。
53. カタクリトビハムシ
Sangariola punctatostriata (MOTSCHULSKY)
1 ex., 16. May. 1989
54. ヒゲナガアラハダトビハムシ
Trachyaphthona sordida (BALY)
1 ex., 21. Sep. 1988, 14. Jun. 1989 (目撃)
ヘクソカズラに多い。秋には暗赤褐色の新成虫が見られる。
55. ツブトビハムシ
Aphthona perminuta BALY
16. May. 1989 (目撃), 11. Jul. 1989 (目撃) 個体数は極めて多い。
56. サメハダツブトビハムシ
Aphthona strigosa BALY
12. Jul. 1988 (目撃), 26. Oct. 1988 (目撃) アカメガシワに多い。
57. クワトビハムシ
Luperomorpha funesta (BALY)
1 ex., 11. May. 1990
58. キアシホソトビハムシ
Luperomorpha tenebrosa (JACOBY)
1 ex., 27. May. 1988, 11. May. 1990 (目撃)
59. キスジトビハムシ
Phyllotreta striolata (FABRICIUS)
1 ex., 12. Sep. 1989
60. キアシキスジトビハムシ
Phyllotreta ochripes (CURTIS)
1 ex., 10. May. 1991
61. オオバコアシナガトビハムシ
Longitarsus scutellaris (REY)
14. Jun. 1988 (目撃), 12. Jul. 1988 (目撃) 普通。
62. カクムネアシナガトビハムシ
Longitarsus quadraticollis JACOBY
1 ex., 24. Jun. 1987, 1 ex., 12. Jul. 1988
微小かつ敏しきような種で、発見した個体の大半はとり逃がしたが、ムラサキシキブに割合高いようである。
63. ルリアシナガトビハムシ
Longitarsus kimotoi OHNO
1 ex., 22. Sep. 1987
64. ヨモギアシナガトビハムシ
Longitarsus succineus (FOUDRAS)
1 ex., 11. Jul. 1989, 1 ex., 12. Sep. 1989
65. ヒヨドリバナアシナガトビハムシ
Longitarsus nitidiamiculus KIMOTO
2 exs., 11. Jul. 1989 埼玉県初記録。
66. ルリミゾアシトビハムシ
Hemipyxis plagioderoides (MOTSCHULSKY)
14. Jun. 1988 (目撃), 11. Jul. 1989 (目撃) 普通。
67. キバネミゾアシトビハムシ
Hemipyxis flavipennis (BALY)
27. May. 1988 (目撃)
68. アカイロマルトビハムシ
Argopus punctipennis (MOTSCHULSKY)
1 ex., 29. Jun. 1988, 1 ex., 16. May. 1989
69. ボタンズルマルトビハムシ
Argopus balyi HAROLD
1 ex., 24. Jun. 1987, 5. Aug. 1988 (目撃)
70. ユリタマトビハムシ
Sphaeroderma nigricolle JACOBY
14. Jun. 1988 (目撃), 5. Aug. 1988 (目撃) 青翅型のみ産する。
71. ヒメアオタマトビハムシ
Sphaeroderma separatum BALY
4 exs., 14. Jun. 1988, 29. Jun. 1988 (目撃)
72. センニンソウタマトビハムシ
Sphaeroderma unicolor KIMOTO
12. Jul. 1988 (目撃), 16. May. 1989 (目撃) 極めて多い。
73. アケビタマトビハムシ
Sphaeroderma akebiae OHNO
2 exs., 29. Jun. 1988
74. ボタンズルタマトビハムシ
Sphaeroderma placidum HAROLD
2 exs., 5. Aug. 1988, 1 ex., 14. Jun. 1989
普通。
75. ツマキタマトビハムシ
Sphaeroderma apicale BALY
1 ex., 21. Sep. 1988
76. ツユクサタマトビハムシ
Sphaeroderma japanum BALY
29. Jun. 1988 (目撃), 11. Jul. 1989 (目撃) 林縁のやや日かけのツユクサに比較的普通。
77. セマルトビハムシ
Minota nigropicea (BALY)
1 ex., 14. Jun. 1988, 2 exs., 11. May. 1990

- 埼玉県初記録。
78. タマアシトビハムシ
Philopona vibex (ERICHSON)
1 ex., 29. Jun. 1988, 11. Jul. 1989 (目撃)
 79. カクムネチビトビハムシ
Neocrepidodera recticollis (JACOBY)
1 ex., 12. Jul. 1988, 4 exs., 11. Jul. 1989
 80. カクムネトビハムシ
Asioresta laevicollis (JACOBY)
1 ex., 12. Jul. 1988, 1 ex., 21. Sep. 1988
 81. サシゲトビハムシ
Lipromima minuta (JACOBY)
14. Jun. 1989 (目撃), 10. May. 1991 (目撃) ヌルデに普通に見ることができる。
 82. クビボソトビハムシ
Pseudoliprus hirtus (BALY)
3 exs., 24. Jun. 1987, 11. Jul. 1989 (目撃)
 83. キイチゴヒサゴトビハムシ
Chaetocnema discreta (BALY)
27. May. 1988 (目撃), 1 ex., 12. Jul. 1988 普通。
 84. ヒメヒサゴトビハムシ
Chaetocnema concinnicollis (BALY)
12. Jul. 1988 (目撃), 1 ex., 12. Sep. 1989
 85. ナタネナガスネットビハムシ
Psylliodes punctifrons BALY
1 ex., 21. Sep. 1988, 11. Jul. 1989 (目撃)
 86. チュウジョウナガスネットビハムシ
Psylliodes chujoe MADAR
1 ex., 5. Aug. 1988 この属では日本最大の種で、本州での既知産地は栃木県日光、神奈川県丹沢山北、奈良県大台ヶ原などわずかしかない。
 87. ダイコンナガスネットビハムシ
Psylliodes subrugosa JACOBY
26. Oct. 1988 (目撃), 16. May. 1989 (目撃)
 88. ナスナガスネットビハムシ
Psylliodes angusticollis BALY
1 ex., 26. Oct. 1988, 11. Jul. 1989 (目撃)
 89. ルリヒゲブトビハムシ
Nonarthra cyaneum BALY
21. Sep. 1988 (目撃), 14. Jun. 1989 (目撃) 普通。
 90. キアシヒゲブトビハムシ
Nonarthra tibiale JACOBY
1 ex., 5. Aug. 1988
 91. ヒメキベリトゲハムシ
Dactylispa angulosa (SOLSKY)
1 ex., 10. May. 1991
 92. クロルリトゲハムシ
Rhadinosa nigrocyanea MOTSCHULSKY
- 1 ex., 11. May. 1990
93. ジンガサハムシ
Aspidomorph hadiformis (MOTSCHULSKY)
1 ex., 11. Jul. 1989
 94. スキバジンガサハムシ
Aspidomorph hatransparipennis (MOTSCHULSKY)
1 ex., 11. Jul. 1989
 95. イノコズチカメノコハムシ
Cassida japonica BALY
29. Jun. 1988 (目撃), 11. May. 1990 (目撃) 極めて多い。
 96. ヒメカメノコハムシ
Cassida piperata HOPE
1 ex., 10. May. 1991
 97. ミドリカメノコハムシ
Cassida erudita BALY
1 ex., 11. Jul. 1989, 1 ex., 10. May. 1991
県内では秩父郡大滝村大血川東谷から記録がある。
 98. アオカメノコハムシ
Cassida rubiginosa MULLER
1 ex., 11. May. 1990 緑色のカメノコハムシとしては最も普通な種類であるはずだが、1個体を採集しただけ。
 99. ヨモギカメノコハムシ
Cassida fuscorufa MOTSCHULSKY
1 ex., 11. Jul. 1989, 1 ex., 11. May. 1990
 100. イチモンジカメノコハムシ
Thlaspida cribrosa (BOHEMAN)
27. May. 1988 (目撃), 12. Jul. 1988 (目撃)
 101. セモンカメノコハムシ
Cassida versicolor (BOHEMAN)
16. May. 1989 (目撃), 11. Jul. 1989 (目撃) サクラ類に比較的普通。
 102. セダカカメノコハムシ
Cassida vespertina (BOHEMAN)
1 ex., 16. May. 1989, 10. Jul. 1990 (目撃)

(ふじた ふみお 〒338 与野市大戸742)

東京都練馬区練馬及びその周辺で出会った虫たちの想い出

上原 市郎

筆者は現在の越谷市に移り住む前に、練馬区練馬に1956年～1983年夏まで在住していた。物心つく前からの、虫と共に育ったところであった。まず最初に夢中になったのは、御多聞に漏れずカブトムシ・クワガタムシ・バッタなどだった。トンボも好きだったのだが、あまり良い環境が見当たらないことと、ギンヤンマなどは探るのが困難であるし、標本にすると汚なくなってしまうし、内臓摘出などもあるので敬遠していた。石神井公園には何遍も行っているが、マルタンヤンマが生息するのを知ったのはずっと後の1987年になってからである。大体マルタンヤンマなんて名前も知らないかった。(1987年5月の連休に長野県白馬山麓にて、当時高校生だった石神井公園附近に住む同好者から直接聞いた。この時彼は静岡県桶ヶ谷沼から来ていて、ベッコウトンボを沢山採っていた。アオヤンマの終齢幼虫も見せてもらい、ベッコウトンボの1対をもらった。石神井公園には現在でもミドリシジミが健在で、ネアカヨシヤンマの記録もあり、夜にはヒラタクワガタが採れるということだった。) 小学生の夏休みに分布を知っていたとしても、長竿を振り回して捕獲するなどとは思いもよらず、間違ひなく至難の業であったろう。

さて、カブトムシは割合普通で、早朝や夜間に中心にしてよく採れた。このでっかいコガネムシよりも大好きだったのがクワガタムシであり、特にノコギリクワガタは多く、ギネスのようなこともやった。場所によっては1日で20～30頭採れることもあり、夏休み中に飽きもせず毎日(日によつては朝・昼・夕・晩通ったこともある)生息地に通い詰めた。次いで多いのがコクワガタで、その黒色の胴体に魅力を感じていた。それに豊島園遊園地(徒歩で10分ぐらいの場所)の奥ではヒラクワガタが採れた。練馬区早宮では只1回ミヤマクワガタの中型のみが採れたことがある。オオクワガタが採れたという噂もあったが、真偽の程は不明である。あとはスジクワガタが採れたらいいか。その他の甲虫では大きなコメツキムシやミヤマカミキリ・ゴマダラカミキリ・キボシヒゲナガカミキリ、そしてずいぶん小さなミヤマカミキリを1頭クヌギの樹液で採っていて、一時期マメコガネが草原に群れていたこともある。カナブンが普通であったが、ある時期(1961年頃)から、シロテンハナムグリの方が多くなってきた。シロテンハナムグリはこれより少し前にはあまり見掛けなかつた。アオカナブンはあまり多くなかつたが(これは緑色をしたカナブンであった可能性が高い)、クロカナブンは秋が近付くと多かつた。タマムシもいたが、これは珍品の部類に這入り、ウバタマムシもそうだった。

バッタではなんといつてもトノサマバッタの天

下である。晩夏から秋期にかけて、すぐ近くにある中央大学のグラウンドで夢中になって採りまくつた。クルマバッタ・クルマバッタモドキ・ショウリョウバッタもここに常連であり、草原に踏み入ると4種入り乱れて飛び出す様は昆虫採集の醍醐味のひとつではあるまい。

次いでチョウではアカタテハ・ルリタテハは普通であったが、ある時期から(1962・3年頃)最普通種のキタテハを押し退けるようにしてキマダラヒカゲ(当時から疑問があつたらしいが、ヤマ・サトの区別はなかった)が急増して両者の個体数比は逆転してしまった。コムラサキは見ることができず、ゴマダラチョウには憧れていたが、樹梢を滑空していることがほとんどで、結局は1頭も採れなかつた(樹液に飛来した個体を一例だけ目撃した)。越谷市に移って来て、ゴマダラチョウの多さにまず目を見張った。それからは毎年々々ネットを担いで今日に至る。)ヒオドシチョウは夏休み中に時々採れたが、時期的なことで少なかつたのだろうと思う。本種が盛夏の頃に採れるのは少ないかもしれない。あと最近平地では少なくなってきたダイヨウセセリ・キマダラセセリは多かつた。秋期のウラナミシジミとヒメアカタテハは普通で、場所によっては極めて個体数が多かつた。ゴイシシジミが群れている笹原があつたし、秋期にはイチモンジセセリ・オオチャバネセセリが二ラ畠に群らがついて、自宅の庭でもコジャノメを採った記憶がある。それからコミスジも1♀だけ採つた。カラスアゲハは見掛けることが少なかつたが、豊島園に程近い練馬区向山(高級住宅地であり、庭の広いお家敷が多い。鬱蒼とした森に囲まれているお家敷もあったので、池でもあれば好黄昏性のヤンマが期待できる。)でミヤマカラスアゲハの夏型♀を採つたのはよい想い出である。アオスジアゲハは珍しいということはなかつたが、容易には捕獲できず、ヤブガラシで吸蜜中のをドキドキしながら採つた。キアゲハはある時期

(1963年頃)までは多く、ニンジン畠での毒々しい招麗な幼虫をよく見掛けたが、畠への農薬散布のせいだらうか、急激にその数を減いてしまつた。

ガでは、オオミズアオを時々見掛けた。垣根の害虫オオスカシバはよくハチに間違えられ、ガだから大丈夫だといっても信じてもらえない。コスズメ・ベニスズメ・エビガラスズメ・ホタルガ・カノコガ・ユウマダラエダシャクはよく見られ、クスサンもいたように記憶している。しかし、ガはほとんど標本にしたことがないので、よくはわからない。

セミでは、ハルゼミ(珍品)に始まって、ニイニイゼミ・アブラゼミ・ミンミンゼミ(珍品)・

ヒグラシ・ツクツクボウシなど、ニイニイゼミは越谷での初聴きは7月をとっくに過ぎてからのように思うが、練馬では6月中には既に鳴いていたようだ。記憶違いかもしれないが、ツクツクボウシが鳴き始めると虫たちはそろそろ秋の気配で、夏休みも終わりである。なんとも一抹の物寂しさを感じる一瞬であった。1回だけ耳馴れないセミの声を聴いたことがあり、どうもクマゼミだったようだが、確実ではない。

鳴く虫では頭抜けてカネタタキが大好きで今でもそうだが、声はそれども姿は見えずで、なかなか見付からなかつた。

最後はトンボだが、残念ながら種類数は多くなかつた。憶えているのはアジイトトンボ・ベニイトトンボ・キイトトンボ・クロイトトンボ・オオイトトンボ・アオイトトンボ（オオアオイトトンボかアオイトトンボか今となってはわからぬ）、オニヤンマ・ギンヤンマ・シオカラトンボ・オオシオカラトンボ・アキアカネ・ナツアカネ・ミヤマアカネ・チョウトンボ・ウスバキトンボぐらいである。コシアキトンボは全く見られず（石神井公園にはいたと思う）、井之頭公園に沢山いるのでびっくりしたことがある。ノシメトンボも全く見られず、川崎市幸区北加瀬のお山で追い駆け回した。オオイトトンボとアオイトトンボを除いてイトトンボ類は唯一、中央大学のグラウンド内の水たまりで採つただけである。このグラウンドはラグビー場、陸上競技場、それにいちばん奥まったところにある比較的狭いハンドボール場に別れていて、ハンドボール場でよく見られた。ここは他の2面と違って一段低くなっているので、大雨の後など辺一面が水浸しになった。少なくとも1967年までは、ここで発生を繰り返していた可能性が高い。キイトトンボは普通でこれは確実だが、ベニイトトンボはアジイトトンボかアオモントンボの未熟な♀であったのかもしれないが、記憶からはベニイトトンボに軍配を上げる。

（低地草原でのオオイチモンジの目撃などとはかなり様子が違うと思う）。オオイトトンボはこの水たまりにもいたが、自宅内の小さな池でも採つた。この池ではアオイトトンボも採つておらず、両種共かなり移動するようだ（池ができるから、すぐに採れた）。小さなトンボでも結構活動範囲は拡いというとか。少し離れたところに神社やお寺はあったが、池はなかったように思う。あとは人家の庭にある池だが、宅地化する以前に生息していた個体が居着いた可能性はあるが、突き止めるのは困難であり、どこから飛来したのかはわかりようがない。チョウトンボは只1回の目撃のみで、上空を浮かぶように漂っていた。本種はかなりボヘミアン的な要素が強いようなので、移動中の個体であったかもしれない。目撃した附近には、本種が発生しそうな止水域はなかつたように思う。目撃場所は自宅から徒歩1分という立地である。（通称「松山台」といわれていたところで、赤松の大木を始め、クヌギ・コナラ・クスノキ・シダレヤナギ etc. 筒原の斜面、カラタチの生垣などがあり、昔日の武藏野の面影が残る貴重な場所だった。しかし校舎の鉄筋化に伴い、なんと給食センターに変貌してしまい、この貴重なフィールドは跡形も

なく消滅してしまった。これはちょうど東京オリンピック開催の年から1~2年の間の出来事だった。アゲハ・クロアゲハ・オスジアゲハ・シオカラトンボ・アキアカネなどを初めて飼育した時のフィールドであって、想い出深いなんてものではない。タマムシ・カブトムシ・クワガタムシ・バッタ・ゴイシシジミ・ゴマダラチョウ・ルリタテハ・アカタテハ etc. などを産した）。オニヤンマも1回だけの目撃であり、住宅地内の小路でのものだったので、やはり移動中の個体だったのだろうか。オオシオカラトンボは、全く見られなかつたものが一時期ものすごく増えて、多産するシオカラトンボが全くといつてよいほどに見られなくなつたことがある（確か1966年頃のことだつたと思う）。ミヤマアカネは道路の上空の電柱よりも高い位置に浮かんでいるのを1回見ただけである。コフキトンボのオビ型であったのかもしれないが、コフキトンボ 자체採つたことがなく、今となっては調べようもない。ウスバキトンボはやはりある時期（1960年代半ば）から増え出したが、それ以前にはそれほどに目立つ種類でもなかつた。この中学校の庭は台風一過となると水たまりだらけになり、多数のギンヤンマとアキアカネが群れることとなる。近くには石神井川が流れているが、1960年頃にはコンクリート護岸になっていたので、トンボの姿はなかつた。

今現在は「松山台」の面影は全く残っていないので、昆虫と共に筆者の脳裏にあるが、馴れ親しんだフィールドを次々に失つてゆくという歴史だつたようだ。今にして想えれば、昭和30年代は夢のような時代だった。金銭で何もかもが解決するなんていう風潮はなかつたし、学習塾などは補習的な意味合いのが細々とあるだけだった。勿論、昔の方が全部良かったなどということは有り得る筈もないが、出来てしまつたものは昔日には戻れない。練馬区でよく昆虫を追つ駆けていた頃は判で搽したようにドンビシャに晴れて暑く、16:00~17:00頃になると決まって夕立ちとなつた。そしてその後の夕焼け小焼けが爽快であった。ついぶんと近頃の気候とは異つたようだ。しかしながら印象深いのは、小学校一年生の時の長ーい長い夏休みである。みんなそろつてランニングシャツに半ズボン。ラジオ体操が始まると前だから5:30~6:00過ぎくらいか。湿気でジトッとするくらいの空気が、心なしかまだヒンヤリとしていた。露に濡れる草原が朝日を浴びて、キラキラと光輝いている様が目に浮かぶ。そこにはジャバニーズ・ビートルが群がり、イトトンボが止つてた。

「さあーこれから暑くなるぞ。今日はどこに何を探りに行こうかな」というウキウキワクワクの心境。今日この頃はあまりにも時の経過が急激に過ぎるようだが、最高の贅沢を無理を承知の上で希う。「もう一回あの頃の心境を実感してみたい」と。

（うえはら いちろう

〒343 越谷市花田1-19-2)

埼玉県東部地域の蛾類…その1

萩原 昇

埼玉県全域の蛾相をまとめた報告は、市川和夫氏が1,402種を埼玉県動物誌(1979)にまとめた。その後、埼玉昆虫談話会の所沢市三ヶ島の調査(1984)や北本市石戸宿の調査(1986)、井上 寛・市川和夫氏による入間市加治丘陵の調査(1990)などが行われ、12年間に401種が追加され1,803種(1992)が記録されている。しかし、これらの調査は大宮台地を挟んで県西部に偏っている。

筆者は、これまで埼玉県東部の低湿地や台地の斜面林などを中心に、蛾類の採集調査を続けてきた。これらの調査によって、埼玉県におけるこれまでの空白地域を埋めることができた。

これより、久喜市の市史編纂事業として1984~1987年に実施した採集調査、埼玉昆虫談話会の見沼たんば調査の一環として実施した1988年の大宮市染谷の大宮塩園付近の採集調査、1988年に春日部市および杉戸町木津内の江戸川河川敷での採集調査の結果をまとめ、ここに報告する。

なお、採集個体の同定は故市川和夫氏にお願いした。また、小蛾類(ハマキガ科)の同定は故川辺 淳氏にお願いした。両氏の力により、これまで不明種として記録されなかった小蛾類を中心に数多くの埼玉県未記録種を発見することができた。両氏に深く感謝申し上げる。また、調査とともに行った江村 薫氏、竹内 崇夫氏、採集品を提供して頂いた埼玉県園芸試験場の根元 久氏に深く感謝申し上げる。

また、発表する時期を逸したため、両氏の存命中にこれらの記録を発表できなかったことを深くお詫びするとともに、両氏のご冥福をお祈りする。

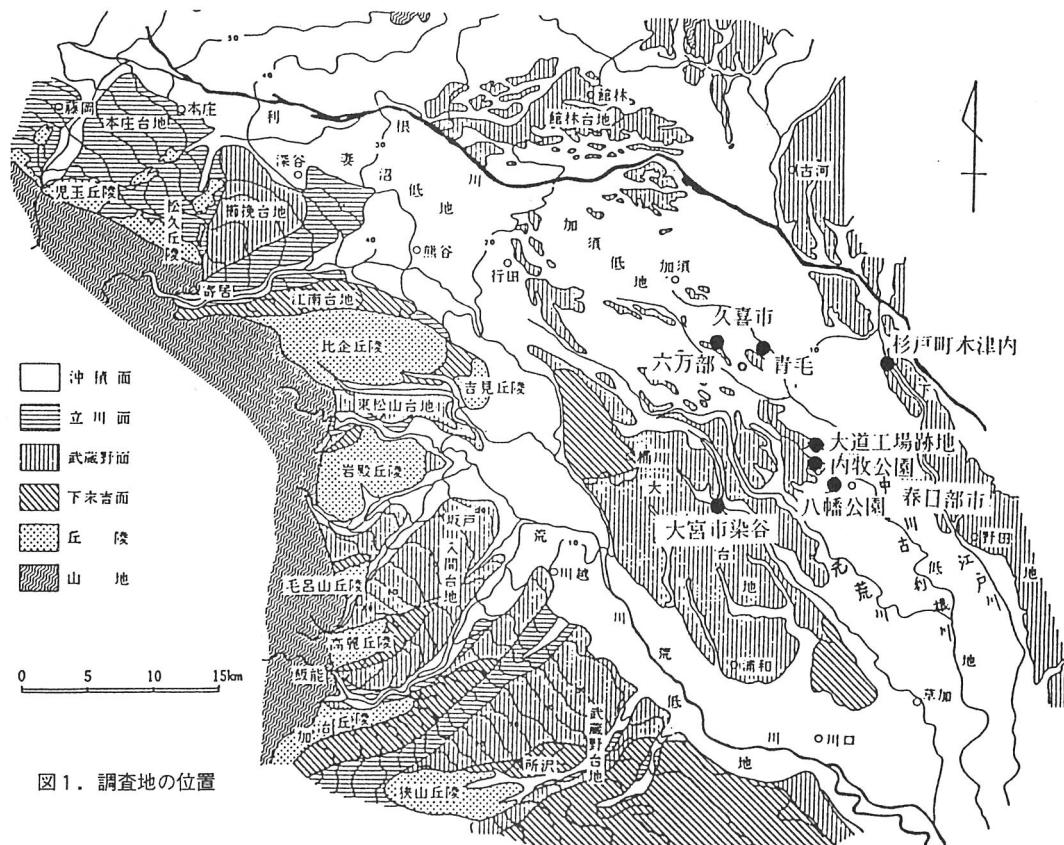


図1. 調査地の位置

調査地の位置と埼玉平野の地形面区分図(堀口, 1980を一部改変)

452種の各科ごとの種類数は次表の通りである。

科名	種数／大宮	調査地 春日部	久喜	杉戸町	全体
マガリガ科	1	1	2	0	2
ボクトウガ科	0	0	1	1	2
ハマキガ科	23	27	8	7	36
ミノガ科	1	1	1	1	1
ヒロズコガ科	2	3	1	0	4
スガ科	1	1	2	0	2
ホソハマキモドキガ科	1	0	1	0	2
ハマキモドキガ科	1	0	0	0	1
マルハキバガ科	2	5	0	0	7
ニセマイコガ科	1	3	0	0	3
カザリバガ科	1	1	0	0	2
ヒゲナガキバガ科	0	1	0	0	1
キバガ科	4	4	1	0	5
シンケイガ科	0	1	1	0	1
マダラガ科	1	1	0	0	1
セミヤドリガ科	0	1	0	0	1
イラガ科	1	5	2	0	6
マドガ科	2	3	1	0	3
メイガ科	37	57	48	33	85
カギバガ科	1	2	2	0	4
トガリバガ科	1	2	1	0	3
シャクガ科	24	32	32	13	57
カレハガ科	1	0	2	0	2
オビガ科	1	1	0	0	1
カイコガ科	0	1	1	0	1
イボタガ科	0	1	1	0	1
ヤママユガ科	1	2	4	0	4
スズメガ科	5	6	17	0	18
シャチホコガ科	6	3	5	1	12
ドクガ科	6	5	7	2	10
ヒトリガ科	11	13	9	2	17
カノコガ科	1	1	1	1	1
ヤガ科	72	88	90	43	157
合計	209	272	241	104	453

上記の採集個体はすべて筆者が保管している。

凡例

1. 学名および種の配列は日本産蛾類大図鑑(1982)によった。

2. 記録は、以下のように記述した。

記録地：記録個体数、記録日、記録者、[文献番号]。

1)記録地に関しては、市町村名、大字名を示し50音順に並べた。

2)記録個体数に関しては、雌雄それぞれの個体数が分かっている場合には、♂♀の記号の前に数字で示した。雌雄が不明の記録個体については、ex.を付した。

3)記録日について、年、月、日の順に記述した。

4)記録者については、筆者(萩原昇)が記録者の場合にはNHの記号を付した。その他の場合には、氏名を付した。

5)埼玉県での未記録種については、「*埼玉県初記録」と明記した。なお、これらの種は筆者の昭和63年度長期研修教員報告書「身近な自然の教材化」に掲載したが、公式に発表するのは今回が最初である。

埼玉県東部の蛾類目録

鱗翅目 (蛾類) LEPIDOPTERA (HETEROCERA)

* 和名の後の数字は日本産蛾類大図鑑の整理番号

Incurvariidae マガリガ科

- 1 *Nemophora umbripennis* STRINGER キオビクロヒゲナガ 37
大宮市染谷: 1 ♂, 1988. 6. 11, NH. 春日部市内牧: 1 ♀, 1988. 6. 6, NH.
- 2 *Nemophora albiantennella* ISSIKI クロハネシロヒゲナガ 44
久喜市青毛: 2exs., 1984. 5. 20, NH, [1]; lex., 1984. 5. 20, 江村 薫, [1].
- Cossidae ボクトウガ科
- 1 *Zeuzera multistrigata* MOORE ゴマフボクトウ 75
久喜市六万部: 1 ♂, 1985. 8. 17, NH, [1].
- 2 *Cossus ussuriensis* GRAESER ヒメボクトウ 74
* 埼玉県初記録(本州2カ所目の記録) 杉戸町木津内: 3 ♂ 1 ♀, 1988. 7. 5, NH, [2].
- Tortricidae ハマキガ科
- 1 *Pandemis heparana* (DENIS & SCHIFFERMULLER) トビハマキ 85
大宮市染谷: 1 ♀, 1988. 8. 13, NH; 1 ♀, 1988. 10. 9, NH. 春日部市内牧: 1 ♀, 1988. 8. 9, NH.
杉戸町木津内: 1ex., 1988. 6. 4, NH; 1 ♂, 1988. 7. 5, NH; 1ex., 1988. 8. 20, NH.
- 2 *Archips audax* RAZOWSKI アトキハマキ 89
大宮市染谷: 1 ♂, 1988. 8. 13, NH; 2 ♂, 1988. 8. 13, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1 ♂, 1988.
5. 16, NH; 3 ♂, 1988. 6. 6, NH; 1 ♀, 1988. 8. 9, NH. 久喜市青毛: 1 ♂, 1986. 9. 6, NH, [1];
久喜市六万部: 1 ♂, 1985. 6. 15, NH, [1].
- 3 *Archips oporanus* (LINNAEUS) マツアトキハマキ 91
大宮市染谷: 1 ♂, 1988. 6. 11, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1 ♂ 1 ♀, 1988. 9. 17, NH. 久喜市青
毛: 1 ♂, 1987. 7. 27, NH, [1]; 久喜市上清久: 1 ♀, 1984. 6. 8, NH, [1]; 久喜市六万部: 1 ♀,
1984. 6. 7, 根元久, [1]; 1 ♀, 1985. 7. 15, NH, [1]; 1 ♂, 1985. 9. 9, NH, [1].
- 4 *Archips semistuctus* (MEYRICK) ウスアトキハマキ 95
* 埼玉県初記録 杉戸町木津内: 2 ♀, 1988. 6. 4, NH, [2]; 1 ♂, 1988. 10. 18, NH, [2].
- 5 *Hoshinoia longicellana* (WALSINGHAM) アトボシハマキ 107
大宮市染谷: 1 ♂ 2 ♀, 1988. 6. 11, NH. 春日部市内牧: 2 ♀, 1988. 6. 6, NH; 1 ♂ 2 ♀, 1988.
7. 11, NH. 久喜市六万部: 1 ♀, 1985. 6. 15, NH, [1].
- 6 *Ptycholoma lecheana* (LINNAEUS) オオギンスジアカハマキ 118
大宮市染谷: 4 ♂ 1 ♀, 1988. 5. 14, NH; 1 ♂ 1 ♀, 1988. 5. 14, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 2
♂, 1988. 5. 16, NH.
- 7 *Homona magnanima* DIAKONOFF チャハマキ 126
大宮市染谷: 2ex., 1988. 5. 11, 竹内崇夫; 1 ♂ 1 ♀, 1988. 5. 14, NH; 2exs., 1988. 7. 9, 竹内
崇夫; 1ex., 1988. 9. 10, 竹内崇夫; 2 ♀, 1988. 10. 9, 竹内崇夫; 1 ♀, 1988. 10. 9, NH. 春日部市
内牧: 1 ♂, 1988. 6. 6, NH; 1ex., 1988. 9. 19, NH; 1ex., 1988. 9. 21, NH; 1 ♂, 1988. 10. 10, NH.
久喜市青毛: 1 ♀, 1984. 5. 24, NH, [1]; 久喜市六万部: 1 ♂, 1984. 6. 3, 根元久, [1]; 1 ♂,
1984. 7. 28, 江村 薫, [1]; 1 ♂, 1985. 5. 18, NH, [1]; 1 ♂, 1988. 5. 8, NH, [1]; 杉戸町木津内:
3 ♂ 1 ♀, 1988. 10. 16, NH.
- 8 *Adoxophyes* sp. チャノコカクモンハマキ 129
大宮市染谷: 1ex., 1988. 9. 10, NH. 久喜市東: 1 ♂, 1984. 5. 27, 江村 薫, [1].
- 9 *Argyrotaenia congruentana* (KENNEL) トビモンコハマキ 138
大宮市染谷: 2exs., 1988. 5. 14, NH. 春日部市内牧: 1ex., 1988. 7. 11, NH; 1ex., 1988. 9. 19,
NH.
- 10 *Acleris japonica* (WALSINGHAM) ナカジロハマキ 207
大宮市染谷: 1ex., 1988. 7. 9, 竹内崇夫; 1ex., 1988. 8. 13, 竹内崇夫.
- 11 *Tortrix sinapina* (BUTLER) ウスマミメハマキ 234
大宮市染谷: 1ex., 1988. 6. 11, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1ex., 1988. 6. 6, NH.

- 12 *Statherotmantis shicotana* (KUZNETZOV) コシロモンヒメハマキ 275
 * 埼玉県初記録 春日部市内牧: 1ex., 1988. 9. 21, NH, [2].
- 13 *Phaecadophora fimbriata* WALSINGHAM アシブトヒメハマキ 283
 大宮市染谷: 1 ♀, 1988. 8. 13, NH. 春日部市内牧: 2 ♂ 1 ♀, 1988. 8. 9, NH.
- 14 *Hystrichosolus spathanum* WALSINGHAM コシロアシヒメハマキ 291
 大宮市染谷: 1ex., 1988. 5. 14, NH; 1 ♂, 1988. 6. 11, NH; 1ex., 1988. 9. 10, NH; 1ex., 1988. 9. 10, 竹内崇夫; 2 ♂, 1988. 10. 9, NH. 春日部市内牧: 1 ♂ 2 ♀, 1988. 6. 6, NH; 1ex., 1988. 9. 21, NH. 久喜市六万部: 2 ♂, 1985. 5. 18, NH, [1].
- 15 *Hedya dimidiata* (CLERCK) シロモンヒメハマキ 296
 大宮市染谷: 1 ♀, 1988. 5. 14, NH.
- 16 *Olethreutes orthocosma* (MEYRICK) コクリオビクロヒメハマキ 346
 * 埼玉県初記録 大宮市染谷: 2 ♂ 1 ♀, 1988. 5. 11, NH, [2]; 春日部市内牧: 1 ♀, 1988. 7. 11, NH, [2].
- 17 *Olethreutes doubledayana* (BARRET) クローバヒメハマキ 353
 大宮市染谷: 2 ♂, 1988. 6. 11, NH; 1ex., 1988. 6. 11, 竹内崇夫; 4exs., 1988. 9. 10, 竹内崇夫; 1 ♂, 1988. 10. 9, NH. 春日部市内牧: 1 ♀, 1988. 6. 13, NH; 1ex., 1988. 9. 19, NH. 杉戸町木津内: 1 ♀, 1988. 6. 4, NH.
- 18 *Celypha flavipalpana* (HERRICH-SCHAFFER) コキスジオビヒメハマキ 361
 * 埼玉県初記録 大宮市染谷: 1ex., 1988. 6. 11, NH, [2].
- 19 *Endothenia menthivora* (OKU) ハッカノネムシガ 377
 * 埼玉県初記録 杉戸町木津内: 1 ♀, 1988. 7. 5, NH, [2].
- 20 *Ancylis amplimacula* FALKOVITSH マエモンマダラカギバヒメハマキ 389
 大宮市染谷: 3 ♂, 1988. 5. 14, NH.
- 21 *Rhopalovalva pulchra* (BUTLER) キカギバヒメハマキ 420
 * 埼玉県初記録 大宮市染谷: 1 ♂ 1 ♀, 1988. 5. 14, NH, [2]; 春日部市内牧: 1 ♀, 1988. 5. 16, NH, [2].
- 22 *Eucoenogenes ancyrota* (MEYRICK) モッコクヒメハマキ 429
 * 埼玉県初記録 大宮市染谷: 1ex., 1988. 8. 13, NH, [2]; 春日部市内牧: 1ex., 1988. 8. 9, NH, [2].
- 23 *Spilonota albicana* (MOTCHULSKY) シロヒメシンクイ 433
 春日部市内牧: 1ex., 1988. 7. 11, NH.
- 24 *Epinotia rubiginosana* (HERRICH-SCHAFFER) マツノクロマダラヒメハマキ 461
 * 埼玉県初記録 春日部市内牧: 1ex., 1988. 5. 16, NH, [2].
- 25 *Petrova cristata* (WALSINGHAM) マツズアカシンムシ 499
 * 埼玉県初記録 春日部市内牧: 1ex., 1988. 8. 9, NH, [2].
- 26 *Epiblema foenella* (LINNAEUS) ヨモギネムシガ 511
 大宮市染谷: 1 ♂, 1988. 6. 11, NH; 2exs., 1988. 7. 9, 竹内崇夫; 4exs., 1988. 8. 13, 竹内崇夫; 1ex., 1988. 9. 10, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1 ♂, 1988. 6. 6, NH; 1ex., 1988. 8. 19, NH; 1ex., 1988. 9. 17, NH. 久喜市青毛: 2 ♂, 1987. 7. 27, NH, [1]; 久喜市六万部: 1 ♂, 1984. 6. 11, 根元久, [1]; 1 ♀, 1985. 8. 17, NH, [1]; 杉戸町木津内: 1 ♂ 2 ♀, 1988. 7. 5, NH; 1 ♀, 1988. 8. 20, NH.
- 27 *Epiblema sugii* KAWABE スギヒメハマキ 515
 * 埼玉県初記録 大宮市染谷: 2 ♂, 1988. 6. 11, NH, [2]; 春日部市内牧: 2 ♂ 1 ♀, 1988. 6. 6, NH, [2]; 1 ♀, 1988. 6. 13, NH, [2].
- 28 *Eucosma rigidana* (SNIELLEN) オオカバヌモンヒメハマキ 521
 * 埼玉県初記録 春日部市内牧: 1 ♂, 1988. 6. 6, NH, [2].

- 29 *Eucosma metzneriana* (TREITSSHKE) トビモンシロヒメハマキ 537
 　春日都市内牧: 3♂, 1988. 5. 16, NH; 1♂, 1988. 8. 9, NH.
- 30 *Rhopobota naevana* (HUBNER) クロネハイロヒメハマキ 557
 　* 埼玉県初記録 春日都市内牧: 2exs., 1988. 7. 11, NH, [2]; 1ex., 1988. 7. 21, NH, [2];
 　1ex., 1988. 8. 9, NH, [2];
- 31 *Cryptophlebia hemitoma* DIAKONOFF シロテンボカシヒメハマキ 575
 　* 埼玉県初記録 春日都市内牧: 1ex., 1988. 6. 6, NH, [2].
- 32 *Matsumuraeses azukivora* (MATSUMURA) アズキサヤヒメハマキ 580
 　* 埼玉県初記録 春日都市内牧: 1♀, 1988. 10. 10, NH, [2].
- 33 *Grapholita quadristriana* WALSINGHAM ヨツスジヒメシンケイ 584
 　大宮市染谷: 1♂ 1♀, 1988. 6. 11, NH; 1ex., 1988. 8. 13, 竹内崇夫.
- 34 *Cydia glandicolana* (DANILEVSKY) サンカクモンヒメハマキ 623
 　* 埼玉県初記録 大宮市染谷: 1♂, 1988. 9. 10, NH, [2]; 春日都市内牧: 3♂ 3♀, 1988.
 　9. 17, NH, [2].
- 35 *Phalonidia melanothica* (MEYRIEK) コエダオビホソハマキ 644
 　* 埼玉県初記録 大宮市染谷: 1ex., 1988. 8. 3, NH, [2].
- 36 *Phalonidia permixana* (DENIS & SCHIFFERMULLER) チビホソハマキ 651
 　* 埼玉県初記録 春日都市内牧: 1ex., 1988. 7. 11, NH, [2].
- Psychidae ミノガ科
- 1 *Eumeta japonica* (HEYLAERTS) オオミノガ 687
 　杉戸町木津内: 1♂, 1988. 6. 4, NH.
- Tineidae ヒロズコガ科
- 1 *Morophaga bucephala* (SNELLEN) アトモンヒロズコガ 697
 　* 埼玉県初記録 春日都市内牧: 1ex., 1988. 6. 6, NH, [2].
- 2 *Hapsifera barbata* (CHRISTOPH) デコボコヒロズコガ 703
 　* 埼玉県初記録 大宮市染谷: 1♀, 1988. 7. 9, NH, [2]; 春日都市内牧: 1♂, 1988. 7.
 　11, NH, [2].
- 3 *Hypophrictis conspersa* (MATSUMURA) マダラマルハヒロズコガ 704
 　大宮市染谷: 1ex., 1988. 8. 13, NH. 春日都市内牧: 1ex., 1988. 7. 11, NH.
- 4 *Monopis monachella* (HUBNER) マエモンクロヒロズコガ 717
 　久喜市東: 1♀, 1984. 6. 18, 江村 薫, [1]; 1♂, 1984. 7. 27, 江村 薫, [1].
- Yponomeutidae スガ科
- 1 *Plutella xylostella* (LINNAEUS) コナガ 904
 　大宮市染谷: ♂, 1988. 5. 14, NH; 1ex., 1988. 5. 14, 竹内崇夫; 1♀, 1988. 6. 11, NH; 1ex.
 　, 1988. 6. 11, 竹内崇夫; 3ex., 1988. 7. 9, 竹内崇夫; 春日都市柏壁(八幡神社): 1♂, 1988.
 　6. 13, NH. 久喜市東: 1♂, 1984. 4. 25, 江村 薫, [1].
- 2 *Yponomeuta anatolicus* オオボシハイスガ 956
 　久喜市東: 1♀, 1984. 4. 25, 江村 薫, [1]; 1♀, 1984. 5. 5, 江村 薫, [1].
- Glyphipterigidae ホソハマキモドキガ科
- 1 *Glyphipterix alpha* MORIUTI & SAITO コホソハマキモドキ 1015
 　* 埼玉県初記録 春日都市内牧: 1ex., 1988. 9. 19, NH, [2].
- 2 *Lepidotarphius perornatella* (WALKER) ツマキホソハマキモドキ 1032
 　久喜市六万部: 1ex., 1885. 8. 7, NH, [1];
- Choreutidae ハマキモドキガ科
- 1 *Tebenna isshikii* (MATSUMURA) ゴボウハマキモドキ 1089

大宮市染谷：1 ex., 1988. 8. 13, NH.

Oecophoridae マルハキバガ科

- 1 *Agonopterix issikii* CLARKE コクサギヒラタマルハキバガ 1106
* 埼玉県初記録 春日部市内牧：1 ex., 1988. 9. 19, NH, [2].
- 2 *Schiffermuelleria imogena* BUTLER クロモンベニマルハキバガ 1132
* 埼玉県初記録 大宮市染谷：2exs., 1988. 5. 14, NH, [2];
- 3 *Cryptolechia malacobyrsa* MEYRICK ホソオビキマルハキバガ 1134
春日部市内牧：1 ♂ 1 ♀, 1988. 7. 18, NH; 2 ex., 1988. 8. 9, NH.
- 4 *Pseudodoxia achlyphanes* (MEYRICK) カレハヒメマルハキバガ 1136
* 埼玉県初記録 春日部市内牧：1 ex., 1988. 7. 11, NH.
- 5 *Martyringa xeraula* (MEYRICK) コクマルハキバガ 1139
春日部市梅田：1 ♀, 1988. 7. 6, NH.
- 6 *Casmara agronoma* MEYRICK ホソバキホリマルハキバガ 1141
大宮市染谷：1 ex., 1988. 7. 9, 竹内崇夫.
- 7 *Promalactis suzukiella* (MATSUMURA) シロスジカバマルハキバガ 1144
春日部市柏壁（八幡神社）：1 ex., 1988. 6. 13, NH.

Stathmopodidae ニセマイコガ科

- 1 *Stathmopoda masinissa* MEYRICK カキノヘタムシガ 1165
春日部市内牧：1 ex., 1988. 6. 6, NH; 1 ex., 1988. 8. 9, NH.
- 2 *Stathmopoda auriferella* (WALKER) キイロマイコガ 1166
* 埼玉県初記録 大宮市染谷：1 ex., 1988. 8. 13, NH, [2]; 春日部市内牧：1 ex., 1988. 6. 13, NH, [2]; 1 ex., 1988. 8. 9, NH, [2].
- 3 *Oedematopoda ignipicta* (BUTLER) セグロベニトゲアシガ 1171
* 埼玉県初記録 春日部市内牧：2exs., 1988. 6. 6, NH.

Cosmopterigidae カザリバガ科

- 1 *Stagmatophora niphosticta* MEYRICK ギンスジトガリホソガ 1229
* 埼玉県初記録 春日部市内牧：1 ex., 1988. 7. 21, NH, [2].
- 2 *Limnaecia phragmitella* STAINTON ガマトガリホソガ 1233
* 埼玉県初記録 大宮市染谷：1 ex., 1988. 6. 11, NH, [2].

Lecithoceridae ヒゲナガキバガ科

- 1 *Deltoplastis apostatis* (MEYRICK) オビカクバネヒゲナガキバガ 1246
* 埼玉県初記録 春日部市内牧：1 ex., 1988. 6. 6, NH, [2]; 春日部市柏壁（八幡神社）：1 ex., 1988. 6. 13, NH, [2].

Gelechiidae キバガ科

- 1 *Compsolechia anisogramma* MEYRICK サクラキバガ 1280
春日部市内牧：1 ex., 1988. 9. 19, NH.
- 2 *Dichomeris ustalella* (FABRICIUS) カバオオフサキバガ 1304
* 埼玉県初記録 大宮市染谷：1 ex., 1988. 8. 13, 竹内崇夫; 春日部市内牧：1 ex., 1988. 6. 6, NH, [2]; 1 ex., 1988. 6. 13, NH, [2].
- 3 *Brachmia japonicella* (ZELLER) ウスヅマスジキバガ 1316
* 埼玉県初記録 大宮市染谷：1 ex. 1988. 8. 13, NH, [2];
- 4 *Brachmia kyotensis* (MATSUMURA) ヒマラヤスギキバガ 1317
* 埼玉県初記録 大宮市染谷：1 ♀, 1988. 7. 9, NH, [2]; 1 ♀, 1988. 10. 9, NH, [2]; 春日部市内牧：1 ♂, 1988. 7. 11, NH, [2].

- 5 *Brachmia triannulella* (HERRICH-SCHAFFER) イモキバガ 1320
 大宮市染谷: 1 ex., 1988. 5. 14, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1 ex., 1988. 6. 13, NH; 1 ex., 1988. 7. 11, NH; 1 ex., 1988. 9. 19, NH. 久喜市東: 2 exs., 1984. 4. 25, 江村 薫, [1]; 3 exs., 1984. 5. 5, 江村 薫, [1]; 4 exs., 1984. 6. 18, 江村 薫, [1].
- Carposinidae シンクイガ科
- 1 *Commatarcha palaeosema* MEYRICK シロモンクロシンケイ 1329
 * 埼玉県初記録 春日部市内牧: 1 ex., 1988. 8. 9, NH, [2].
- Zygaenidae マダラガ科
- 1 *Pidorus glaukopis* (DRURY) ホタルガ 1343
 大宮市染谷: 1 ex., 1988. 7. 9, 竹内崇夫; 春日部市梅田: 1 ex., 1988. -, -, NH. 久喜市青毛: 1 ♂, 1984. 9. 30, NH, [1].
- Epipyropidae セミヤドリガ科
- 1 *Epiricania hagoromo* KATO ハゴロモヤドリガ 1366
 春日部市内牧: 2 exs., 1988. 9. 17, NH.
- Limacodidae イラガ科
- 1 *Kitanola uncula* (STAUDINGER) マダライラガ 1372
 春日部市内牧: 1 ♂, 1988. 6. 13, NH.
- 2 *Monema flavescentia* WALKER イラガ 1376
 春日部市内牧: 2 ♂, 1988. 7. 11, NH.
- 3 *Microleon longipalpis* BUTLER テングイラガ 1378
 春日部市内牧: 1 ♂, 1988. 7. 11, NH.
- 4 *Phrixolepis sericea* BUTLER アカイラガ 1379
 大宮市染谷: 2 ♂, 1988. 7. 9, NH; 1 ♂, 1988. 9. 10, NH. 春日部市内牧: 1 ex., 1988. 6. 6, NH.
- 5 *Astrapoda nitobeana* (MATSUMURA) ムラサキイラガ 1383
 春日部市内牧: 1 ex., 1988. 6. 6, NH. 久喜市六万部: 1 ♀, 1984. 6. 16, 根元 久, [1].
- 6 *Latia sinica* (MOORE) クロシタオイラガ 1384
 久喜市東: 1 ♂, 1984. 7. 13, NH, [1]; 久喜市六万部: 1 ♀, 1985. 6. 15, NH, [1]; 1 ♀, 1985. 8. 17, NH, [1].
- Thyrididae マドガ科
- 1 *Strigina cancellata* (CHRISTOPH) アカジママドガ 1399
 春日部市内牧: 1 ♂, 1988. 6. 6, NH; 1 ♂, 1988. 8. 9, NH. 久喜市六万部: 3 ♂, 1985. 8. 17, NH, [1]; 1 ♂, 1985. 9. 9, NH, [1].
- 2 *Rhodoneura erecta* (LEECH) チビマダラマドガ 1406
 大宮市染谷: 2 exs., 1988. 6. 11, NH; 1 ex., 1988. 6. 11, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1 ex., 1988. 5. 16, NH; 3 exs., 1988. 6. 16, NH.
- 3 *Rhodoneura hyphaema* (WEST) ヒメマダラマドガ 1407
 大宮市染谷: 1 ex., 1988. 8. 13, 竹内崇夫; 春日部市内牧: 1 ex., 1988. 5. 16, NH.

(はぎわら のぼる 〒344 春日部市梅田 614-1)

所沢市堀ノ内のジャコウアゲハとホソウチョウの推移

神久保美津夫

所沢市堀ノ内でホソウチョウの幼虫を発見したのは、1988年9月23日であった。それ以来、同じウマノスズグサを食するホソオチョウとジャコウアケハは、発生状況が目まぐるしく変わっていた。

断片的でおおさっぱな調査で大変恐縮であるが報告しておきたい。尚、調査に協力していただいた地元の中氏の報告に基づいて記するところが大きい。

1983年、埼玉昆虫談話会が所沢市三ヶ島地区を中心に調査を行ったころは、ジャコウアゲハは目撃にとどまるぐらいで少なかった。早大キャンパス予定地は、荒れ地となり、ウマノスズグサが繁殖し始めていた。1985年ごろよりジャコウアゲハがが目につくようになり、1988年には多数の幼虫、成虫が観察できるようになった。冬期には蛹まで見ることができるようにになった。ブドウ棚を支える支柱や、茶畠のお茶の木、或いは付近のクリの木、早大キャンパスの立入禁止の杭にいたるまで多数みられた。足もとから高いところは3~4mまでかなり広範囲であった。しかし多くの蛹は寄生された死亡蛹であった。透明感のある健全な蛹は僅かであった。

1988年9月23日に7幼虫のホソオチョウを発見したのも、ジャコウアゲハの幼虫を観察している時であった。翌年の1989年には、ジャコウアゲハとホソウチョウとともに、多く見られるようになった。

1990年に入り、ホソオチョウの勢力が益々強大になり、食草という食草には、おびただしいほどのホソオの幼虫が群れていた。ジャコウアゲハはとすると、ホソウチョウの勢力におされ、急激に減少し、少数の幼虫が見られるにとどまった。このままだと絶滅するのではと思われるほど勢力が減退したのである。

次の写真記録は、ホソオチョウが最も勢力を増している1990年9月29日に撮影したものである。



食草付近の林縁で休養中のホソオチョウ♂
羽化して間もない新鮮な固体であった。

1990年9月29日 撮影
場所・所沢市堀ノ内 以下同じ



ウマノスズクサ上の終令幼虫、旺盛な食欲で外敵を恐れることなく、日中葉上で堂々と摂食している。



食欲旺盛な多数の幼虫が、見事食草を食べつくし、ガレキとなってしまったウマノスズグサ。



食草付近の枯草、あるいは枯枝には、すでに羽化したホソオの羽化殻がみられる。何れも地面より10~15cmの低い場所であった。



食草の裏側で蛹化の準備をするホソオチョウの前蛹。



食草葉裏で蛹化したホソオチョウ。地面から約15cmほどの低い場所である。9月下旬から10月にかけて蛹化する蛹は、年内に羽化する蛹と越冬蛹とに別れる。羽化蛹は明るめで背面の突起は小さめである。越冬蛹は全体的に黒っぽく、背面の突起はトゲ状に鋭く尖っている。大きさもひと回り小さい。

1991年に入り、5月ごろより大勢の採集者が堀ノ内に入りこんだ。ホソオチョウの成虫、幼虫、卵と、めずらしさもてつだって多くのホソオチョウが採集の的となった。晴天の休日はもとより、くもりの日も卵や幼虫を採集に連日多くの人が訪れたとのことである。

そして、1991年9月7日に幼虫を観察したのが最後となった。この年もかなりの幼虫が観察されているので、翌年の1992年にもホソオが見られると期待していたのだが、ついに見ることができなかつた。

ホソオに代わり、ウマノスズグサで発見されるのは、ジャコウアゲハの幼虫であった。ホソオチョウの勢力に押されかなり衰退していたジャコウアゲハも、再び復活はじめたのである。

記録

1988年	9月18日	ジャコウアゲハ	幼虫多数観察
"	9月23日	ジャコウアゲハ	幼虫多数観察
"	"	ホソオチョウ	7幼採集
"	10月10日	ジャコウアゲハ	49蛹観察
1989年	7月30日	ジャコウアゲハ	5蛹観察
"	"	ホソオチョウ	2♂3♀採集
"	8月12日	ジャコウアゲハ	成虫数頭目撃 10卵観察
"	"	ホソオチョウ	20幼採集
1990年	9月 9日	ホソオチョウ	幼虫多数発生観察
"	"	ジャコウアゲハ	発見できず
"	9月24日	ホソオチョウ	30幼観察
"	9月29日	ホソオチョウ 1♂ 5蛹	終令幼虫多数観察
"	10月 7日	ホソオチョウ	終令5幼 3蛹
1991年	6月 8日	ホソオチョウ	2♂1♀採集 35卵観察
"	7月27日	ホソオチョウ	46幼観察
"	8月18日	ホソオチョウ	62幼観察
"	9月 7日	ホソオチョウ	80幼観察
1992年	6月28日	ジャコウアゲハ	15幼 10卵観察
"	7月 5日	ジャコウアゲハ	3幼 13卵観察
"	9月 6日	ジャコウアゲハ	5幼観察
"	9月13日	ジャコウアゲハ	25終令幼虫観察
1993年	7月23日	ジャコウアゲハ	8幼観察
"	8月15日	ジャコウアゲハ	2♂3♀採集 成虫多数目撃
1994年	2月 6日	ジャコウアゲハ	9蛹観察

以上のように、1992年以降ホソオチョウは見られなくなった。消滅の原因は人為的なものであるか、その他の原因からきているものかは定かでない。しかし、もともと生息していたジャコウアゲハは増え、もとの静かな狭山丘陵に戻ったのである。末筆ながら、調査に協力していただいた、中睦氏に心よりお礼申し上げる。

(じんく ぼみつお 入間市東藤沢8-38-6)

【訂正】

■ 寄せ蛾記70号 p. 1581-1590. 上原市郎: 埼玉県越谷市と周辺地域で記録したトンボ

- p. 1583, 12行目: 種は♂♀共前額 → 種は♂♀共後額
 p. 1585, 8行目: 特に翅胸前面条は → 特に前肩条は
 p. 1586, 26行目: ギンヤンマの記録地名で「須賀」 → 吉川町須賀
 同 32行目: 翅紋型 → 翅斑型
 同 33行目: 「増林総合体育館前の池」の次に “1♂,” を挿入.
 p. 1587, 24行目: 海外での生態は → 韓国での生態は
 同 同: 池の内周を飛ぶようなこともなく → 池の内周をハイスピードで飛翔して
 同 27行目: 翅紋型 → 翅斑型
 p. 1588, 7行目: それぞれ → それほど
 同 14行目: 「相模町: 1♂(未成熟) 1♂(未成熟)」 → 片方の“1♂(未成熟)”を削除.
 同 34行目: また全ての個体が飛来したのでもないようで → なく
 p. 1589 24行目: 鶴殿清文 → 鶴殿清文 他

また、報文全体のなかで、記録地名(大字名)『越谷』は『越ヶ谷』に訂正。

上記訂正箇所に関しては、一部当方の一方的な間違いで、池田和隆氏にご迷惑をおかけしました。深くお詫びいたします。

■ 寄せ蛾記70号 p. 1599-1600. 上原市郎: “カゲヤンマ”と“スミカゲトンボ”

- p. 1599の表題: “スミカゲトンボ” → “スミガケトンボ”
 p. 1600, 6行目: コシボソトンボ → コシボソヤンマ
 同 7行目: “スミカゲトンボ” → “スミガケトンボ”
 同 28行目: 1989 → 1988

また、裏表紙の目次の同報文タイトル スミカゲトンボ → スミガケトンボに訂正。

■ 寄せ蛾記70号 pp. 1601-1602. 石蔵 拓: 1993年採集観察日記

上記報文について、筆者自身で同定および入力したものの中にも多数のミスがありましたのでここに訂正させていただきます。尚、本報文において、西山明氏に同定を依頼した標本は一部にすぎず、氏よりその指摘を受け、改めて全標本の同定をしていただきました。ご迷惑をおかけした同氏に紙面をかりてお詫び致します。(石蔵 拓)

なお、下記のリストで、*印は筆者入力ミス、☆印は筆者同定ミスによる。

- p. 1601 ☆上から13行目 ミヤマハンミョウ → ニワハンミョウ
 *上から14行目 アカオサムシ → アオオサムシ
 ☆下から10行目 ヒメヨツスジハナカミキリ → ヨツスジハナカミキリ
 *下から9行目 ニセビロードカミキリ → ニセビロウドカミキリ
 ☆下から1行目 コフキコガネ → オオコフキコガネ
 p. 1602 *上から1行目 イスガキチョウ → イシガキチョウ
 上から3行目 胸のホシがない → 上翅の肩部にホシがない
 *上から9行目 イスガキチョウ → イシガキチョウ
 ☆上から17行目 マルクビヒラタカミキリ → サビカミキリ
 ☆下から16行目 ヒメヨツスジハナカミキリ → ヨツスジハナカミキリ
 下から13行目 ゲンジホタルは削除します。

■ 寄せ蛾記69号 p. 1543-1551. 碓井 徹: 中川水系調査で得られたトンボ類の記録。

- p. 1549 マユタテアカネの項、越谷市大戸(第六天神社) → 岩槻市大戸(第六天神社)

埼玉県内におけるトンボの採集記録若干
斎藤 洋一

1993年に埼玉県内で若干の調査をし、採集した蜻蛉類について報告する。現地でお世話になり、タカネトンボの幼虫を恵与いただいた済み鈴木幸氏に感謝お礼申し上げる。

なお、エゾトンボ科の幼虫については、羽化を待って同定した。

アオイトトンボ科

ホソミオツネントンボ

入間市狭山湖 1♀, 14.Mar.1993

カワトンボ科

ヒガシカワトンボ

日高市台 11幼虫, 21.Mar.1993

入間市狭山湖 1♀, 9.May.1993

所沢市堀之内 5♂(f. ogumai), 5♀,
9.May.1993大里郡寄居町末野 3♂(f. costalis 2
♂; f. ogumai 1♂), 3♀, 16.June.
1993所沢市堀之内では、他に多数目撲したが、
♂はすべて透明型(f. ogumai)で、橙色型
(f. costalis)はまったく見られなかった。

サナエトンボ科

ヤマサナエ

日高市台 1幼虫, 21.Mar.1993

入間市狭山湖 1幼虫(確認後放す), 9
.May.1993

コサナエ

秩父市久那 3♂3♀, 多数羽化殻, 4
.May.1993

オニヤンマ科

オニヤンマ

入間市狭山湖 1幼虫, 14.Mar.1993

ヤンマ科

ヤブヤンマ

入間市狭山湖 2幼虫, 9.May.1993

ミルンヤンマ

入間市狭山湖 7幼虫, 14.Mar.1993

日高市台 2幼虫, 21.Mar.1993

ルリボシヤンマ

入間市狭山湖 9幼虫, 9.May.1993

クロスジギンヤンマ

秩父市久那 1羽化殻(♀), 4.May.1993

エゾトンボ科

オオエゾトンボ

入間市狭山湖 6幼虫(4♂2♀羽化), 9
.May.1993

ハネビロエゾトンボ

日高市台 1幼虫(♀羽化), 21.Mar.1993

タカネトンボ

日高市台 1幼虫(♂羽化), 21.Mar.

1993, 鈴木幸氏採集。

入間市狭山湖 44幼虫(27♂17♀), 9

.May.1993

トンボ科

シオヤトンボ

入間市狭山湖 1♂, 9.May.1993

オオシオカラトンボ

入間市狭山湖 2幼虫, 9.May.1993

大里郡寄居町末野 1♀, 4羽化殻,

16.June.1993

(さいとう よういち

〒132 東京都江戸川区平井 5-26-12)

日高市でコツバメを採集

斎藤 洋一

1993年3月21日、日高市台でコツバメ1♂を採集したので報告する。比較的早い記録と思われる。

(さいとう よういち

〒132 東京都江戸川区平井 5-26-12)

寄せ蛾記 71号 目次

中川利勝：続 狹山丘陵のオオムラサキ	1615-1622
上原市郎：埼玉県浦和市秋ヶ瀬で記録したトンボ	1623-1629
野沢雅美：埼玉県産半翅類雑記(15)	1629
小田博：埼玉県産甲虫類の分布資料[3]	1630-1642
上原市郎：千葉県野田市とその隣接地域で記録したトンボ	1643-1645
利根川雅実・築比地秀夫：県民の森採集調査記録	1646
新井裕：成熟期を主としたミルンヤンマ成虫の生態	1647-1652
藤多文雄：飯能市長沢のハムシ	1653-1656
上原市郎：東京都練馬区練馬及びその周辺で出会った虫たちの想い出	1657-1658
萩原昇：埼玉県東部地域の蛾類…そのI	1659-1665
神久保美津夫：所沢市堀之内のジャコウアゲハとホソオチョウの推移	1666-1668
訂正 [石藏拓・上原市郎・碓井徹]	1669
斎藤洋一：埼玉県内におけるトンボの採集記録若干	1670
斎藤洋一：日高市でコツバメを採集	1670
会報	1670

(埼玉昆虫談話会、1994年3月30日 発行 56ページ)